

令和4年度

**医療介護総合確保促進法に基づく
三重県計画**

**令和5年1月
三重県**

1. 計画の基本的事項

(1) 計画の基本的な考え方

昨今の急速な高齢化の進行とともに、人口減少時代を迎え、社会構造の多様化・複雑化が進む中、医療・介護を取り巻く環境が大きく変わりつつあり、できる限り住み慣れた地域で、誰もが安心して生活できる環境の整備が求められています。

こうした中、平成 25 年 8 月に取りまとめられた社会保障制度改革国民会議の報告書等を受け、平成 26 年 6 月に医療介護総合確保推進法が成立し、地域の実情・特性に応じた地域包括ケアシステムの構築を見据えた、医療・介護改革がスタートしました。

本県においても、このような変化に対応すべく、市町における医療・介護の連携を促進するとともに、平成 29 年 3 月に地域医療構想を策定し、急性期から回復期、在宅に至るまでの、地域ごとの効率的で質の高い医療提供体制の構築を進めていくこととしています。

本計画において、医療分は、令和 3 年度県計画の取組を中心に構成しつつも、本県の課題に対応した新たな提案事業を盛り込み、地域医療構想および平成 30 年度からスタートしている第 7 次医療計画の着実な推進をめざします。また、介護分では、令和 3 年 3 月に策定した「みえ高齢者元気・かがやきプラン（第 8 期三重県介護保険事業支援計画および第 9 次三重県高齢者福祉計画）」等に基づき計画的に取組を進めていきたいと考えています。

(2) 都道府県医療介護総合確保区域の設定

本県における医療・介護の総合的な確保の促進を図るべき区域（以下「医療介護総合確保区域」という。）については、地域医療構想の構想区域と整合性をとる形で次の 8 地域とします。

- ① 桑員地域（桑名市、いなべ市、木曾岬町、東員町）
- ② 三泗地域（四日市市、菰野町、朝日町、川越町）
- ③ 鈴亀地域（鈴鹿市、亀山市）
- ④ 津地域（津市）
- ⑤ 伊賀地域（名張市、伊賀市）
- ⑥ 松阪地域（松阪市、多気町、明和町、大台町、大紀町）
- ⑦ 伊勢志摩地域（伊勢市、鳥羽市、志摩市、玉城町、度会町、南伊勢町）
- ⑧ 東紀州地域（尾鷲市、熊野市、紀北町、御浜町、紀宝町）

2 次医療圏及び老人福祉圏域と同じ

2 次医療圏及び老人福祉圏域と異なる

（異なる理由：地域包括ケアシステムの構築にあたっては、市町が中心となり、医療・介護関係者等の多職種とともに、その整備を進めているところです。こうしたことから、本県では、医療介護総合確保区域として、既存の二次保健医療圏より小さい範囲が適当であると考えています。）

(3) 計画の目標の設定等

1. 目標

○本県の医療と介護の総合的な確保に関する目標

<医療関係>

本県では、平成 29 年 3 月に策定した地域医療構想に基づき、将来の病床数の必要量を見据えた医療機能の分化・連携を進めています。また、安心して暮らすことのできる地域づくりの観点からも、在宅医療の充実、地域包括ケアシステムの構築を進めているところです。

なお、本県においては、医療従事者数（人口 10 万対）が全国下位に位置しているなど、依然としてその確保が極めて重大な課題であることから、平成 30 年度から開始された新たな専門医制度の動向を見据えながら、医療従事者の県内定着を図るとともに、看護職員についても離職者の復職支援等の各種事業を展開していくことが必要です。

本計画では、こうした地域の現状等をふまえ、地域医療構想に基づき将来に必要となる医療機能ごとの病床数の他、医師数については三重県医師確保計画に基づく目標数値を、看護職員数については三重県看護職員需給推計に基づく目標数値を、訪問診療件数及び歯科診療所数については第 7 次医療計画目標値を引き続きめざすこととします。

【定量的な目標値】

- ・地域医療構想に基づき、2040 年までを見据えて 2025 年に必要となる医療機能ごとの病床数※

高度急性期	1,437 床
急性期	4,376 床
回復期	4,579 床
慢性期	3,674 床

※ 2025 年以降に医療需要のピークが到来する構想区域があることをふまえ、各区域のピーク時の必要病床数（三泗、鈴亀：2040 年、桑員：2035 年、津、伊賀、松阪：2030 年、伊勢志摩、東紀州：2025 年）を 2025 年に整備することをめざす。

- ・医師数（人口 10 万対） 223.4 人（平成 30 年）→240.5 人（令和 5 年）
- ・看護職員数 23,610 人（令和 2 年）→25,924 人（令和 7 年）
- ・訪問診療件数 10,375 件/月（令和 2 年度）→9,427 件/月（令和 5 年度）
- ・在宅療養支援歯科診療所またはかかりつけ歯科医機能強化型診療所の届出をしている歯科診療所数 213 施設（令和元年度）→219 施設（令和 5 年度）

<介護関係>

本県の高齢化率は、令和 2 年 10 月 1 日現在で 29.9%となっており、将来においても全国平均を上回って推移すると推計されています。また今後、認知症高齢者や中重度の要介護高齢者、一人暮らしの高齢者の増加も見込まれることから、それら的高齢者が住み慣れた地域で生活が維持できるように、地域の特性に応じた多様なサービスが適切に受けられる体制の介護施設の整備等を進めていく必要があります。

同時に、介護従事者の確保と定着が重大な課題であることから、これまでの取組を継続しつつ、多様な人材の参入促進を図るとともに、介護職員が定着するための環境整備を行うことで、介護職員の量的な確保を図る必要があります。あわせて、介護ニーズの高度化・多様化に対応できるよう、介護人材の質の向上を進めていく必要があります。

本計画では、こうした現状等をふまえ、以下の整備等を進めていきます。

【定量的な目標値】

- ・地域密着型介護老人福祉施設及び併設のショートステイ 1施設 (39床)
- ・認知症高齢者グループホーム 4事業所 (63床)
- ・定期巡回・随時対応型訪問介護・看護事業所 1事業所
- ・看護小規模多機能型居宅介護事業所 1事業所 (9床)
- ・県福祉人材センターの事業による介護事業所等への就職者数 300名

また、厚生労働省告示「地域における医療及び介護を総合的に確保するための基本的な方針」第4に示された事業については、本計画において、以下のような取組を進めていくこととします。

①地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する事業

平成29年3月に策定した地域医療構想の達成に向け、地域医療構想調整会議において、その具体化に向けた検討を進め、病床の機能分化・連携を推進していく必要があります。

このため、地域医療構想調整会議において、構想区域内の医療機関の診療実績や将来の医療需要の動向をふまえて、公立・公的病院を中心に、その担うべき役割や、持つべき医療機能ごとの病床数等の具体的対応方針の議論を深化させていくこととします。なお、地域医療構想調整会議については、市町や地域包括支援センター等の関係者も交えた体制とし、急性期・回復期後の患者の在宅医療・介護との連携についても検討していくこととしています。

病床の機能分化・連携に関して、病床機能報告制度を補完する定量的基準を導入し、客観的な基準により各医療機能の充足度を評価したところ、回復期の機能を担う病床については、津、伊勢志摩、東紀州の3区域では充足したものの、これ以外の区域は引き続き不足状況にあること、また、慢性期の機能を担う病床について、三河、鈴鹿、津、伊賀、伊勢志摩の5区域において不足状況にあることから、個々の医療機関が担うべき役割等の議論をふまえつつ、過剰な機能からこれらの不足する機能への転換を促進していくこととします。また、定量的基準の導入による医療機能の充足度の客観的評価や医療機関の自主的な機能転換により、各医療機能のバランスは必要病床数に近づいてきた一方で、病床総数については、依然として過剰な区域が多いため、病床規模の適正化に向けた取組も支援していきます。

さらに、地域で在宅医療・介護サービスを効率的・効果的に行うことができるよう、情報ネットワークシステムの整備を検討することが必要です。この際、地域ごとに異なるシステムを導入するのではなく、可能な限り互換性を考慮して全県的な形で導入することが望ましいと考えています。情報ネットワークシステムについては、これまで地域医療再生基金により、急性期医療にかかるネットワークシステムの構築を図ってきたところであり、同システムの活用を基本軸に検討していくこととしています。さらに、全県域で統一的なサーバーシステムを整備し、個人情報保護に配慮しつつ、研究等に利活用しやすい仕組みや災害にも耐える体制を構築することも重要です。

①-2 地域医療構想の達成に向けた病床数又は病床の機能の変更に関する事業

地域医療構想の達成に向け、これまで病床の機能分化・連携に関して、病床機能報告制度を補完する定量的基準を導入し、客観的な基準により各医療機能の充足度の客観的評価

や医療機関の自主的な機能転換による医療機能の分化連携を進めてきたところですが、病床総数については依然として過剰な区域が多く、現在の地域の医療需要に十分に配慮しつつ、病床数の減少を伴う病床機能再編をした医療機関に対する支援を進めていきます。

②居宅等における医療の提供に関する事業

各市町において、地域の課題抽出や対応策の検討、多職種の参加による事例検討会等の実施、入退院支援マニュアル等の切れ目のない体制構築の検討、情報共有のためのICTの活用、医療・介護関係者からの相談対応や連携推進等を担う拠点の設置などの取組が進められています。

各市町の在宅医療・介護連携の現状や課題について把握するとともに、入退院支援に関わる専門職等を対象とする連携強化に係る研修、県内の多職種を対象とした県内外の先行的取組について情報交換する報告会の開催等に取り組みます。

また、郡市医師会が取り組む在宅医療体制の整備や普及啓発について支援を行います。

訪問看護支援センターの設置や、小規模で研修に参加することが難しいステーションへのアドバイザーの派遣、訪問看護事業所の相談業務等を強化する取組を進めます。

③介護施設等の整備に関する事業

これまで、「介護基盤緊急整備等特別対策事業」および「介護職員処遇改善等臨時特例基金事業」により地域密着型サービス施設の整備を進めてきたところですが、要介護高齢者や認知症高齢者の増加が見込まれる中、さらなる施設整備の必要があります。

このため、引き続き、地域の特性に応じた柔軟なサービスを提供することができるよう、地域密着型特別養護老人ホームや認知症高齢者グループホーム等の地域密着型サービス施設等の整備を支援する必要があります。

④医療従事者の確保に関する事業

医師については、「医師不足の影響を当面緩和する取組」のほか、三重大学医学部臨時定員増、地域枠入学制度、医師修学資金貸与制度等の取組により「中長期的な視点に立った取組」を進めています。今後は、これらの対策と併せて、医師の県内定着を図る観点から、県内におけるキャリア形成支援を図るための取組を関係者が一体となって進めていくことが必要です。

具体的には、三重県医師確保計画に基づき、地域医療支援センターにおいて、若手医師の希望をふまえながら新専門医制度に対応したキャリア形成プログラムを策定し運用していくことが重要です。

その他、今後県内で増加が見込まれている女性医師にとっても働きやすいよう、「女性が働きやすい医療機関」認証制度などに取り組むことにより、女性の医療従事者が働きやすい職場づくりを進めていくことが必要です。

また、不足する産科・小児科医の確保を図るため、産科医療機関等の医師の処遇改善に取り組む医療機関を支援するとともに、小児救急医療拠点病院への運営に必要な経費に対する支援を行うことで、小児救急医療体制の充実を図っていく必要があります。

看護職員については、修学資金貸与制度の運用や、看護師養成所等への運営支援、新人看護職員の研修体制構築支援等により県内における育成・確保を進めています。今後は、職員の県内定着・離職防止を図るとともに、離職者の復職支援を図ることが重要です。

このため、勤務先となる県内の医療機関における魅力ある環境づくりを推進していくことが必要です。あわせて、潜在看護師や復職支援にかかる情報が一元化され、必要な情報

発信が行われるよう、関係機関とも連携しながら全県的な情報提供体制を整備しておくことが望ましいと考えています。

その他、看護職員をはじめとする医療従事者の確保のためには、院内保育所の整備が重要です。このため、現場のニーズをふまえつつ、引き続き支援を行います。

医療機関に対しては、継続的な活動として勤務環境改善に取り組んでいけるよう、平成26年度に設置した医療勤務環境改善支援センターにおいて、「勤務環境改善マネジメントシステム」の導入支援をはじめとして、引き続き総合的な支援を行います。

また、令和7（2025）年に向けて、不足する訪問看護人材の確保・育成が必要です。

⑤介護従事者の確保に関する事業

これまで、「障害者自立支援対策臨時特例基金事業」および「緊急雇用創出事業臨時特例基金事業」により、求人と求職のマッチング支援や学生・教職員等への介護に関する魅力発信、他業種からの再就業のための介護未経験者への研修支援等に取り組んできました。今後は、行政だけではなく事業者団体、職能団体など多様な主体が中心となって、学生・離職者・高齢者・外国人など、それぞれに応じた介護の情報や魅力を伝えるなどにより、さらなる参入促進を図る必要があります。

また、介護人材の質の向上については、これまでも介護職員の定着支援や介護支援専門員、認知症ケアに携わる人材育成などに取り組んできたところですが、量的に充分であるとはいえません。

今後、高齢化の進展に伴い、要介護認定者や認知症高齢者の増加が見込まれる中、高齢者の多様なニーズに応えるためには、今般の介護保険制度改正を受けて、認知症地域支援推進員や生活支援コーディネーターなど多様な人材を育成するとともに、質の向上を図る必要があります。

さらに、これまでの取組に加え、介護職員の離職防止・定着促進のため、勤務環境の改善に取り組む介護事業者を支援する必要があります。具体的には、特に離職率が高い新人介護職員の育成制度導入支援や、魅力ある職場づくりのための管理者等への支援、介護職員の負担軽減のための介護ロボット導入支援などに取り組んでいく必要があります。

⑥勤務医の労働時間短縮に向けた体制の整備に関する事業

2024年4月からの医師に対する時間外労働の上限規制の適用開始までの間に、地域での医療提供体制を確保しつつ、医師の労働時間短縮を強力に進めていく必要があります。

このため、特に勤務医が働きやすく働きがいのある職場づくりに向けて、「勤務医の負担の軽減及び処遇の改善に資する計画」に基づく医師の労働時間短縮に向けた総合的な取組として実施する他職種も含めた医療機関全体の効率化やICT等による業務改革などに要する費用を支援します。

2. 計画期間

令和4年度から令和7年度まで

桑員地域

1. 目標

①地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する目標

桑員区域におけるピーク時の機能別必要病床数と病床機能報告で報告のあった医療機能を定量的基準により補正した病床数と比較すると、高度急性期、急性期及び慢性期につ

いてはほぼ充足し、回復期で189床の不足、総数ではほぼ充足となっていることから、各医療機関の診療実績等の分析を行い、将来の確保見込みを判断しつつ、回復期病床の充足に向けた取組を促進する。

【定量的な目標値】

地域医療構想に基づき、2040年までを見据えて2025年に必要となる医療機能ごとの病床数*

高度急性期 119床

急性期 536床

回復期 604床

慢性期 417床

※ 桑員区域は2035年に医療需要のピークが到来することをふまえ、ピーク時の必要病床数を2025年に整備することをめざす。

③介護施設等の整備に関する事業

地域包括ケアシステムの構築に向けて、第8期三重県介護保険事業支援計画において予定している地域密着型サービス施設等の整備を行う。

【定量的な目標値】

- ・認知症高齢者グループホーム 2施設 (27床)
- ・定期巡回・随時対応型訪問介護・看護事業所 1施設

2. 計画期間

令和4年度から令和7年度まで

三泗地域

1. 目標

①地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する目標

三泗区域におけるピーク時の機能別必要病床数と病床機能報告で報告のあった医療機能を定量的基準により補正した病床数と比較すると、高度急性期は充足、急性期は249床の過剰、回復期及び慢性期についてはそれぞれ69床、115床の不足、総数では134床の過剰となっていることから、各医療機関の診療実績等の分析を行い、将来の確保見込みを判断しつつ、急性期から回復期・慢性期への機能転換及び病床規模の適正化に向けた取組を促進する。

【定量的な目標値】

地域医療構想に基づき、2040年までを見据えて2025年に必要となる医療機能ごとの病床数*

高度急性期 303床

急性期 749床

回復期 925床

慢性期 664床

※ 三泗区域は2040年に医療需要のピークが到来することをふまえ、ピーク時の必要病床数を2025年に整備することをめざす。

③介護施設等の整備に関する事業

地域包括ケアシステムの構築に向けて、第8期三重県介護保険事業支援計画において予定している地域密着型サービス施設等の整備を行う。

【定量的な目標値】

- ・地域密着型介護老人福祉施設及び併設のショートステイ 1施設 (39床)
- ・認知症高齢者グループホーム 1施設 (18床)

2. 計画期間

令和4年度から令和7年度まで

鈴亀地域

1. 目標

①地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する目標

鈴亀区域におけるピーク時の機能別必要病床数と病床機能報告で報告のあった医療機能を定量的基準により補正した病床数で比較すると、高度急性期は95床の不足、急性期は214床の過剰、回復期及び慢性期についてはそれぞれ113床、82床の不足、総数ではほぼ充足となっていることから、各医療機関の診療実績等の分析を行い、将来の確保見込みを判断しつつ、急性期から回復期・慢性期への機能転換に向けた取組を促進する。

【定量的な目標値】

地域医療構想に基づき、2040年までを見据えて2025年に必要となる医療機能ごとの病床数※

高度急性期	159床
急性期	560床
回復期	522床
慢性期	526床

※ 鈴亀区域は2040年に医療需要のピークが到来することをふまえ、ピーク時の必要病床数を2025年に整備することをめざす。

③介護施設等の整備に関する事業

令和4年度は、整備計画なし。

2. 計画期間

令和4年度から令和7年度まで

津地域

1. 目標

①地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する目標

津区域におけるピーク時の機能別必要病床数と病床機能報告で報告のあった医療機能を定量的基準により補正した病床数で比較すると、高度急性期、急性期及び回復期はそれぞれ187床、217床、113床の過剰、慢性期は124床の不足、総数では495床の過剰となっていることから、各医療機関の診療実績等の分析を行い、将来の確保見込みを判断しつ

つ、過剰な機能から慢性期への機能転換及び病床規模の適正化に向けた取組を促進する。

【定量的な目標値】

地域医療構想に基づき、2040年までを見据えて2025年に必要となる医療機能ごとの病床数※

高度急性期	311床
急性期	938床
回復期	908床
慢性期	758床

※ 津区域は2030年に医療需要のピークが到来することをふまえ、ピーク時の必要病床数を2025年に整備することをめざす。

③介護施設等の整備に関する事業

令和4年度は、整備計画なし。

2. 計画期間

令和4年度から令和7年度まで

伊賀地域

1. 目標

①地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する目標

伊賀区域におけるピーク時の機能別必要病床数と病床機能報告で報告のあった医療機能を定量的基準により補正した病床数と比較すると、急性期は459床の過剰、高度急性期、回復期及び慢性期はそれぞれ78床、161床、155床の不足、総数では84床の過剰となっていることから、各医療機関の診療実績等の分析を行い、将来の確保見込みを判断しつつ、急性期から回復期・慢性期への機能転換及び病床規模の適正化に向けた取組を促進する。

【定量的な目標値】

地域医療構想に基づき、2040年までを見据えて2025年に必要となる医療機能ごとの病床数※

高度急性期	78床
急性期	293床
回復期	339床
慢性期	231床

※ 伊賀区域は2030年に医療需要のピークが到来することをふまえ、ピーク時の必要病床数を2025年に整備することをめざす。

③介護施設等の整備に関する事業

令和4年度は、整備計画なし。

2. 計画期間

令和4年度から令和7年度まで

松阪地域

1. 目標

①地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する目標

松阪区域におけるピーク時の機能別必要病床数と病床機能報告で報告のあった医療機能を定量的基準により補正した病床数で比較すると、急性期は 281 床の過剰、回復期は 165 床の不足、高度急性期、慢性期はほぼ充足、総数では 194 床の過剰となっていることから、各医療機関の診療実績等の分析を行い、将来の確保見込みを判断しつつ、急性期から回復期への機能転換及び病床規模の適正化に向けた取組を促進する。

【定量的な目標値】

地域医療構想に基づき、2040 年までを見据えて 2025 年に必要となる医療機能ごとの病床数※

高度急性期	222 床
急性期	651 床
回復期	606 床
慢性期	399 床

※ 松阪区域は 2030 年に医療需要のピークが到来することをふまえ、ピーク時の必要病床数を 2025 年に整備することをめざす。

③介護施設等の整備に関する事業

令和 4 年度は、整備計画なし。

2. 計画期間

令和 4 年度から令和 7 年度まで

伊勢志摩地域

1. 目標

①地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する目標

伊勢志摩区域におけるピーク時の機能別必要病床数と病床機能報告で報告のあった医療機能を定量的基準により補正した病床数で比較すると、高度急性期はほぼ充足、急性期及び回復期はそれぞれ 126 床、143 床の過剰、慢性期は 114 床の不足、総数では 201 床の過剰となっていることから、各医療機関の診療実績等の分析を行い、将来の確保見込みを判断しつつ、過剰な機能から慢性期への機能転換及び病床規模の適正化に向けた取組を促進する。

【定量的な目標値】

地域医療構想に基づき、2040 年までを見据えて 2025 年に必要となる医療機能ごとの病床数※

高度急性期	216 床
急性期	527 床
回復期	501 床
慢性期	443 床

※ 伊勢志摩区域は 2025 年に医療需要のピークが到来することをふまえ、ピーク時の必要病床数を 2025 年に整備することをめざす。

③介護施設等の整備に関する事業

令和4年度は、整備計画なし。

2. 計画期間

令和4年度から令和7年度まで

東紀州地域

1. 目標

①地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する目標

東紀州区域におけるピーク時の機能別必要病床数と病床機能報告で報告のあった医療機能を定量的基準により補正した病床数で比較すると、高度急性期は29床の不足、急性期、回復期及び慢性期はそれぞれ180床、53床、69床の過剰、総数では297床の過剰となっていることから、各医療機関の診療実績等の分析を行い、将来の確保見込みを判断しつつ、病床規模の適正化に向けた取組を促進する。

【定量的な目標値】

地域医療構想に基づき、2040年までを見据えて2025年に必要となる医療機能ごとの病床数*

高度急性期	29床
急性期	122床
回復期	174床
慢性期	236床

※ 東紀州区域は2025年に医療需要のピークが到来することをふまえ、ピーク時の必要病床数を2025年に整備することをめざす。

③介護施設等の整備に関する事業

令和4年度は、整備計画なし。

2. 計画期間

令和4年度から令和7年度まで

(4) 目標の達成状況

別紙「事後評価」のとおり。

3. 計画に基づき実施する事業

- ・ 事業区分 1-1：地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する事業
- ・ 事業区分 1-2：地域医療構想の達成に向けた病床数又は病床の機能の変更に関する事業
- ・ 事業区分 2：居宅等における医療の提供に関する事業
- ・ 事業区分 4：医療従事者の確保に関する事業
- ・ 事業区分 6：勤務医の労働時間短縮に向けた体制の整備に関する事業

事業の区分	I-1 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する事業			標準事業例	01
事業名	No	01	新規事業/継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 9,064 千円
	ICTを活用した地域医療ネットワーク基盤整備事業				
事業の対象となる医療介護総合確保区域	桑員区域、三泗区域、鈴亀区域、津区域、伊賀区域、松阪区域、伊勢志摩区域、東紀州区域				
事業の実施主体	県内医療機関				
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日				
背景にある医療・介護ニーズ	がんをはじめとした様々な疾病における地域連携クリティカルパスの円滑な運用及び、県全域をカバーする安心・安全かつ切れ目のない医療提供体制の充実のため、複数の医療機関の間でICTを活用した医療情報の共有を行うことが必要である。				
	アウトカム指標	三重医療安心ネットワークの延べ登録患者数 26,947 人 (R3.12) を 28,408 人 (R5.3) にする。			
事業の内容	三重県では現在「三重医療安心ネットワーク」が、急性期、回復期及びかかりつけ医を円滑につなげるために稼働していることから、このシステムの活用や互換性を担保しつつ、県内で急性期から在宅までのネットワークを構築するために必要となる医療機関等の設備整備等に対して補助する。				
アウトプット指標	三重医療安心ネットワークの参加施設数 327 か所 (R3.12) を 336 か所 (R5.3) にする。				
アウトカムとアウトプットの関連	三重医療安心ネットワークの参加施設数を拡大し、延べ登録患者数を増加させることで、それぞれの施設の有する機能に応じた役割分担による切れ目のない地域完結型医療の構築を図る。				
地域医療構想の関係性及びスケジュール(注1)					

事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円) 9,064	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注2)	公	(千円) 1,510
		基金	国(A)	(千円) 3,021		民	(千円) 1,511
			都道府県 (B)	(千円) 1,511			うち受託事業等 (再掲)(注3)
			計(A+B)	(千円) 4,532			(千円)
		その他(C)	(千円) 4,532				
備考(注4)	令和元年度基金残 4,532 千円充当						

事業の区分	I-1 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する事業				標準事業例	03	
事業名	No	02	新規事業／継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 121,179千円		
	がん診療体制整備事業						
事業の対象となる医療介護総合確保区域	桑員区域、三泗区域、鈴亀区域、津区域、伊賀区域、松阪区域、伊勢志摩区域、東紀州区域						
事業の実施主体	県内医療機関、緩和ケアネットワーク協議会、市町						
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日						
背景にある医療・介護ニーズ	がんは県民の死因の第1位であり、今後も増加していくと予想されるなか、がんの診断・治療を行う医療機関の設備整備に対して支援を行うとともに、県内各地域において、早期に適切な診断が受けられ、各病期や病態に応じて、在宅も含め高度かつ適切な医療を受けられる体制整備を行うことで、がん治療水準の向上及び均てん化を進め、地域医療構想の達成に向けて必要となる病床の機能分化・連携を進める。						
	アウトカム指標	がんによる年齢調整死亡率（令和2年度：66.7）を令和5年度に全国平均より10%低い状態にする。					
事業の内容	県民に質の高いがん医療を提供するため、がん診療施設・設備の整備に要する経費に対して補助するとともに、地域の在宅緩和医療を推進するための取組等に対して補助する。これらの取組により、県内のがん診療連携体制の機能分化・連携を推進する。						
アウトプット指標	県内のがん診療に関わる設備の整備を行う医療機関を4か所以上確保する。						
アウトカムとアウトプットの関連	県内医療機関のがん診療に関わる設備に要する経費を補助し、県内におけるがん医療提供体制を充実させることで、県内のがん医療水準の向上及び均てん化が進み、がんによる死亡者数が減少する。						
地域医療構想の関係性及びスケジュール(注1)							
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注2)	公	(千円)
				121,179			11,062
	基金	国 (A)		(千円)		民	(千円)
		都道府県 (B)		(千円)			9,162
		計 (A+B)		(千円)			うち受託事業等 (再掲) (注3)
その他 (C)		(千円)	90,842				
備考 (注4)	令和元年度基金残 30,337千円充当						

事業の区分	I-1 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する事業				標準事業例	05		
事業名	No	03	新規事業／継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 29,941千円			
	病床機能分化推進基盤整備事業							
事業の対象となる医療介護総合確保区域	桑員区域、三泗区域、鈴亀区域、津区域、伊賀区域、松阪区域、伊勢志摩区域、東紀州区域							
事業の実施主体	県内医療機関、三重県							
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日							
背景にある医療・介護ニーズ	地域医療構想で定める効果的・効率的な医療提供体制の実現を図るためには、地域で不足する医療機能の病床の整備や、病床規模の適正化を進めていくとともに、地域医療構想調整会議を活性化させる必要がある。							
	アウトカム指標	地域医療構想の進捗度（必要病床数と比較した総病床数と各医療機能の病床割合の進捗度）54.1%（令和2年度・定量的基準適用後）を、令和4年度70%、令和5年度までに79%にする。						
事業の内容	病床規模の適正化に必要となる施設整備等に対する補助を行う。また、各地域の地域医療構想調整会議に地域医療構想アドバイザーを派遣する。							
アウトプット指標	補助を活用し病床規模の適正化に取り組む施設数1か所を確保する。							
アウトカムとアウトプットの関連	医療機関に対して補助し、病床数を適正化させることで、地域医療構想で定めるあるべき医療提供体制に近づけることができる。							
地域医療構想の関係性及びスケジュール(注1)								
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費)における公民の別 (注2)	公	(千円)	
				29,941			10,045	
	基金	国 (A)		(千円)			民	(千円)
		都道府県 (B)		(千円)				5,023
		計 (A+B)		(千円)				15,068
その他 (C)		(千円)	14,873					
備考 (注4)	令和3年度基金残 15,068千円充当							

事業の区分	II 居宅等における医療の提供に関する事業				標準事業例	07					
事業名	No	04	新規事業／継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 10,000 千円						
	在宅医療体制整備推進事業										
事業の対象となる医療介護総合確保区域	桑員区域、三泗区域、鈴亀区域、津区域、伊賀区域、松阪区域、伊勢志摩区域、東紀州区域										
事業の実施主体	郡市医師会等										
事業の期間	令和4年4月1日 ～ 令和5年3月31日										
背景にある医療・介護ニーズ	住民が住み慣れた地域で安心して暮らすことができるようにするためには、病床の機能分化・連携を進めながら各地域において在宅医療体制の整備を図ることが必要である。										
	アウトカム指標	アウトカム指標：訪問診療件数を9,546件（令和3年度）から、10,000件（令和4年度）に増加させる。									
事業の内容	在宅医療関係者の資質向上研修や在宅医療参入のための医師向け研修などの人材育成や、在宅療養患者の病状急変時の在宅医と後方支援病院の連携や緊急往診等のしくみづくり等の急変時対応にかかる体制の構築、地域における医療と介護の連携体制の構築など、地域包括ケアシステムの構築を見据えた、郡市医師会等が取り組む地域の在宅医療提供体制の整備に対して補助する。										
アウトプット指標	補助事業を活用し在宅医療体制の整備に取り組んだ医師会数2か所（令和3年度実績）を4か所にする。										
アウトカムとアウトプットの関連	各地域における在宅医療に係る体制整備を推進することで、訪問診療件数の増加を図る。										
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	公 民	(千円)				
		基金	国(A)				(千円)	6,666	(千円)		
			都道府県(B)				(千円)			3,334	6,666
			計(A+B)				(千円)				
		その他(C)		(千円)			10,000	(千円)			
備考(注3)	令和3年度基金残9,000千円充当										

事業の区分	II 居宅等における医療の提供に関する事業				標準事業例	07		
事業名	No	05	新規事業／継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 500千円			
	医療的ケアを必要とする障がい児・者の受け皿整備事業							
事業の対象となる医療介護総合確保区域	桑員区域、三泗区域、鈴亀区域、津区域、伊賀区域、松阪区域、伊勢志摩区域、東紀州区域							
事業の実施主体	三重県							
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日							
背景にある医療・介護ニーズ	女性の晩婚化、出産年齢の高齢化などに伴いハイリスク分娩が増加する一方、医療の高度化により救命率は改善しており、医療的ケアを必要とする障がい児が増加する傾向にある。入院生活から在宅生活への移行後に、こうした障がい児・者及びその家族が地域で安心して在宅生活を送るための体制整備を行う必要がある。							
	アウトカム指標	医療的ケアを提供する障害福祉サービス等事業所（登録特定行為事業者（特定の者対象））数39事業所（令和4年1月末時点実績）から40事業所（令和4年度末実績）に増加する。						
事業の内容	障害福祉サービス等事業所や訪問看護事業所への在宅医療に必要な機器整備等を支援することで、医療的ケア児・者の緊急時等の受入体制の整備を促進する。							
アウトプット指標	医療的ケア児・者の緊急時の受入に対応するための事業所数（現状値32カ所を33カ所にする（令和4年度））。							
アウトカムとアウトプットの関連	障害福祉サービス等事業所等への在宅医療に必要な機器整備等を支援することにより、医療的ケア児・者が地域で安心して在宅生活を送るための体制構築において重要な役割を果たす「医療的ケアを提供する障害福祉サービス等事業所」の数が増加する。							
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円) 500	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	公 民	(千円) 0	
		基金	国(A)				(千円) 333	(千円) 333
			都道府県 (B)				(千円) 167	
			計(A+B)				(千円) 500	
		その他(C)		(千円) 0			うち受託事業等 (再掲)(注2) (千円) 0	
備考(注3)								

事業の区分	II 居宅等における医療の提供に関する事業				標準事業例	07
事業名	No	06	新規事業／継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 31,120 千円	
	小児在宅医療・福祉連携事業					
事業の対象となる医療介護総合確保区域	桑員区域、三泗区域、鈴亀区域、津区域、伊賀区域、松阪区域、伊勢志摩区域、東紀州区域					
事業の実施主体	三重大学医学部附属病院					
事業の期間	令和4年4月1日 ～ 令和5年3月31日					
背景にある医療・介護ニーズ	女性の晩婚化、出産年齢の高齢化などに伴いハイリスク分娩が増加する一方、医療の高度化により救命率は改善しており、医療的ケアが必要な小児が増加する傾向にある。入院生活から在宅生活への移行後に、こうした小児が地域へ戻り安心して在宅生活を送るための体制整備が必要である。					
	アウトカム指標	アウトカム指標：NICU入院児の平均入院期間 13.9 日（平成 30 年度実績）を、11.9 日（令和 4 年度実績）に短縮する。				
事業の内容	医療的ケア児の実数及び生活実態調査の実施や、小児在宅医療に係る人材育成、医療的ケアを必要とする重症児に対するレスパイト・短期入所事業の拡充に取り組む事業へ補助する。					
アウトプット指標	小児在宅医療に係る研究会及び医療・福祉・教育関係施設に従事する看護師を対象とした研修会の参加者数延べ 300 人以上を確保する。					
アウトカムとアウトプットの関連	医療・福祉・教育関係者のネットワークを構築し、退院後に地域で安心して在宅生活を送るための体制を整備することで、在宅移行の円滑化を図り、NICU入院児の平均入院期間の短縮を図る。					
事業に要する費用の額	金額	総事業費		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	(千円)
		(A+B+C)		31,120		10,373
	基金	国 (A)	(千円)	15,560	うち受託事業等 (再掲) (注2) (千円)	
		都道府県 (B)	(千円)			5,187
		計 (A+B)	(千円)			
その他 (C)	(千円)	15,560				
備考 (注3)						

事業の区分	II 居宅等における医療の提供に関する事業				標準事業例	09				
事業名	No	07	新規事業／継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 557 千円					
	三重県在宅医療推進懇話会の運営									
事業の対象となる医療介護総合確保区域	桑員区域、三泗区域、鈴亀区域、津区域、伊賀区域、松阪区域、伊勢志摩区域、東紀州区域									
事業の実施主体	三重県									
事業の期間	令和4年4月1日 ～ 令和5年3月31日									
背景にある医療・介護ニーズ	住民が住み慣れた地域で安心して暮らすことができるようにするためには、病床の機能分化・連携を進めながら各地域において在宅医療体制の整備を図ることが必要である。									
	アウトカム指標	アウトカム指標：訪問診療件数を9,546件（令和3年度）から、10,000件（令和4年度）に増加させる。								
事業の内容	地域における包括的かつ継続的な在宅医療提供体制の構築に向けた検討・協議を行い、在宅医療の体制整備の推進を図る。									
アウトプット指標	懇話会の開催回数2回以上を確保する。									
アウトカムとアウトプットの関連	在宅医療に係る体制整備を推進することで、訪問診療件数の増加を図る。									
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	公	(千円)			
				557			371			
		基金	国 (A)			(千円)		民	(千円)	
			都道府県 (B)			(千円)				186
			計 (A+B)			(千円)				557
その他 (C)		(千円)								
備考 (注3)										

事業の区分	II 居宅等における医療の提供に関する事業				標準事業例	10		
事業名	No	08	新規事業／継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 1,092 千円			
	保健師ネットワーク体制強化事業							
事業の対象となる医療介護総合確保区域	桑員区域、三泗区域、鈴亀区域、津区域、伊賀区域、松阪区域、伊勢志摩区域、東紀州区域							
事業の実施主体	三重県							
事業の期間	令和4年4月1日 ～ 令和5年3月31日							
背景にある医療・介護ニーズ	自宅での療養を望む要介護者等ができる限り住み慣れた地域で生活しながら医療を継続するため、保健師等が保健、医療、福祉、介護等の各種サービスの総合的な調整を行うことができるようネットワーク体制の強化及び人材育成が必要である。							
	アウトカム指標	アウトカム指標：訪問診療件数を9,546件（令和3年度）から、10,000件（令和4年度）に増加させる。						
事業の内容	県民が住み慣れた地域で生活しながら在宅医療を受けられるよう県及び市町保健師のネットワークを強化し、地域ごとの多職種との連携体制の構築を推進する。また地域の特性を踏まえた保健活動の展開ができるよう保健師の資質向上を行う。							
アウトプット指標	中堅リーダー技術研修 1回、保健所等におけるネットワーク会議・研修会の開催回数1回以上を確保する。							
アウトカムとアウトプットの関連	保健師等の資質向上を図り、ネットワーク体制が強化されることで、地域で生活しながら療養出来る県民（訪問診療を受けている県民）が増える。							
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	(千円)		
		基金	国 (A)	(千円)		民	(千円)	
			都道府県 (B)	(千円)			うち受託事業等 (再掲) (注2)	(千円)
			計 (A+B)	(千円)				(千円)
		その他 (C)	(千円)	0				
備考 (注3)								

事業の区分	II 居宅等における医療の提供に関する事業				標準事業例	11			
事業名	No	09	新規事業／継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 4,494 千円				
	在宅医療普及啓発事業								
事業の対象となる医療介護総合確保区域	桑員区域、三泗区域、鈴亀区域、津区域、伊賀区域、松阪区域、伊勢志摩区域、東紀州区域								
事業の実施主体	三重県（郡市医師会委託）								
事業の期間	令和4年4月1日 ～ 令和5年3月31日								
背景にある医療・介護ニーズ	住民が住み慣れた地域で安心して暮らすことができるようにするためには、病床の機能分化・連携を進めながら各地域において在宅医療体制の整備を図ることが必要である。								
	アウトカム指標	アウトカム指標：訪問診療件数を9,546件（令和3年度）から、10,000件（令和4年度）に増加させる。							
事業の内容	県内の各地域において、県民の在宅医療に対する理解を深めるため、自分らしく最期を迎えるために人生の最期の過ごし方について考える機会を提供する等、在宅医療や在宅看取りの講演会による普及啓発事業を実施する。								
アウトプット指標	各二次医療圏域で1回以上の普及啓発事業を実施する。								
アウトカムとアウトプットの関連	地域住民に対し在宅医療に係る啓発を行うことで、在宅医療に係る体制整備を推進し、訪問診療件数の増加を図る。								
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	公 民	(千円)		
		基金	国(A)				(千円)	うち受託事業等 (再掲)(注2)	(千円)
			都道府県(B)				(千円)		2,996
			計(A+B)				(千円)		4,494
		その他(C)		(千円)			2,996		
備考(注3)	令和2年度基金残172千円充当								

事業の区分	II 居宅等における医療の提供に関する事業				標準事業例	11	
事業名	No	10	新規事業／継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 5,553 千円		
	多職種連携体制整備事業						
事業の対象となる医療介護総合確保区域	桑員区域、三泗区域、鈴亀区域、津区域、伊賀区域、松阪区域、伊勢志摩区域、東紀州区域						
事業の実施主体	三重県（県医師会等委託）						
事業の期間	令和4年4月1日 ～ 令和5年3月31日						
背景にある医療・介護ニーズ	住民が住み慣れた地域で安心して暮らすことができるようにするためには、病床の機能分化・連携を進めながら各地域において在宅医療体制の整備を図ることが必要である。						
	アウトカム指標	アウトカム指標：退院時共同指導件数を 897 件（令和3年度）、1,012 件（令和4年度）、1,127 件（令和5年度）に増加させることを目指す。					
事業の内容	全県的な医療提供体制整備のため、地域の実情に応じて、急性期から回復期、在宅へのスムーズな移行が行われるよう、在宅医療提供体制にかかる実態調査の実施や、医療ソーシャルワーカー等を対象とした地域包括ケアの認識を深めるための地域連携強化研修会、多職種が一堂に会し医療体制整備にかかる県内外の先進的な取組事例等を情報共有するための事例報告会の開催等を行う。						
アウトプット指標	各研修会の参加者数延べ 200 人以上を確保する。						
アウトカムとアウトプットの関連	研修参加者が増えることで、病院から在宅に向けた入退院支援・医療介護連携の体制整備を図り、入院患者のそれぞれの状況に応じたスムーズな在宅生活移行につなげる。						
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	(千円)	
				5,553			
	基金	国 (A)		(千円)		公民の別 (注1)	(千円)
		都道府県 (B)		(千円)			3,702
		計 (A+B)		(千円)			1,851
その他 (C)		(千円)	5,553	うち受託事業等 (再掲) (注2)	(千円)		
					3,702		
備考 (注3)	令和3年度基金残 4,800 千円充当						

事業の区分	II 居宅等における医療の提供に関する事業				標準事業例	12	
事業名	No	11	新規事業／継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 2,114 千円		
	在宅医療推進のための看護師研修事業						
事業の対象となる医療介護総合確保区域	桑員区域、三泗区域、鈴亀区域、津区域、伊賀区域、松阪区域、伊勢志摩区域、東紀州区域						
事業の実施主体	三重県（県看護協会委託）						
事業の期間	令和4年4月1日 ～ 令和5年3月31日						
背景にある医療・介護ニーズ	今後、高齢化の進展や地域医療構想による病床の機能分化・連携により在宅患者等の増加が見込まれることから、適切な医療・看護サービスが提供できるよう、訪問看護ステーションの効率的な運営と訪問看護師の確保が必要である。						
	アウトカム指標	アウトカム指標:訪問看護提供件数を112,416件(令和3年度)から、115,003件(令和4年度)、117,591件(令和5年度)に増加させる。					
事業の内容	訪問看護事業所と医療機関等に勤務する看護師が、相互の看護の現状・課題や専門性を理解することを目的とした研修を実施し、相互の連携や資質向上を図る。また、医療依存度の高い在宅療養患者の多様なニーズに対応し、高度な在宅看護技術が提供できる訪問看護職員を育成するための研修を実施する。						
アウトプット指標	訪問看護事業所及び医療機関の看護師を対象に研修会を実施し、研修参加者50人以上を確保する。						
アウトカムとアウトプットの関連	訪問看護師の養成および資質向上を図ることで、訪問看護提供件数の増加を図る。						
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	(千円)	
				2,114			
	基金	国 (A)		(千円)		民	(千円)
		都道府県 (B)		(千円)			1,409
		計 (A+B)		(千円)			705
その他 (C)		(千円)	2,114	うち受託事業等 (再掲) (注2)	(千円)	1,409	
備考 (注3)							

事業の区分	II 居宅等における医療の提供に関する事業				標準事業例	12	
事業名	No	12	新規事業／継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 2,745 千円		
	訪問看護人材確保事業						
事業の対象となる医療介護総合確保区域	桑員区域、三泗区域、鈴亀区域、津区域、伊賀区域、松阪区域、伊勢志摩区域、東紀州区域						
事業の実施主体	三重県（三重県訪問看護ステーション協議会）						
事業の期間	令和4年4月1日 ～ 令和5年3月31日						
背景にある医療・介護ニーズ	今後、高齢化の進展や地域医療構想による病床の機能分化・連携により在宅患者等の増加が見込まれることから、適切な医療・看護サービスが提供できるよう、訪問看護ステーションの効率的な運営と訪問看護師の確保が必要である。						
	アウトカム指標	アウトカム指標：訪問看護提供件数を112,416件（令和3年度）、115,003件（令和4年度）、117,591件（令和5年度）に増加させる。					
事業の内容	訪問看護に関する相談や在宅介護関係者及び住民への普及啓発、訪問看護事業所へのアドバイザー派遣事業を実施する。						
アウトプット指標	訪問看護事業所（県内3箇所）の安定した運営が確保される。						
アウトカムとアウトプットの関連	訪問看護事業所における訪問看護師確保の体制強化をすすめることで、訪問看護提供件数の増加を図る。						
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	公	(千円)
		基金	国(A)				(千円)
	都道府県(B)		(千円)	1,830			
	計(A+B)		(千円)	2,745		うち受託事業等 (再掲)(注2)	
	その他(C)		(千円)	1,830		(千円)	1,830
備考(注3)							

事業の区分	II 居宅等における医療の提供に関する事業				標準事業例	12		
事業名	No	13	新規事業／継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 16,500 千円			
	新任訪問看護師就労支援事業							
事業の対象となる医療介護総合確保区域	桑員区域、三泗区域、鈴亀区域、津区域、伊賀区域、松阪区域、伊勢志摩区域、東紀州区域							
事業の実施主体	県内訪問看護ステーション							
事業の期間	令和4年4月1日 ～ 令和5年3月31日							
背景にある医療・介護ニーズ	今後、高齢化の進展や地域医療構想による病床の機能分化・連携により在宅患者等の増加が見込まれることから、適切な医療・看護サービスが提供できるよう、訪問看護ステーションの効率的な運営と訪問看護師の確保が必要である。							
	アウトカム指標	アウトカム指標:訪問看護提供件数を112,416件(令和3年度)から、115,003件(令和4年度)、117,591件(令和5年度)に増加させる。						
事業の内容	訪問看護師の確保を図るため、新任期訪問看護師の雇用等に係る経費の補助を行う。							
アウトプット指標	訪問看護師60人に補助を行う。(令和4年度)							
アウトカムとアウトプットの関連	訪問看護事業所における訪問看護師確保をすすめることで、訪問看護提供件数の増加を図る。							
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	(千円)		
		基金	国 (A)			(千円)	民	(千円)
			都道府県 (B)			(千円)		5,500
			計 (A+B)			(千円)		うち受託事業等 (再掲) (注2)
		その他 (C)		(千円)		8,250	(千円)	
		16,500						
備考 (注3)								

事業の区分	II 居宅等における医療の提供に関する事業			標準事業例	13
事業名	No	14	新規事業／継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 8,640 千円
	認知症ケアの医療介護連携体制構築事業				
事業の対象となる医療介護総合確保区域	桑員区域、三泗区域、鈴亀区域、津区域、伊賀区域、松阪区域、伊勢志摩区域、東紀州区域				
事業の実施主体	三重大学医学部附属病院、三重県医師会				
事業の期間	令和4年4月1日 ～ 令和5年3月31日				
背景にある医療・介護ニーズ	高齢化が進むことにより認知症患者の増加が見込まれていることから、認知症を早期に発見して診断・診断後支援に結びつけるための医療・介護連携、病診連携、インフォーマルを含めた支援者の対応力向上を促進することで、認知症患者の在宅療養生活が続けられる環境を整備する必要がある。				
	アウトカム指標	アウトカム指標： 認知症初期集中支援チームによる訪問実人数を年間768件（令和2年度）から869件（令和4年度）、970件（令和5年度）にする。			
事業の内容	<p>認知症ケアパス推進員3名を雇用して、下記1～4の事業の推進を行う。下記1の事業は、遠隔地3地域のスクリーニング検査者は各地域の中核となる医療機関に業務委託する。下記4の事業は、玉城町は合同会社たまきあい、伊賀市・名張市も業務委託し連携して実施する。</p> <p>1. 認知症の早期発見・介入</p> <p>現在、事業継続地域の基本型DITSについては、かかりつけ医からのスクリーニングの指示で、認知症連携パス推進員がスクリーニングを実施し、検査評価は三重大学病院認知症センターの医師が行い、専門医療機関受診が必要か否かの返信をするという方法を継続する。その後はかかりつけ医と専門医療機関の病診連携で診療を行っていく。東紀州地域、伊賀・名張地域で展開している遠隔型DITSについては、かかりつけ医からのスクリーニングの指示で、検査業務を委託した医療機関で実施し、検査評価は基本型DITSと同様の内容で実施する。検査業務委託先は、東紀州地域は紀南病院、伊賀地区は上野病院、名張地区は名張市立病院に委託する。</p> <p>2. 診断後等支援の強化</p> <p>DITSでは専門医療機関に受診勧奨された方の追跡調査を行っているが、診断後に必要な介護サービスや社会資源の利用につながっているかは把握できていない。そのため、鑑別診断の追跡調査に加え、鑑別診断後以降の診断後等支援がどのようになされているかについてアンケート調査を実施する。</p> <p>3. 認知症の地域包括ケアの実現に向けた支援者の対応力向上</p> <p>県内の認知症初期集中支援チームや地域包括支援センターが主催する事例検討会等にアドバイザーとして認知症連携パス推進員が出席する。事例を通じて、初期診断の重要性や、認知症の人の支援について協働して検討することで、支援者の対応力向上につながる。また、基幹型認知症疾患医療センターが主催する事例相談会への参加の呼びかけを行い、対応力向上につながる研修会の開</p>				

	<p>催を増やして研修会等の自主運営の際の参考にしてもらう。支援者と顔の見える関係を構築することで、診断後支援の体制構築を行う。</p> <p>4. レセプトデータを活用したインフォーマルサービスの構築事業の継続支援</p> <p>令和4年度は玉城町、伊賀市、名張市をモデル地区に取り組みを展開する。まず、玉城町では認知症介護支援のボランティア団体「サポーターさくら」、町の外郭団体としての合同会社「たまきあい」に下記の内容を業務委託する。令和3年度はチームオレンジの立ち上げを進めているため、本事業で訪問調査を行った地域包括ケアへの紐づけない認知症患者と、それに準ずる対象者に対して、要支援者と支援ボランティアのマッチング支援体制を継続運用し、インフォーマルサービス提供体制の整備を行って地域ケアシステムの「互助」を促進する。さらに、認知症サポーターフォローアップ研修を兼ねた情報交換会を開催する。玉城町での取り組みを基に、伊賀市と名張市では国民健康保険と後期高齢者医療保険のレセプトデータから、地域包括ケアへの紐づけない認知症患者の抽出を行い、訪問調査名簿の作成を行う。</p>					
アウトプット指標	<p>三重県認知症連携パス（脳の健康みえる手帳）を活用した認知症スクリーニング実績を累計711件（令和2年度）から1000件（令和5年度）にする。</p>					
アウトカムとアウトプットの関連	<p>認知症スクリーニングの実施により認知症の早期診断に繋げることで、認知症初期集中支援チーム等による認知症の初期段階からの医療・介護ケアの提供につながる患者の増加が期待できる。</p>					
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)	(千円) 8,640	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	公	(千円)
基金		国 (A)	(千円) 4,320		民	(千円) 4,320
		都道府県 (B)	(千円) 2,160		うち受託事業等 (再掲) (注2)	(千円)
		計 (A+B)	(千円) 6,480			
その他 (C)		(千円) 2,160				
備考 (注3)						

事業の区分	II 居宅等における医療の提供に関する事業				標準事業例	15		
事業名	No	15	新規事業／継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 18,727千円			
	精神障がい者アウトリーチ体制構築事業							
事業の対象となる医療介護総合確保区域	桑員区域、三泗区域、鈴亀区域、津区域、伊賀区域、松阪区域、伊勢志摩区域、東紀州区域							
事業の実施主体	三重県（県内医療機関委託）							
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日							
背景にある医療・介護ニーズ	長期入院精神障がい者を減少させ、新たな入院や再入院を回避して、精神障がい者が地域生活を維持できるよう支援体制を構築する必要がある。							
	アウトカム指標	アウトカム指標：地域生活を維持できる精神障がい者の増加をめざし、支援を受ける精神障がい者数51人（令和2年度）を54人以上（令和4年度）にする。						
事業の内容	多職種チームを設置し、訪問等によりサービスを包括的に提供する。また、支援体制整備調整者を設置し、在宅精神障がい者に対して見守り支援などが行われるよう地域づくりを行うとともに、他圏域への多職種チーム設置について助言・指導を行う。							
アウトプット指標	多職種チームを3カ所の障害保健福祉圏域において設置を継続。令和4年度は各チーム合同の事例検討会を開催する。							
アウトカムとアウトプットの関連	合同の事例検討会を開催することにより、アウトリーチ支援技術の向上を図り、ひいては在宅生活を維持できる精神障がい者数の増加を図る。							
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	公	(千円)	
		国 (A)		(千円)		12,484	民	うち受託事業等 (再掲) (注2) (千円)
		都道府県 (B)		(千円)		6,243		
		計 (A+B)		(千円)		18,727		
		その他 (C)		(千円)				
備考 (注3)								

事業の区分	II 居宅等における医療の提供に関する事業				標準事業例	16		
事業名	No	16	新規事業／継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 94,147 千円			
	地域口腔ケアステーション機能充実事業							
事業の対象となる医療介護総合確保区域	桑員区域・三泗区域・鈴亀区域・津区域・伊賀区域・松阪区域・伊勢志摩区域・東紀州区域							
事業の実施主体	三重県（県歯科医師会（郡市歯科医師会）・県歯科衛生士会委託）							
事業の期間	令和4年4月1日～令和6年3月31日							
背景にある医療・介護ニーズ	地域包括ケアシステムの構築において、今後、在宅患者等の増加が見込まれるが、口腔ケアが全身の健康にも影響を与えることから、適切な医療・介護サービスが供給できるよう、医科と歯科の連携や介護サービスとの連携により、口腔ケアサービス提供体制の強化が必要である。							
	アウトカム指標	在宅療養支援歯科診療数 119 機関（令和2年度）を令和4年度までに 141 機関に増加させる。						
事業の内容	地域の歯科保健医療資源が十分に機能し活用されるよう、地域ごとに口腔ケアステーションを設置し、医療・介護関係者等と連携を図り、全ての県民に対する歯科保健医療サービスの提供体制の充実と歯科疾患予防、介護予防等の効果的な取組実施に向けた体制整備を行う。							
アウトプット指標	9か所の地域口腔ケアステーション（R4.3）に配置しているサポートマネージャーを10か所（R5.3）に配置する。							
アウトカムとアウトプットの関連	各地域に中核となる地域口腔ケアステーション等を整備することにより、実働となる在宅歯科医療協力歯科医療機関が増加し、適切な医療・介護サービスの供給に寄与できる。							
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	(千円)		
				94,147		公 民	933	
		基金	国 (A)				(千円)	(千円)
			都道府県 (B)				(千円)	55,000
			計 (A+B)				(千円)	うち受託事業等 (再掲) (注2)
その他 (C)		(千円)	(千円)	46,534				
				10,247				
備考 (注3)	令和3年度基金残 15,000 千円充当 令和5年度 25,550 千円							

事業の区分	II 居宅等における医療の提供に関する事業				標準事業例	22		
事業名	No	17	新規事業／継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 6,756 千円			
	薬剤師在宅医療推進事業							
事業の対象となる医療介護総合確保区域	桑員区域、三泗区域、鈴亀区域、津区域、伊賀区域、松阪区域、伊勢志摩区域、東紀州区域							
事業の実施主体	一般社団法人三重県薬剤師会							
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日							
背景にある医療・介護ニーズ	今後、増加が見込まれる在宅患者等に対して、薬剤師の専門性を生かしたより良質な医療の提供ができるよう、在宅医療にかかる提供体制の強化が必要である。							
	アウトカム指標	アウトカム指標：在宅医療に取り組む薬局数を現状値 361 施設（令和2年度末）から 410 施設（令和5年度末）とする。						
事業の内容	<p>研修事業としては、①経験のない薬剤師を対象とした広範囲な知識の取得を目的とした薬局薬剤師在宅医療基礎研修、②在宅医療に携わっている薬剤師に対する専門スキル取得のための在宅医療アドバンス研修、③シミュレーター機器、医療材料・医療機器類などを設置し、薬局薬剤師が在宅医療で必要とする医療技術の訓練を行うシミュレーション・ラボでの研修とその運営などを鈴鹿医療科学大学等と連携して実施します。</p> <p>また、医師、看護師、ケアマネージャー、介護スタッフなどに対し、薬剤師の在宅医療への関わり方やメリットを啓発し、薬剤師の在宅医療への参画を推進します。</p>							
アウトプット指標	在宅医療アドバンス研修の受講者数を 80 人以上とする。							
アウトカムとアウトプットの関連	在宅医療に必要とされる薬剤師の専門スキルの強化を図ることで、在宅医療に取り組む薬局の増加につなげる。							
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	(千円)		
		基金	国 (A)			(千円)	民	(千円)
			都道府県 (B)			(千円)		2,252
			計 (A+B)			(千円)		うち受託事業等 (再掲) (注2)
		その他 (C)		(千円)		3,378	(千円)	
		3,378						
備考 (注3)								

事業の区分	II 居宅等における医療の提供に関する事業				標準事業例	22		
事業名	No	18	新規事業／継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 1,288 千円			
	居宅療養管理指導等の定着・普及、および円滑な業務提供のための事業							
事業の対象となる医療介護総合確保区域	三四地域							
事業の実施主体	一般社団法人四日市薬剤師会							
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日							
背景にある医療・介護ニーズ	在宅医療に取り組む薬局数が限られていることや、かかりつけ薬局・薬剤師の必要性が住民に認知されていないため、薬局・薬剤師による在宅医療サービスの提供が十分に浸透していない現状がある。 そのため、薬局・薬剤師を対象とした実践的な研修を実施するなど、在宅訪問業務に取り組む薬局数の増加に向けた取組や、かかりつけ薬局・薬剤師の必要性を広く周知するための取組が求められている。							
	アウトカム指標	アウトカム指標：退院時カンファレンスに参加したことがある薬局を令和5年度末に30店舗とする。(現在17店舗)(令和4年度末目標値:23店舗)						
事業の内容	入院患者が在宅医療へ移行する際の退院時カンファレンスや多職種の担当者会議等に薬剤師が参加する機会を増加させるための環境整備を行い、多職種間の連携を強化する。また、介護施設や多職種の事務所を訪問し、オンライン会議に係る環境整備について説明するとともに、薬剤や感染防止対策に関わる指導や情報提供を行う。さらに、住民を対象とした公開講座を開催することで、住民の健康維持・増進を図るとともに、かかりつけ薬局・薬剤師の必要性等を周知する。							
アウトプット指標	介護施設や多職種の事務所等への訪問および環境整備に係る説明を5事業者以上に対して実施する。							
アウトカムとアウトプットの関連	退院時カンファレンスへの参加に必要な環境を整備し、それらを関係者へ周知することにより、多職種連携を行う薬局数を増加させる。							
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	公 (千円)		
				1,288			民 (千円)	
		基金	国 (A)					(千円)
			都道府県 (B)					(千円)
			計 (A+B)					(千円)
その他 (C)		(千円)	うち受託事業等 (再掲) (注2) (千円)					
		429	429	644	644			
備考 (注3)								

事業の区分	II 居宅等における医療の提供に関する事業				標準事業例	22
事業名	No	19	新規事業／継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 3,480 千円	
	薬剤師在宅医療高度スキル支援事業					
事業の対象となる医療介護総合確保区域	桑員区域、三泗区域、鈴鹿区域、津区域、伊賀区域、松阪区域、伊勢志摩区域、東紀州区域					
事業の実施主体	一般社団法人三重県薬剤師会					
事業の期間	令和4年4月1日 ～ 令和5年3月31日					
背景にある医療・介護ニーズ	在宅医療の現場では、昨年度までは使用されていなかった高度な医療機器、医療材料が使用され始めるなど、目まぐるしく変化している。医療機器や医療材料については、医薬品と関連性が高いため、薬局・薬剤師には、その進展に遅れることなく対応することが求められている。					
	アウトカム指標	アウトカム指標：在宅医療に取り組む薬局数を現状値 231 施設（平成 31 年度末）から 380 施設（令和 4 年度末）とする。				
事業の内容	今後必要とされる高度医療機器、医療材料等のスキルを修得させるため、鈴鹿医療科学大学に設置しているシミュレーション・ラボを活用し、高度医療機器、医療材料の設置・整備を行うとともに、鈴鹿医療科大学と連携し、高度医療材料等に対応可能なスキルを有する薬局薬剤師を養成する。					
アウトプット指標	高度医療材料等に対応できるスキルを有する薬剤師数を 90 人以上養成する。					
アウトカムとアウトプットの関連	高度医療材料等に対応できるスキルを有する薬剤師を増やすことで、在宅医療に取り組む薬局数の増加がより一層見込まれる。					
事業に要する費用の額	金額	総事業費		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	(千円)
		(A+B+C)		3,480		
	基金	国 (A)		(千円)		(千円)
		都道府県 (B)		580		
		計 (A+B)		(千円)		
その他 (C)		(千円)	1,740			
備考 (注3)						

事業の区分	II 居宅等における医療の提供に関する事業				標準事業例	12				
事業名	No	20	新規事業／継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 1,586 千円					
	看護職のリーダー養成事業									
事業の対象となる医療介護総合確保区域	桑員区域、三泗区域、鈴亀区域、津区域、伊賀区域、松阪区域、伊勢志摩区域、東紀州区域									
事業の実施主体	三重県（一部県訪問看護ステーション協議会委託）									
事業の期間	令和4年4月1日 ～ 令和5年3月31日									
背景にある医療・介護ニーズ	今後、高齢化の進展や地域医療構想による病床の機能分化・連携により在宅患者等の増加が見込まれることから、適切な医療・看護サービスが提供できるよう、訪問看護ステーションの効率的な運営と訪問看護師の確保が必要である。									
	アウトカム指標	アウトカム指標:訪問看護提供件数を112,416件(令和3年度)から、115,003件(令和4年度)、117,591件(令和5年度)に増加させる。								
事業の内容	訪問看護管理者に対し、経営力の向上や勤務環境改善に関する研修を開催する。									
アウトプット指標	研修会を年2回開催する。									
アウトカムとアウトプットの関連	訪問看護事業所における訪問看護師確保の体制強化をすすめることで、訪問看護提供件数の増加を図る。									
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	公	(千円)			
				1,586			453			
		基金	国 (A)			(千円)		民	(千円)	
			都道府県 (B)			(千円)				604
			計 (A+B)			(千円)				うち受託事業等 (再掲) (注2)
1,586			(千円)	604						
その他 (C)		(千円)								
備考 (注3)										

事業の区分	II 居宅等における医療の提供に関する事業				標準事業例	10	
事業名	No	21	新規事業／継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 867 千円		
	在宅医療看取り体制整備促進事業						
事業の対象となる医療介護総合確保区域	桑員区域、三泗区域、鈴亀区域、津区域、伊賀区域、松阪区域、伊勢志摩区域、東紀州区域						
事業の実施主体	三重県（県医師会委託）						
事業の期間	令和4年4月1日 ～ 令和5年3月31日						
背景にある医療・介護ニーズ	年間の死亡数は今後も増大傾向を示すことが予想され、2040年には全国で年間167万人が死亡する見込みとなっている。さらに、近年は医療機関以外の場所における死亡が微増傾向にあることから、自宅や介護保険施設で看取りを行い、死体検案が必要となる患者の増加が見込まれる。住民が住み慣れた地域で安心して暮らすことができるようにするため、死体検案を行う医師の資質向上を図り、在宅医療の体制整備を図る必要がある。						
	アウトカム指標	アウトカム指標：在宅見取りを実施している病院・診療所数 155 施設（平成27年実績）を、174 施設（令和4年目標）に増加させる。					
事業の内容	三重県医師会に委託して、在宅医療の従事者を対象とした、死体検案や看取りに関する専門的な研修会を、県内複数か所で開催する。						
アウトプット指標	県内2会場で死体検案等研修会を開催し概ね40名程度の受講者を見込む。						
アウトカムとアウトプットの関連	死体検案や看取りにかかる従事者の専門性が高まることにより、在宅医療の受入体制が確立され、在宅移行が促進される結果、死亡者における在宅の割合が増加する。						
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	(千円)	
				867			
	基金	国 (A)		(千円)		578	578
		都道府県 (B)		(千円)			
		計 (A+B)		(千円)			
その他 (C)		(千円)	867	うち受託事業等 (再掲) (注2)	(千円)		
			578		578		
備考 (注3)							

事業の区分	IV 医療従事者の確保に関する事業				標準事業例	25		
事業名	No	22	新規事業／継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 53,818 千円			
	地域医療支援センター運営事業							
事業の対象となる医療介護総合確保区域	桑員区域、三泗区域、鈴亀区域、津区域、伊賀区域、松阪区域、伊勢志摩区域、東紀州区域							
事業の実施主体	三重県							
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日							
背景にある医療・介護ニーズ	地域医療支援センターの取組を中心に、「医師不足の影響を当面緩和する取組」と「中長期的な視点に立った取組」を効果的に組み合わせ、医師確保対策を総合的に推進するとともに、医師の地域への定着状況をふまえ、必要な見直しを行いながら、医師の不足・偏在解消策の充実・強化を図っていくことが必要である。							
	アウトカム指標	県内の人口10万人あたりの医療施設に従事する医師数を、三重県医師確保計画の目標医師数に沿って増加させる。 ○ 三重県 223.4人(平成30年)を240.5人(令和5年)						
事業の内容	三重県地域医療支援センターのキャリア形成プログラムに基づき勤務する医師が、県内で安心してキャリアアップできる環境を整備するなど、医療分野における魅力向上を図ることにより、若手医師の県内定着や、医師の地域偏在の解消等を図る。							
アウトプット指標	地域枠医師の派遣調整に係る協議を年4回以上開催する。							
アウトカムとアウトプットの関連	若手医師がキャリア形成に不安を持つことなく、専門医資格を取得できる体制を整備し、県内の医師数を増加させることで、医師の地域偏在の解消等を図る							
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	(千円)		
				53,818			35,878	
	基金	国 (A)		(千円)		民	(千円)	
		都道府県 (B)		(千円)				
		計 (A+B)		(千円)				
		53,818			うち受託事業等 (再掲) (注2)	(千円)		
その他 (C)		(千円)	0			(千円)		
備考 (注3)								

事業の区分	IV 医療従事者の確保に関する事業				標準事業例	25	
事業名	No	23	新規事業／継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 354,765 千円		
	地域医療支援センター運営事業（三重県医師修学資金貸与制度）						
事業の対象となる医療介護総合確保区域	桑員区域、三泗区域、鈴亀区域、津区域、伊賀区域、松阪区域、伊勢志摩区域、東紀州区域						
事業の実施主体	三重県						
事業の期間	令和4年4月1日 ～ 令和6年3月31日						
背景にある医療・介護ニーズ	三重県内の人口10万人あたりの医師数は223.4人（H30）で全国平均を下回り、また医師偏在指標においては211.2で全国33位となり、医師少数都道府県に分類されている。このことから、県内で勤務する医師を確保するため、医学生を対象とした修学資金の貸付による医師確保対策が必要である。						
	アウトカム指標	令和4年度中に大学を卒業した修学資金貸与者の県内義務勤務開始率を100%にする。					
事業の内容	県内で地域医療に従事する医師の育成並びに確保を目的に、将来県内で勤務する意志のある地域卒医学生等に対して、キャリア支援プログラムに基づいた卒業後9年間の県内勤務を行うことで貸与額全額が返還免除となる修学資金を貸与する。						
アウトプット指標	貸付者総数819人（令和3年度）を864人（令和4年度）にする。 なお、この増分には、三重大学地域卒入学者（定員35名、うち臨時定員20名）を含む。						
アウトカムとアウトプットの関連	修学資金を貸与し、県内で義務勤務を開始する医師の割合を増加させることで、医師の地域偏在の解消等を図る。						
事業に要する費用の額	金額	総事業費		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	公	(千円)
		(A+B+C)		354,765			236,510
	基金	国(A)		(千円)		民	(千円)
		都道府県(B)		118,255			うち受託事業等 (再掲)(注2)
		計(A+B)		(千円)			
その他(C)		(千円)	354,765	(千円)			
				(千円)		(千円)	
備考(注3)	令和5年度 49,000 千円 平成29年度基金残 30,000 千円充当 平成27年度基金残 30,000 千円充当 平成26年度基金残 30,000 千円充当						

事業の区分	IV 医療従事者の確保に関する事業				標準事業例	26
事業名	No	24	新規事業／継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 16,800 千円	
	医師派遣等推進事業					
事業の対象となる医療介護総合確保区域	桑員区域、三泗区域、鈴亀区域、津区域、伊賀区域、松阪区域、伊勢志摩区域、東紀州区域					
事業の実施主体	県内医療機関					
事業の期間	令和4年4月1日 ～ 令和5年3月31日					
背景にある医療・介護ニーズ	本県においては医療従事者数（人口 10 万人対）が全国下位に位置しているなど、その確保が極めて重要な課題となっており、県内の医師不足の改善を図るため、医師不足地域の病院に対し、他地域の病院から医師を派遣する体制づくりが必要である。					
	アウトカム指標	医師不足地域であるへき地医療等の病院への派遣を通じて、都市部の医療機関で勤務する医師に地域医療を体験する機会を提供する事で、医師不足地域（主に東紀州）の将来的な医師確保を図る。三重県医師確保計画の目標医師数に沿って東紀州の人口 10 万人対医師数 154.2 人（平成 30 年末時点）を 200.0 人（令和 5 年）に増加させる。				
事業の内容	医師不足地域の医療機関への医師派遣体制を構築するため、医師不足地域の病院に対して、他地域の基幹病院から短期間医師を派遣する。 県は、医師派遣等を行う基幹病院に対して所要経費の一部を補助し、また受入を行う医療機関に対しては、受入にかかる経費を補助する。					
アウトプット指標	バディホスピタル派遣の実施月数 12 か月を維持する。					
アウトカムとアウトプットの関連	基幹病院から地域病院への複数医師のローテーションによる継続派遣により、所属病院以外の地域医療機関での研修の機会を提供し、将来的な地域医療人材の確保に繋げる。					
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	(千円)
		国 (A)		(千円)		8,400
		都道府県 (B)		(千円)		4,200
		計 (A+B)		(千円)		12,600
		その他 (C)		(千円)		4,200
				公	(千円)	8,400
				民	(千円)	
					うち受託事業等 (再掲) (注2)	(千円)
備考 (注3)						

事業の区分	IV 医療従事者の確保に関する事業				標準事業例	26		
事業名	No	25	新規事業／継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 17,329 千円			
	臨床研修医定着支援事業							
事業の対象となる医療介護総合確保区域	桑員区域、三泗区域、鈴亀区域、津区域、伊賀区域、松阪区域、伊勢志摩区域、東紀州区域							
事業の実施主体	MMC 卒後臨床研修センター							
事業の期間	令和4年4月1日 ～ 令和5年3月31日							
背景にある医療・介護ニーズ	医師の地域・診療科による偏在が顕在化していることを踏まえ、若手医師の確保・育成を図るため、臨床研修医の研修環境を整備するなどにより、医師を安定的に確保できる体制づくりが必要である。							
	アウトカム指標	県内の病院で新たに専門研修を開始する専攻医数を令和5年度当初時点で90人にする。						
事業の内容	県内の臨床研修病院等が連携、協力し、相互受入等による多様なプログラムの展開や、研修医、上級医、指導医それぞれに対応した合同研修等により研修の質の向上を図るとともに、その情報を様々な方法で発信することにより、全国の医学生から「選ばれる三重の病院」を目指す。							
アウトプット指標	県内の病院で新たに臨床研修を開始する研修医数を、令和5年度当初時点で125人にする。							
アウトカムとアウトプットの関連	臨床研修医の確保及びその研修の質の向上に取り組むことで、専攻医が増加し、県内への医師定着へとつながる。							
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	(千円)		
		基金	国 (A)	(千円)		公	(千円)	
			都道府県 (B)	(千円)			民	(千円)
			計 (A+B)	(千円)				うち受託事業等 (再掲) (注2)
		その他 (C)		(千円)			(千円)	
		5,777						
備考 (注3)								

事業の区分	IV 医療従事者の確保に関する事業				標準事業例	27	
事業名	No	26	新規事業／継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 2,703 千円		
	地域医療対策協議会の調整経費						
事業の対象となる医療介護総合確保区域	桑員区域、三泗区域、鈴亀区域、津区域、伊賀区域、松阪区域、伊勢志摩区域、東紀州区域						
事業の実施主体	三重県						
事業の期間	令和4年4月1日 ～ 令和5年3月31日						
背景にある医療・介護ニーズ	三重県内の人口10万人あたりの医師数は223.4人(H30)で全国平均を下回り、また医師偏在指標においては211.2で全国33位となり、医師少数都道府県に分類されている。このことから、三重県医師確保計画に基づき、医師の確保、偏在の解消策の充実・強化を図る必要がある。						
	アウトカム指標	県内の人口10万人あたりの医療施設に従事する医師数を、三重県医師確保計画の目標医師数に沿って増加させる。 ○ 三重県 223.4人(平成30年)を240.5人(令和5年)					
事業の内容	三重県における医師確保対策の具体的な実施に係る関係者間の協議、調整を行う。						
アウトプット指標	地域医療対策協議会の開催回数2回以上を確保する。(令和4年度)						
アウトカムとアウトプットの関連	地域医療を確保するための効果的な対策を協議することで、医師不足・医師偏在を解消する。						
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	(千円)	
				2,703		1,802	
	基金	国 (A)		(千円)		民	(千円)
		都道府県 (B)		(千円)			901
		計 (A+B)		(千円)			2,703
その他 (C)		(千円)	0	(千円)			
備考 (注3)							

事業の区分	IV 医療従事者の確保に関する事業				標準事業例	28		
事業名	No	27	新規事業／継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 128,430 千円			
	産科医等確保支援事業							
事業の対象となる医療介護総合確保区域	桑員区域、三泗区域、鈴亀区域、津区域、伊賀区域、松阪区域、伊勢志摩区域、東紀州区域							
事業の実施主体	県内医療機関							
事業の期間	令和4年4月1日 ～ 令和5年3月31日							
背景にある医療・介護ニーズ	本県の産婦人科医師数は全国平均を下回っており（平成30年末時点）、産科医等の確保を図るため、処遇改善に取り組む医療機関を支援することが必要である。							
	アウトカム指標	人口10万人当たりの産婦人科医師数10.1人（平成30年）を10.5人（令和4年）にする。						
事業の内容	不足する産科医等の確保を図るため、産科医等の確保及び処遇改善に取り組む医療機関等を支援する。支援内容として、分娩に対する手当支給を通じ産科医等の処遇改善等を行う医療機関等に対し、その経費の一部補助を行う。							
アウトプット指標	手当支給施設数31か所以上を確保し、手当支給者数300人以上を確保する。							
アウトカムとアウトプットの関連	手当支給者数を確保することで、産科医等の離職防止や定着促進を図り、産婦人科医師数の増加につなげる。							
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	公	(千円)	
				128,430			19,875	
		基金	国 (A)			(千円)	民	(千円)
			都道府県 (B)			(千円)		37,204
			計 (A+B)			(千円)		うち受託事業等 (再掲) (注2)
その他 (C)		(千円)	42,811	(千円)				
備考 (注3)	令和2年度基金残12,582千円充当							

事業の区分	IV 医療従事者の確保に関する事業				標準事業例	28		
事業名	No	28	新規事業／継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 850 千円			
	産科医等育成支援事業							
事業の対象となる医療介護総合確保区域	桑員区域、三泗区域、鈴亀区域、津区域、伊賀区域、松阪区域、伊勢志摩区域、東紀州区域							
事業の実施主体	県内医療機関							
事業の期間	令和4年4月1日 ～ 令和5年3月31日							
背景にある医療・介護ニーズ	本県の産婦人科医師数は全国平均を下回っており（平成30年末時点）、産科医等の確保を図るため、処遇改善に取り組む医療機関を支援することが必要である。							
	アウトカム指標	人口10万人当たりの産婦人科医師数10.1人(平成30年)を10.5人(令和4年)にする。						
事業の内容	不足する産科医等の確保を図るため、これらの処遇改善に取り組む医療機関を支援する。支援内容として、産科専攻医に対する研修医手当支給を通じ産科専攻医の処遇改善を行う医療機関に対し、その経費の一部を補助する。							
アウトプット指標	手当支給施設数1か所以上を確保し、手当支給者数2人以上を確保する。							
アウトカムとアウトプットの関連	研修医手当支給者数を確保することで、産婦人科医師数の増加につなげる。							
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費)における公民の別 (注1)	(千円)		
				850			377	
	基金	国 (A)		(千円)		民	(千円)	
		都道府県 (B)		(千円)				
		計 (A+B)		(千円)				
その他 (C)		(千円)			うち受託事業等 (再掲) (注2)	(千円)		
				284				
備考 (注3)								

事業の区分	IV 医療従事者の確保に関する事業				標準事業例	28				
事業名	No	29	新規事業／継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 3,220 千円					
	新生児医療担当医確保支援事業									
事業の対象となる医療介護総合確保区域	桑員区域、三泗区域、鈴亀区域、津区域、伊賀区域、松阪区域、伊勢志摩区域、東紀州区域									
事業の実施主体	県内医療機関									
事業の期間	令和4年4月1日 ～ 令和5年3月31日									
背景にある医療・介護ニーズ	本県の小児科医数は全国平均を下回っており（平成30年末時点）、県内の新生児医療担当医の確保を図るため、処遇改善に取り組む医療機関を支援することが必要である。									
	アウトカム指標	小児人口1万人当たりの病院勤務小児科医師数 5.5 人(平成30年)を 5.8 人(令和4年)にする。								
事業の内容	不足する新生児医療担当医の確保を図るため、これらの処遇改善に取り組む医療機関を支援する。支援内容として、手当支給を通じ新生児医療担当医の処遇改善を行う医療機関に対し、その経費の一部を補助する。									
アウトプット指標	手当支給施設数3か所以上を確保し、手当支給者数35人以上を確保する。									
アウトカムとアウトプットの関連	手当支給者数を確保することで、新生児医療担当医の離職防止や定着促進を図り、病院勤務小児科医師数の増加につなげる。									
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	公	(千円)			
				3,220			715			
		基金	国 (A)			(千円)		民	(千円)	
			都道府県 (B)			(千円)				
			計 (A+B)			(千円)				
		1,073		うち受託事業等 (再掲) (注2)	(千円)					
その他 (C)		(千円)								
		2,147								
備考 (注3)										

事業の区分	IV 医療従事者の確保に関する事業				標準事業例	28			
事業名	No	30	新規事業／継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 151,326 千円				
	救急医療人材確保事業								
事業の対象となる医療介護総合確保区域	桑員区域、三泗区域、鈴亀区域、津区域、伊賀区域、松阪区域、伊勢志摩区域、東紀州区域								
事業の実施主体	二次救急医療機関								
事業の期間	令和4年4月1日 ～ 令和5年3月31日								
背景にある医療・介護ニーズ	平成30年(2018年)医師・歯科医師・薬剤師調査では、人口10万人当たりの主に救急科に従事する医師数は、全国平均の2.8人に対して、1.7人であり、救急科の医師不足が顕著である。現場の病院勤務医の負担が大きいことから、二次救急医療機関の非常勤医師を確保し、病院勤務医の負担軽減を図る必要がある。								
	アウトカム指標	アウトカム指標：病院群輪番制等により救急に対応した二次救急医療機関の救急担当専任医師数(平日準夜帯、平日深夜帯、休日時の延数)を令和4年度までに103人(平成28年度)以上にする。							
事業の内容	病院群輪番制等により救急患者を受け入れる二次救急医療機関の非常勤医師の確保に必要な経費に対し補助する。								
アウトプット指標	非常勤医師を確保し、病院群輪番制等により救急対応した二次救急医療機関の対応延べ日数1,886日(H30)を1,900日(R4)にする。								
アウトカムとアウトプットの関連	非常勤医師を確保し、二次救急医療体制を強化することにより、救急科勤務医の負担軽減を図り、救急担当専任医師数を確保する。								
事業に要する費用の額	金額	総事業費		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	公	(千円)		
		(A+B+C)		151,326			30,807		
		基金	国(A)			(千円)		民	(千円)
			都道府県(B)			(千円)			19,635
			計(A+B)			(千円)			うち受託事業等 (再掲)(注2)
その他(C)		(千円)	75,663						
備考(注3)									

事業の区分	IV 医療従事者の確保に関する事業				標準事業例	28	
事業名	No	31	新規事業／継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 12,000 千円		
	医師不足地域の医療機関への医師派遣体制の構築						
事業の対象となる医療介護総合確保区域	伊賀区域						
事業の実施主体	名張市						
事業の期間	令和4年4月1日 ～ 令和5年3月31日						
背景にある医療・介護ニーズ	県内でも特に医師不足が著しい伊賀地域における小児救急医療への対応及び医師の確保を図る必要がある。						
	アウトカム指標	小児科救急車受入率を99%（令和4年度）にする。					
事業の内容	医療資源が充足していない伊賀地域において、とりわけ小児医療の分野における診療機能の分担と地域内の相互連携の強化を目的として、名張市立病院において小児医療に実績がある関係大学への協力体制の構築を要請する。これにより、伊賀地域における総合的な地域小児医療体制の充実及び関連病院との連携強化に向けた調査研究を行う。						
アウトプット指標	名張市立病院へ1名、小児救急医療センターへ1名の医師の派遣を行う。						
アウトカムとアウトプットの関連	小児救急医療を担う医師を派遣することで、小児二次救急の実施体制の維持・充実を図る。						
事業に要する費用の額	金額	総事業費		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	公	(千円)
		(A+B+C)		12,000		4,000	
	基金	国(A)		(千円)		民	(千円)
		都道府県(B)		(千円)			2,000
		計(A+B)		(千円)			6,000
その他(C)		(千円)	6,000				
備考(注3)							

事業の区分	IV 医療従事者の確保に関する事業				標準事業例	28			
事業名	No	32	新規事業／継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 9,631 千円				
	三重県プライマリ・ケアセンター整備事業								
事業の対象となる医療介護総合確保区域	桑員区域、三泗区域、鈴亀区域、津区域、伊賀区域、松阪区域、伊勢志摩区域、東紀州区域								
事業の実施主体	三重県（県立一志病院委託）								
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日								
背景にある医療・介護ニーズ	今後、県全体の人口減少が想定される中、特に医療・福祉資源が乏しいへき地等においては、病診連携や医療・介護連携を推進する必要がある。そのためには、それを担う人材の確保・養成が必要であり、県内で勤務する医療従事者等が多職種連携によるプライマリ・ケアのスキルを習得することが求められている。								
	アウトカム指標	アウトカム指標：訪問看護提供件数を112,416件（令和3年度）、115,003件（令和4年度）、117,591件（令和5年度）に増加させる。							
事業の内容	県立一志病院に当センターを設置し、県内で勤務する医療従事者等を対象に多職種連携によるプライマリ・ケアの実践的なスキルを習得するための教育・育成の支援等を行う。								
アウトプット指標	医学生・看護学生をはじめとした医療従事者等をめざす学生の教育・育成を進めるため、プライマリ・ケアにかかる研修会等（3回以上／年）を実施し、150名以上（各回50名程度×回数）の参加を目標とする。								
アウトカムとアウトプットの関連	プライマリ・ケアについて多職種連携ができる医療従事者等の人材育成・確保を図るとともに、特に看護師を対象とする研修により訪問看護師を育成することで、県内の訪問看護師の体制強化に寄与し、訪問看護提供件数の増加を図る。								
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	公	(千円)		
				9,631			6,420		
	基金	国(A)		(千円)			民	(千円)	
		都道府県(B)		(千円)					
		計(A+B)		(千円)					
		9,631			うち受託事業等 (再掲)(注2)	(千円)			
その他(C)		(千円)							
備考(注3)									

事業の区分	IV 医療従事者の確保に関する事業				標準事業例	28	
事業名	No	33	新規事業／継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 5,780 千円		
	総合診療医広域育成支援事業						
事業の対象となる医療介護総合確保区域	桑員区域、三泗区域、鈴亀区域、津区域、伊賀区域、松阪区域、伊勢志摩区域、東紀州区域						
事業の実施主体	三重大学（医学部附属病院）						
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日						
背景にある医療・介護ニーズ	地域における医療提供体制の確立、地域包括ケアの推進のために必要な総合診療医が不足しているとともに、総合診療医を養成するシステムを安定的に運営するための高い資質を備えた指導医も不足している。						
	アウトカム指標	①新たに総合診療専門研修プログラムの研修を開始した専攻医数（令和4年度末までに4人） ②新たに総合診療の臨床指導やカリキュラム開発、研究能力、リーダーシップを発揮できる資質を持つに至った指導医数（令和4年度末までに2人）					
事業の内容	さまざまな地域のニーズに応じて活動できる総合診療医を養成するため、学生等への教育や指導医の資質向上等に係る研修等の活動経費に対し補助を行う。						
アウトプット指標	①総合診療に係る教育を受けた学生や臨床研修医等の人数（のべ200人／年） ②総合診療専門研修プログラムの広報件数（5件／年） ③資質向上に係る研修等を受けた指導医数（延べ80人／年）						
アウトカムとアウトプットの関連	学生や研修医に対する総合診療に係る教育の実施や指導医等に対する研修等を行うことにより、専攻医の増加や指導医の資質向上につなげる。						
事業に要する費用の額	金額	総事業費（A+B+C）		（千円）	基金充当額（国費） における 公民の別 （注1）	公	（千円）
				5,780			1,926
	基金	国（A）		（千円）		民	（千円）
		都道府県（B）		（千円）			
		計（A+B）		（千円）			
		964	2,890	うち受託事業等（再掲）（注2）	（千円）		
その他（C）		（千円）	2,890				
備考（注3）							

事業の区分	IV 医療従事者の確保に関する事業				標準事業例	28	
事業名	No	34	新規事業／継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 5,000 千円		
	結核医療等を担う呼吸器内科医等の確保・育成支援事業						
事業の対象となる医療介護総合確保区域	桑員区域、三泗区域、鈴亀区域、津区域、伊賀区域、松阪区域、伊勢志摩区域、東紀州区域						
事業の実施主体	三重県						
事業の期間	令和4年4月1日 ～ 令和5年3月31日						
背景にある医療・介護ニーズ	結核の新規登録者数は減少しているが、高齢者で基礎疾患のある患者の治療や多剤耐性結核等専門的な知識が必要な症例の割合は増えている。一方結核医療を担う医師は不足しており結核（モデル）病床の維持に支障をきたしている医療機関もある。そのため結核医療を担う医師の人材確保・育成が急務であり、結核医療中核病院を中心に県内の結核医療の連携体制の構築が必要である。						
	アウトカム指標	県内の結核医療等を担う専門医 10 名が令和5年3月31日まで確保されている。					
事業の内容	県内で勤務する医師をはじめとした医療従事者に対する専門的、実践的な研修を行うことで、県内で必要とされている結核医療を担うことのできる人材の確保・育成を行うとともに、県内の結核医療に関する連携体制等の構築を行う。						
アウトプット指標	結核医療を担うことの出来る専門性を有する医師等の育成を行うとともに、医師等医療従事者に対する研修を年2回以上実施する。						
アウトカムとアウトプットの関連	結核医療を担う呼吸器内科医等専門性を有する人材の確保・育成を行うことにより、県内の結核（モデル）病床を有する医療機関数を維持し、患者の身近なところで個別の病態に応じた結核医療が提供できる医療連携体制の構築ができる。						
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	(千円)	
				5,000			
	基金	国 (A)		(千円)		民	(千円)
		都道府県 (B)		(千円)			3,333
		計 (A+B)		(千円)			1,667
その他 (C)		(千円)	5,000	(千円)	3,333		
備考 (注3)							

事業の区分	IV 医療従事者の確保に関する事業				標準事業例	28		
事業名	No	35	新規事業／継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 2,850 千円			
	産科・小児科専門医確保対策事業							
事業の対象となる医療介護総合確保区域	桑員区域、三泗区域、鈴亀区域、津区域、伊賀区域、松阪区域、伊勢志摩区域、東紀州区域							
事業の実施主体	県内医療機関（産婦人科、小児科専門研修基幹施設）、三重県							
事業の期間	令和4年4月1日 ～ 令和5年3月31日							
背景にある医療・介護ニーズ	本県の産婦人科及び小児科医師数は全国平均を下回っており、また診療科が長時間労働となる傾向もみられることから、将来の産婦人科・小児科医師の確保を図るため、産婦人科・小児科の魅力や、専攻医等の資質向上に努める必要がある。							
	アウトカム指標	新専門医制度開始以降の産婦人科専攻医採用人数 30 人（令和3年度末）を 35 人（令和4年度末）にする。また、同様に小児科の専攻医採用人数 26 人（令和3年度末）を 31 人（令和4年度末）にする。						
事業の内容	将来の産科・小児科の医師を確保するため、医学生や研修医に対し、産科・小児科の魅力を発信する機会を設けるとともに、産科・小児科の専門医を確保・育成を図るための取組を支援する。							
アウトプット指標	産科・小児科に関するセミナーや専門研修プログラムの説明会といった診療科の魅力を伝える取組の開催及び参加に対する支援を、産科2施設、小児科1施設に対して行う。							
アウトカムとアウトプットの関連	産科・小児科に関するセミナーや専門研修プログラムの説明会の開催及び参加に対する支援を行うことにより、将来の産科・小児科をめざす若手医師を確保する。							
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	公	(千円)	
		基金	国 (A)			(千円)	民	うち受託事業等 (再掲) (注2)
			都道府県 (B)			(千円)		
			計 (A+B)			(千円)		
			その他 (C)			(千円)		
		0						
備考 (注3)								

事業の区分	IV 医療従事者の確保に関する事業				標準事業例	28		
事業名	No	36	新規事業／継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 18,000 千円			
	周産期新生児科の指導医育成事業							
事業の対象となる医療介護総合確保区域	桑員区域、三泗区域、鈴亀区域、津区域、伊賀区域、松阪区域、伊勢志摩区域、東紀州区域							
事業の実施主体	三重大学医学部附属病院							
事業の期間	令和4年4月1日 ～ 令和5年3月31日							
背景にある医療・介護ニーズ	本県では周産期科指導医、新生児科指導医が極端に少なく、数年後には指導医不足に陥る恐れがあり、ひいては県内の周産期新生児科医師不足につながる恐れがあることから、周産期新生児科の指導医を育成する必要がある。							
	アウトカム指標	小児人口1万人当たりの病院勤務小児科医師数 5.5人(平成30年)を 5.8人(令和4年)にする。						
事業の内容	周産期新生児科医師の県内定着を図るため、医学生から指導医まで切れ目のないキャリア形成や指導医の育成を支援する。							
アウトプット指標	産婦人科専攻医5名、小児科専攻医5名を確保する。							
アウトカムとアウトプットの関連	周産期新生児科指導医を育成することによって、病院勤務小児科医師数の増加につなげる。							
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	公	(千円)	
				18,000		8,000		
		基金	国 (A)			(千円)	民	(千円)
			都道府県 (B)			(千円)		
			計 (A+B)			(千円)		
その他 (C)		(千円)		うち受託事業等 (再掲) (注2)	(千円)			
		6,000						
備考 (注3)								

事業の区分	IV 医療従事者の確保に関する事業				標準事業例	28		
事業名	No	37	新規事業／継続事業	新規	【総事業費 (計画期間の総額)】 2,126 千円			
	産前産後医療機関等連携体制強化事業							
事業の対象となる医療介護総合確保区域	桑員区域、三泗区域、鈴亀区域、津区域、伊賀区域、松阪区域、伊勢志摩区域、東紀州区域							
事業の実施主体	三重県（県医師会等委託）							
事業の期間	令和4年4月1日 ～ 令和5年3月31日							
背景にある医療・介護ニーズ	<p>三重県の産婦人科及び小児科医師数は全国平均を下回っている。このような中、近年では精神的に不安定な妊産婦数が増えていることもあり、地域における周産期の包括的な支援のニーズが高まっている。</p> <p>県内で安心して産み育てられる医療体制を確立するために、将来の医師確保及び離職防止を図るとともに、産婦人科・小児科・精神科分野及び行政などの円滑な連携体制を強化する必要がある。</p>							
	アウトカム指標	<p>新専門医制度開始以降の産婦人科専攻医採用人数 30 人（令和3年度末）を 35 人（令和4年度末）にする。また、同様に小児科の専攻医採用人数 26 人（令和3年度）を 31 人（令和4年度末）にする。</p>						
事業の内容	<p>将来の産婦人科・小児科の医師を確保し離職を防止するため、医学生や研修生等に対し、産科・小児科の魅力を発信する機会を設ける。また、産科・小児科・精神科分野及び行政などの連携を円滑に行えるよう、マニュアルを作成・配布し、多職種間での検討会及び研修を行い、さらに病病連携や病診連携等の取組を評価するとともに支援する。</p>							
アウトプット指標	<p>①検討会の開催（年2回以上）、研修会の開催（年1回以上） ②産婦人科と小児科との連携件数（延べ65件以上）</p>							
アウトカムとアウトプットの関連	<p>産科・小児科の魅力を発信するとともに、円滑な多職種連携の体制を整備することにより、将来の医師確保及び離職防止を図る。</p>							
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	公	(千円)	
				2,126			民	(千円)
	基金	国 (A)		(千円)		うち受託事業等 (再掲) (注2)		(千円)
		都道府県 (B)		(千円)				1,417
		計 (A+B)		(千円)				709
その他 (C)		(千円)	2,126	1,417(千円)				
備考 (注3)								

事業の区分	IV 医療従事者の確保に関する事業				標準事業例	30	
事業名	No	38	新規事業／継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 820 千円		
	小児救急地域医師研修事業						
事業の対象となる医療介護総合確保区域	桑員区域、三泗区域、鈴亀区域、津区域、伊賀区域、松阪区域、伊勢志摩区域、東紀州区域						
事業の実施主体	市町						
事業の期間	令和4年4月1日 ～ 令和5年3月31日						
背景にある医療・介護ニーズ	小児初期患者の多くが初期救急患者であるため、応急診療所等で対応する初期救急体制の整備が必要であるが、初期救急を担う小児科医師不足や高齢化が問題となっている。内科医師等、小児救急医療に携わる可能性のある医師を対象として小児初期救急医療研修を行うことで小児患者に対応できる医師を増やし、小児救急医療体制を補強する必要がある。						
	アウトカム指標	休日夜間急患センターの当番時間帯における平均参加医師数のうち小児科医に限らず、小児を診察する医師数を1人以上（令和4年度末）確保する。					
事業の内容	地域の内科医などに対する小児初期救急医療研修を実施する市町に対し補助する。						
アウトプット指標	小児初期救急医療研修を受講した医師数（令和元年度実績：118人）を130人（令和4年度実績）にする。						
アウトカムとアウトプットの関連	小児科医でない医師が当該研修を受けることで、休日夜間急患センターの当番時間帯に小児を診察することができる医師を確保する。						
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円) 820	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	公	(千円) 273
		基金	国(A)			(千円) 273	民
	都道府県(B)		(千円) 137	うち受託事業等 (再掲)(注2) (千円)			
	計(A+B)		(千円) 410				
	その他(C)		(千円) 410				
備考(注3)							

事業の区分	IV 医療従事者の確保に関する事業				標準事業例	32	
事業名	No	39	新規事業／継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 20,633 千円		
	女性医師等就労支援事業						
事業の対象となる医療介護総合確保区域	桑員区域、三泗区域、鈴亀区域、津区域、伊賀区域、松阪区域、伊勢志摩区域、東紀州区域						
事業の実施主体	県内病院、三重県（県医師会委託）						
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日						
背景にある医療・介護ニーズ	医師国家試験合格者の約3割が女性となっていることから、子育て中等の勤務医師が離職しにくく、復職しやすい環境づくりを促進し、医師確保につなげることが必要である。						
	アウトカム指標	医療施設に従事する女性医師数の割合17.6%（平成30年）を18%以上（令和4年）にする。					
事業の内容	女性をはじめとする子育て中等の勤務医師が、不安を持つことなく就労を継続するとともに、安心して復職できる環境づくりを行う病院に対して支援する。具体的には、短時間勤務の導入や宿日直の免除等に係るシフト変更のための医師の確保に要する経費の一部、ベビーシッター雇上等の育児支援にかかる経費の一部を補助する。 また、「女性が働きやすい医療機関」認証制度を実施し、女性の医療従事者が働きやすい環境づくりの促進を図る。						
アウトプット指標	子育て医師等の復帰支援に取り組む病院数を5か所以上にする。						
アウトカムとアウトプットの関連	子育て中等の勤務医師が離職しにくく、復職しやすい環境づくりに取り組む医療機関数を増やしていくことにより、女性医師数割合の増加を図る。						
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円) 20,633	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	公 (千円) 6,417	
		基金	国(A)				(千円) 7,422
			都道府県 (B)				(千円) 3,711
			計(A+B)				(千円) 11,133
		その他(C)		(千円) 9,500			うち受託事業等 (再掲)(注2) (千円) 1,005
備考(注3)							

事業の区分	IV 医療従事者の確保に関する事業				標準事業例	33	
事業名	No	40	新規事業／継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 3,189 千円		
	歯科技工士確保対策・資質向上事業						
事業の対象となる医療介護総合確保区域	桑員区域、三泗区域、鈴亀区域、津区域、伊賀区域、松阪区域、伊勢志摩区域、東紀州区域						
事業の実施主体	三重県（一部県歯科技工士会委託）						
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日						
背景にある医療・介護ニーズ	県立公衆衛生学院歯科技工学科の閉科により、県内の新卒歯科技工士を一定数確保する必要があるとともに、県民に安全・安心な歯科技工物を提供するため、歯科医療安全の確保や技術向上を図る必要がある。						
	アウトカム指標	県内の歯科技工士数を522人（平成30年度）から令和4年度までに5人増加させる。					
事業の内容	歯科技工士養成施設の在学者に対して修学資金を貸与することにより、県内への就業の促進を図るとともに、歯科医療安全、技術向上等に関する研修を実施することにより、事業所への定着及び早期離職防止を図る。						
アウトプット指標	研修受講者数184人（令和2年度）を令和4年度に21人増加させる。						
アウトカムとアウトプットの関連	安全・安心な歯科技工物を提供するため、歯科技工士の卒後教育は重要であり、継続した人材育成研修の取組を行うことにより、県内歯科技工所への歯科技工士の定着促進及び県内歯科技工士の資質向上を図る。						
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円) 3,189	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	公 (千円) 1,152	
		基金	国(A)				(千円) 2,126
			都道府県 (B)				(千円) 1,063
			計(A+B)				(千円) 3,189
		その他(C)		(千円)			民 (千円) 974
				うち受託事業等 (再掲)(注2) (千円) 974			
備考(注3)							

事業の区分	IV 医療従事者の確保に関する事業				標準事業例	34			
事業名	No	41	新規事業／継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 1,914 千円				
	薬剤師への復職・転職サポート推進事業								
事業の対象となる医療介護総合確保区域	桑員区域、三泗区域、鈴亀区域、津区域、伊賀区域、松阪区域、伊勢志摩区域、東紀州区域								
事業の実施主体	一般社団法人三重県薬剤師会								
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日								
背景にある医療・介護ニーズ	近年における医薬分業の急速な普及に伴い、県内の薬剤師は不足している状況であり、平成30年の統計では、人口10万対薬局・医療施設従事薬剤師数は167.4人で、全国37位である。また、地域包括ケアシステム構築の中で、薬剤師が多職種と連携するとともに在宅医療へ積極的に関与し、かかりつけ薬剤師として期待される役割を果たすためには、薬剤師としての資質向上とともに、県内で働く薬剤師のさらなる確保が不可欠である。								
	アウトカム指標	アウトカム指標：県内に就職した女性薬剤師等の現状値（令和元年度）70名を80名（令和5年度）とする。（令和4年度末目標値：75名）							
事業の内容	<p>病院・薬局等での勤務経験がある薬剤師（特に女性）の復職支援、薬局での勤務経験がない薬剤師の転職を促進するため、①出産・育児のため退職・休職している、②ブランクがあり仕事についていけないか不安③行政や企業で勤務していて調剤経験がないが転職を検討など、不安を持っている薬剤師等を対象に、現在の薬局や医療機関で対応できるよう、治療薬の知識や調剤技術などに加え、フィジカルアセスメントなどの最新の医療知識や技術などを研修する「薬剤師等復職・転職サポート研修会」を三重県薬剤師会で開催します。</p> <p>また、県内の大学や病院、薬局と協力し、より実践的で質の高い研修会として、復職、再就職、転職などを検討している薬剤師等の復職を推進します。</p>								
アウトプット指標	研修会の参加人数を20人以上とする。								
アウトカムとアウトプットの関連	未就業・他業種からの転職薬剤師の支援研修により、三重県における薬剤師のキャリアプランニングを支援し、薬剤師の雇用の増加につなげる。								
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	(千円)			
		基金	国 (A)	(千円)		公	(千円)		
			都道府県 (B)	(千円)				民	(千円)
			計 (A+B)	(千円)					
		その他 (C)	(千円)						
			1,914						
			638						
			319						
			957						
			957						
備考 (注3)									

事業の区分	IV 医療従事者の確保に関する事業				標準事業例	35		
事業名	No	42	新規事業／継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 48,000 千円			
	新人看護職員研修事業補助金							
事業の対象となる医療介護総合確保区域	桑員区域、三泗区域、鈴亀区域、津区域、伊賀区域、松阪区域、伊勢志摩区域、東紀州区域							
事業の実施主体	県内医療機関							
事業の期間	令和4年4月1日 ～ 令和5年3月31日							
背景にある医療・介護ニーズ	本県における看護職員数は年次推移をみると増加傾向にあるものの、人口10万当たりの従事者は全国下位に位置しているなど、その確保がきわめて重大な課題となっていることから、新人看護職員の研修体制を整備し、早期離職防止を図る必要がある。							
	アウトカム指標	県内の看護職員従事者数 23,610 人（令和2年）を令和7年までに 25,924 人にする。						
事業の内容	病院等における、新人看護職員が基本的な臨床実践能力を習得するための研修の実施に対して補助することにより、看護の質の向上及び早期離職防止を図る。							
アウトプット指標	新人看護職員研修補助により、年間 600 人以上の参加者数を確保する							
アウトカムとアウトプットの関連	医療機関が、積極的に新人育成事業を行うことで、新人看護職員の新人期におけるリアリティショックによる離職を軽減し、看護職員従事者数の増加を図る。							
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	(千円)		
				48,000			6,753	
	基金	国 (A)		(千円)		民	(千円)	
		都道府県 (B)		5600				4,447
		計 (A+B)		16,800				うち受託事業等 (再掲) (注2) (千円)
その他 (C)		31,200						
備考 (注3)								

事業の区分	IV 医療従事者の確保に関する事業				標準事業例	36
事業名	No	43	新規事業／継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 2,540 千円	
	保健師助産師看護師実習指導者講習会事業					
事業の対象となる医療介護総合確保区域	桑員区域、三泗区域、鈴亀区域、津区域、伊賀区域、松阪区域、伊勢志摩区域、東紀州区域					
事業の実施主体	三重県（県看護協会委託）					
事業の期間	令和4年4月1日 ～ 令和5年3月31日					
背景にある医療・介護ニーズ	本県における看護職員数は年次推移をみると増加傾向にあるものの、人口10万当たりの従事者は全国下位に位置しているなど、その確保がきわめて重大な課題となっていることから、看護教育の一環である実習指導の質を向上させ、県内看護師等学校養成所の退学者数の減少及び県内就業者の増加を図る必要がある。					
	アウトカム指標	県内の看護職員従事者数 23,610 人（令和2年）を令和7年までに 25,924 人にする。				
事業の内容	県内の看護師等養成所の実習施設における学生指導担当者を対象に、実習指導に必要な知識と技術を取得するための講習会を開催する。 また、過去の受講者に対し、フォローアップ研修を実施する。					
アウトプット指標	実習指導者講習会の受講者数 60 人以上を確保する。（令和4年度）					
アウトカムとアウトプットの関連	実習指導者を育成し学生の実習を充実させ、基礎教育と臨床のギャップを埋めることで、退学者数の減少・早期離職防止を図る。					
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)	(千円) 2,540	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	公	(千円)
	基金	国 (A)	(千円) 1,693		民	(千円) 1,693
		都道府県 (B)	(千円) 847			うち受託事業等 (再掲) (注2)
		計 (A+B)	(千円) 2,540			(千円) 1,693
		その他 (C)	(千円)			
備考 (注3)						

事業の区分	IV 医療従事者の確保に関する事業				標準事業例	36	
事業名	No	44	新規事業／継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 1,637 千円		
	潜在看護職員復職研修事業						
事業の対象となる医療介護総合確保区域	桑員区域、三泗区域、鈴亀区域、津区域、伊賀区域、松阪区域、伊勢志摩区域、東紀州区域						
事業の実施主体	三重県（県看護協会委託）						
事業の期間	令和4年4月1日 ～ 令和5年3月31日						
背景にある医療・介護ニーズ	本県における看護職員数は年次推移をみると増加傾向にあるものの、人口10万あたりの従事者は全国下位に位置しているなど、その確保がきわめて重大な課題となっていることから、潜在看護師に対する復職支援が必要である。						
	アウトカム指標	県内の看護職員従事者数 23,610 人（令和2年）を令和7年までに 25,924 人にする。					
事業の内容	潜在看護職員を対象に、再就業に必要な看護知識・技術の習得を目的とした実務研修を実施し、再就業の促進を図る。						
アウトプット指標	潜在看護職員を対象とした研修会を複数の地域で開催し、研修参加者数 30 人以上を確保する。						
アウトカムとアウトプットの関連	研修を受講した潜在看護職員が再就業につながることで、看護職員従事者数の確保を図る。						
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	(千円)	
		基金	国 (A)			(千円)	民
	都道府県 (B)		(千円)	1,091			
	計 (A+B)		(千円)	うち受託事業等 (再掲) (注2)		(千円)	
	その他 (C)		(千円)	1,091			
備考 (注3)							

事業の区分	IV 医療従事者の確保に関する事業				標準事業例	36		
事業名	No	45	新規事業／継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 851 千円			
	看護教員継続研修事業							
事業の対象となる医療介護総合確保区域	桑員区域、三泗区域、鈴亀区域、津区域、伊賀区域、松阪区域、伊勢志摩区域、東紀州区域							
事業の実施主体	三重県（三重県看護学校校長会委託）							
事業の期間	令和4年4月1日 ～ 令和5年3月31日							
背景にある医療・介護ニーズ	本県における看護職員数は年次推移をみると増加傾向にあるものの、人口10万あたりの従事者は全国下位に位置しているなど、その確保がきわめて重大な課題となっていることから、看護教育の質を向上させ、県内看護師等養成所の退学者数の減少及び県内就業者の増加を図る必要がある。							
	アウトカム指標	県内の看護職員従事者数 23,610 人（令和2年）を令和7年までに 25,924 人にする。						
事業の内容	カリキュラム改正等に対応した教育の実施や看護教員の成長段階別に応じた研修の実施及び県内各看護師等養成所における看護教員のキャリアアップを支援し、看護教育の質の向上を図る。							
アウトプット指標	看護教員継続研修参加者数延べ80名以上を確保する。（令和4年度）							
アウトカムとアウトプットの関連	看護基礎教育の質の向上により、看護師等養成所の退学者数の減少を図り、県内就業者数の確保につなげる。							
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	(千円)		
		基金	国(A)			(千円)	民	(千円)
			都道府県(B)			(千円)		567
			計(A+B)			(千円)		851
		その他(C)		(千円)		うち受託事業等 (再掲)(注2)	(千円)	567
備考(注3)								

事業の区分	IV 医療従事者の確保に関する事業				標準事業例	37	
事業名	No	46	新規事業／継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 814 千円		
	CNA（認定看護管理者）等フォローアップ事業						
事業の対象となる医療介護総合確保区域	桑員区域、三泗区域、鈴亀区域、津区域、伊賀区域、松阪区域、伊勢志摩区域、東紀州区域						
事業の実施主体	三重県（県看護協会委託）						
事業の期間	令和4年4月1日 ～ 令和5年3月31日						
背景にある医療・介護ニーズ	本県における看護職員数は年次推移をみると増加傾向にあるものの、人口10万あたりの従事者は全国下位に位置しているなど、その確保がきわめて重大な課題となっていることから、看護管理者等の看護管理実践能力を向上させ、看護職員の確保・定着促進を図る必要がある。						
	アウトカム指標	県内の看護職員従事者数 23,610 人（令和2年）を令和7年までに 25,924 人にする。					
事業の内容	働きやすい職場環境づくりを進めるうえで看護管理者のマネジメントが重要であることから、認定看護管理者及び看護管理者の看護管理実践能力の向上を図る研修会を開催する。						
アウトプット指標	CNA（認定看護管理者）等フォローアップ研修会参加者数延べ 100 人以上を確保する。（令和4年度）						
アウトカムとアウトプットの関連	研修会を開催し、認定看護管理者及び看護管理者の看護管理実践能力の向上を図ることで、働きやすい職場環境づくりを進め、看護職員の確保・定着促進につなげる。						
事業に要する費用の額	金額	総事業費		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	公	(千円)
		(A+B+C)		814			民
	基金	国(A)	(千円)	542			
		都道府県(B)	(千円)	272			
		計(A+B)	(千円)	814			
その他(C)	(千円)						
備考(注3)							

事業の区分	IV 医療従事者の確保に関する事業				標準事業例	36			
事業名	No	47	新規事業／継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 16,500 千円				
	看護職員キャリアアップ支援事業								
事業の対象となる医療介護総合確保区域	桑員区域、三泗区域、鈴亀区域、津区域、伊賀区域、松阪区域、伊勢志摩区域、東紀州区域								
事業の実施主体	県内医療機関								
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日								
背景にある医療・介護ニーズ	団塊の世代が75歳以上となる2025年に向け、今後の急性期医療から在宅医療等の様々な現場において活躍が期待される看護師の特定行為研修修了者や認定看護師を養成していく必要がある。 また、安全・安心な出産環境の確保を図るために、助産師の専門性を確保し、離職防止や多職種との連携強化を図る必要がある。								
	アウトカム指標	特定行為研修修了者22人(令和3年)を26人以上(令和4年)にする。 県内就業助産師数464人(令和2年)を510人(令和6年)にする。							
事業の内容	特定行為研修を修了した看護師および感染管理認定看護師を確保するため、研修の受講に要する経費を補助する。また、県内の助産師が、助産実践能力を向上するための在籍型の出向に伴う経費の支援を行う。								
アウトプット指標	感染管理認定看護師研修受講者7人以上に補助を行う(令和4年度) 特定行為研修受講者3人以上に補助を行う(令和4年度) 助産師出向者3人に補助を行う。(令和4年度)								
アウトカムとアウトプットの関連	地域の感染拡大防止策を行う感染管理認定看護師の養成を促進、また、特定行為研修の受講を促進することにより、患者の状態を見極めて、医師・歯科医師があらかじめ作成した手順書によりタイムリーに看護を提供できる看護師の拡充につなげる。助産師の実践能力の向上により助産師の専門性を確保するとともに、働きがいを維持し、就業助産師の離職防止を図る。								
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	公	(千円)		
				16,500			3,667		
		基金	国(A)			(千円)		民	(千円)
			都道府県(B)			(千円)			1,833
			計(A+B)			(千円)			うち受託事業等 (再掲)(注2)
その他(C)		(千円)	8,250						
			8,250						
備考(注3)	令和3年度基金残3,395千円充当								

事業の区分	IV 医療従事者の確保に関する事業				標準事業例	35		
事業名	No	48	新規事業／継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 5,154 千円			
	新人看護職員研修事業							
事業の対象となる医療介護総合確保区域	桑員区域、三泗区域、鈴亀区域、津区域、伊賀区域、松阪区域、伊勢志摩区域、東紀州区域							
事業の実施主体	三重県（県看護協会、県立看護大学委託）							
事業の期間	令和4年4月1日 ～ 令和5年3月31日							
背景にある医療・介護ニーズ	本県における看護職員数は年次推移をみると増加傾向にあるものの、人口10万あたりの従事者は全国下位に位置しているなど、その確保がきわめて重大な課題となっていることから、新人看護職員の研修体制を整備し、早期離職防止を図る必要がある。							
	アウトカム指標	県内の看護職員従事者数 23,610 人（令和2年）を令和7年までに 25,924 人にする。						
事業の内容	研修体制未整備の病院等を対象として新人看護職員に多施設合同研修および新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ入職2年目研修を実施するとともに、研修責任者研修、実地指導者研修を行うことで、新人看護職員研修の実施体制を確保し、県全体で充実した研修が受けられる環境整備を行う。							
アウトプット指標	多施設合同研修に参加した（延べ）人数 1,064 人以上を確保する。 新人助産師合同研修への参加者数 25 人以上を確保する。							
アウトカムとアウトプットの関連	新人看護職員の研修環境整備を行うことで、新人期におけるリアリティショックによる離職を軽減し、看護職員従事者数の増加を図る。							
事業に要する費用の額	金額	総事業費		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	(千円)		
		(A+B+C)		5,154		573		
		基金	国(A)			(千円)	民	(千円)
			都道府県(B)			(千円)		2,862
			計(A+B)			(千円)		うち受託事業等 (再掲)(注2)
その他(C)		(千円)	2,862					
備考(注3)								

事業の区分	IV 医療従事者の確保に関する事業				標準事業例	36	
事業名	No	49	新規事業／継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 1,704 千円		
	がん医療水準均てん化の推進に向けた看護職員資質向上対策事業						
事業の対象となる医療介護総合確保区域	桑員区域、三泗区域、鈴亀区域、津区域、伊賀区域、松阪区域、伊勢志摩区域、東紀州区域						
事業の実施主体	三重県（三重大学医学部附属病院委託）						
事業の期間	令和4年4月1日 ～ 令和5年3月31日						
背景にある医療・介護ニーズ	がんは県民の死因の第1位であり、今後も増加していくと予想される中、避けられるがんを防ぐことや、さまざまながんの病態に応じて、適切ながん医療や支援を受けられる体制を整備するためには、専門性の高い医療従事者の育成が必要である。						
	アウトカム指標	令和3年度の県内拠点病院・準拠点病院8か所を令和4年度には9か所とする。令和5年度までに、県内拠点病院・準拠点病院（9か所）にがん看護専門看護師を9人以上（各病院1人以上）確保する。					
事業の内容	がん患者に対する看護ケアの充実をめざし、臨床実践能力の高い看護師の育成強化を推進するための実務研修を実施する。						
アウトプット指標	研修受講者数9人以上を確保する。（令和4年度）						
アウトカムとアウトプットの関連	研修を実施することによりがん看護に関する専門性の高い看護師を育成し、がん医療や支援体制の充実を図るとともに、がん看護に携わる看護職員のモチベーションを向上させ、ひいては専門看護師の確保につなげる。						
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	公	(千円)
		国 (A)		(千円)		民	(千円)
		都道府県 (B)		(千円)			
		計 (A+B)		(千円)			うち受託事業等 (再掲) (注2)
		その他 (C)		(千円)			(千円)
備考 (注3)							

事業の区分	IV 医療従事者の確保に関する事業				標準事業例	36				
事業名	No	50	新規事業／継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 612 千円					
	助産師活用推進事業									
事業の対象となる医療介護総合確保区域	桑員区域、三泗区域、鈴亀区域、津区域、伊賀区域、松阪区域、伊勢志摩区域、東紀州区域									
事業の実施主体	三重県（県立看護大学委託）									
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日									
背景にある医療・介護ニーズ	産科医が不足する中で正常分娩とハイリスク分娩の機能分担が徹底されていないことから死産数が増加するなどの影響が出ており、安心して出産できる周産期医療体制を確保するため、助産師と医師との役割分担による正常分娩とハイリスク分娩の機能分化を進め、地域医療構想における助産所と医療機関との機能分担や連携体制の整備に寄与することが求められている。 また、本県においては人口10万対医療従事者数が全国下位に位置しているなど、その確保がきわめて重大な課題となっている。特に助産師は、全国41位であり、安全・安心な出産環境の確保を図るために、助産師の専門性を確保し、離職防止や多職種との連携強化を図る必要がある。									
	アウトカム指標	県内就業助産師数 464 人（令和2年）を 510 人（令和6年）にする。								
事業の内容	助産師の養成確保や資質向上等に向けて、助産師としての経験に応じた実践能力習得のための中堅者研修を実施する。									
アウトプット指標	助産師（中堅者）研修への参加者数 30 人以上を確保する									
アウトカムとアウトプットの関連	助産師の実践能力の向上により助産師の専門性を確保するとともに、働きがいを維持し、就業助産師の離職防止を図る。									
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	公	(千円)			
				612			408			
		基金	国 (A)			(千円)		民	(千円)	
			都道府県 (B)			(千円)				
			計 (A+B)			(千円)				
その他 (C)		(千円)		(千円)						
備考 (注3)										

事業の区分	IV 医療従事者の確保に関する事業				標準事業例	36		
事業名	No	51	新規事業／継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 768 千円			
	周産期医療従事者実践能力向上研修事業							
事業の対象となる医療介護総合確保区域	桑員区域、三泗区域、鈴亀区域、津区域、伊賀区域、松阪区域、伊勢志摩区域、東紀州区域							
事業の実施主体	三重県（県産婦人科医会委託）							
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日							
背景にある医療・介護ニーズ	産科医が不足する中で正常分娩とハイリスク分娩の機能分担が徹底されていないことから死産数が増加するなどの影響が出ており、安心して出産できる周産期医療体制を確保するため、助産師と医師との役割分担による正常分娩とハイリスク分娩の機能分化を進め、地域医療構想における助産所と医療機関との機能分担や連携体制の整備に寄与することが求められている。 また、本県においては人口10万対医療従事者数が全国下位に位置しているなど、その確保がきわめて重大な課題となっている。特に助産師は、全国41位であり、安全・安心な出産環境の確保を図るために、助産師の専門性を確保し、離職防止や多職種との連携強化を図る必要がある。							
	アウトカム指標	県内就業助産師数 464 人（令和2年）を 510 人（令和6年）にする。						
事業の内容	県内の周産期医療に携わる助産師や看護師等が、正常分娩に積極的に関わることができるよう助産実践能力向上のための研修会を実施する。また、研修会を通じて、周産期医療に携わる多職種が互いの役割について理解を深めるとともに、顔の見える関係づくりを行う。							
アウトプット指標	助産実践能力向上研修への参加者数 100 人以上を確保する。							
アウトカムとアウトプットの関連	助産師の実践能力の向上により助産師の専門性を確保するとともに、働きがいを維持し、就業助産師の離職防止を図る。							
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	(千円)		
				768				
	基金	国 (A)		(千円)		512	512	
		都道府県 (B)		(千円)				256
		計 (A+B)		(千円)				768
その他 (C)		(千円)		うち受託事業等 (再掲) (注2)	(千円)			
					512			
備考 (注3)								

事業の区分	IV 医療従事者の確保に関する事業				標準事業例	38		
事業名	No	52	新規事業／継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 905 千円			
	看護管理者の院内・地域内継続学習の推進事業							
事業の対象となる医療介護総合確保区域	桑員区域、三泗区域、鈴亀区域、津区域、伊賀区域、松阪区域、伊勢志摩区域、東紀州区域							
事業の実施主体	三重県（三重大学医学部附属病院委託）							
事業の期間	令和4年4月1日 ～ 令和5年3月31日							
背景にある医療・介護ニーズ	本県における看護職員数は年次推移をみると増加傾向にあるものの、人口10万あたりの従事者は全国下位に位置しているなど、その確保がきわめて重大な課題となっていることから、看護管理者のマネジメント能力を向上させ、看護職員の確保・定着促進を図る必要がある。							
	アウトカム指標	県内の看護職員従事者数 23,610 人（令和2年）を令和7年までに 25,924 人にする。						
事業の内容	看護職員のキャリア形成及び定着促進を図るためには、看護管理者のマネジメント能力が求められる。このため看護管理者が施設横断的に相互に学びあうことを目的とした連絡協議会及び研修会を開催する。 また、看護管理者が、組織内で管理者教育を継続的に学ぶことができるよう、看護管理者同士が互いに支援し、学び続ける組織づくりを推進する臨床看護マネジメントリーダー（CNML）を養成する。							
アウトプット指標	CNML の養成研修会を開催し、15 人以上養成する。							
アウトカムとアウトプットの関連	看護管理者のマネジメント能力の向上を図ることで、働きやすい職場環境づくりを進め、看護職員の確保・定着促進につなげる。							
事業に要する費用の額	金額	総事業費		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	公	(千円)	
		(A+B+C)		905			603	
		基金	国 (A)			(千円)	民	(千円)
			都道府県 (B)			(千円)		うち受託事業等 (再掲) (注2)
			計 (A+B)			(千円)		905
その他 (C)		(千円)						
備考 (注3)								

事業の区分	IV 医療従事者の確保に関する事業				標準事業例	37	
事業名	No	53	新規事業／継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 7,349 千円		
	看護職のWLB推進事業						
事業の対象となる医療介護総合確保区域	桑員区域、三泗区域、鈴亀区域、津区域、伊賀区域、松阪区域、伊勢志摩区域、東紀州区域						
事業の実施主体	三重県（県看護協会委託）						
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日						
背景にある医療・介護ニーズ	本県における看護職員数は年次推移をみると増加傾向にあるものの、人口10万当たりの従事者は全国下位に位置しているなど、その確保がきわめて重大な課題となっていることから、看護職のワークライフバランス推進を支援し、看護職員の勤務環境改善を図る必要がある。						
	アウトカム指標	県内の看護職員従事者数 23,610 人（令和2年）を令和7年までに 25,924 人にする。					
事業の内容	夜勤・交代制勤務など厳しい勤務環境にある看護職員が健康で安心して働くことができる環境整備が課題であり、看護職のワークライフバランス推進のための取組を支援するため、相談窓口を設置して医療機関や看護職員からの相談に応じるとともに、医療機関に対して研修を行うとともにアドバイザーによる助言や出前講座等を実施する。						
アウトプット指標	勤務環境改善に取り組む医療機関を対象に、看護業務の効率化等についての研修を実施し、研修参加者数 100 名以上を確保する。						
アウトカムとアウトプットの関連	医療機関の職員を対象にした研修を実施することで職場の勤務環境改善を図り、看護職員の確保につなげる。						
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	(千円)	
				7,349			
	基金	国 (A)		(千円)		民	(千円)
		都道府県 (B)		(千円)			4,899
		計 (A+B)		(千円)			うち受託事業等 (再掲) (注2)
		7,349	(千円)	4,899			
その他 (C)		(千円)					
備考 (注3)							

事業の区分	IV 医療従事者の確保に関する事業				標準事業例	39		
事業名	No	54	新規事業／継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 230,826 千円			
	看護師等養成所運営費補助金							
事業の対象となる医療介護総合確保区域	桑員区域、三泗区域、鈴亀区域、津区域、伊賀区域、松阪区域、伊勢志摩区域、東紀州区域							
事業の実施主体	看護師等養成所							
事業の期間	令和4年4月1日 ～ 令和5年3月31日							
背景にある医療・介護ニーズ	本県における看護職員数は年次推移をみると増加傾向にあるものの、人口10万当たりの従事者は全国下位に位置しているなど、その確保がきわめて重大な課題となっている。このため、人材を養成する看護師等養成所の看護教育の内容を充実し、養成力の向上を図る必要がある。							
	アウトカム指標	県内の看護職員従事者数 23,610 人（令和2年）を令和7年までに 25,924 人にする。						
事業の内容	看護師等養成所の教育内容の充実を図るため、運営に必要な経費に対して補助を行う。							
アウトプット指標	看護師等養成所 12 施設に補助をする。（令和4年度）							
アウトカムとアウトプットの関連	看護師等養成所の運営に必要な経費に補助することで、教育内容の充実を図り、退学者を減少させるなどにより、県内従事者数の確保を図る。							
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	(千円)		
				230,826			17,057	
	基金	国 (A)		(千円)			(千円)	
		都道府県 (B)		(千円)				136,827
		計 (A+B)		(千円)				うち受託事業等 (再掲) (注2)
その他 (C)		(千円)			(千円)			
				230,826				
備考 (注3)	令和3年度基金残 7,000 千円充当							

事業の区分	IV 医療従事者の確保に関する事業				標準事業例	39	
事業名	No	55	新規事業／継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 9,088 千円		
	看護師等養成所実習施設確保推進事業						
事業の対象となる医療介護総合確保区域	桑員区域、三泗区域、鈴亀区域、津区域、伊賀区域、松阪区域、伊勢志摩区域、東紀州区域						
事業の実施主体	県内医療機関						
事業の期間	令和4年4月1日 ～ 令和5年3月31日						
背景にある医療・介護ニーズ	本県における看護職員数は年次推移をみると増加傾向にあるものの、人口10万当たりの従事者は全国下位に位置しているなど、その確保がきわめて重大な課題となっていることから、学生の実習を充実させ、退学者数の減少を図る必要がある。						
	アウトカム指標	県内の看護職員従事者数 23,610 人（令和2年）を令和7年までに 25,924 人にする。					
事業の内容	母性看護、小児看護及び助産の実習病院・診療所において、民間立看護師等養成所からの実習を受け入れ、かつ専任の臨床実習指導者を配置する経費に対して補助する。						
アウトプット指標	母性看護、小児看護及び助産の実習受入施設数 13 か所以上を確保する。						
アウトカムとアウトプットの関連	看護師等養成所における臨床実習施設を確保し、実習内容の充実を図ることで、基礎教育と臨床のギャップを埋め、退学者数の減少、早期離職防止を図る。						
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	(千円)	
				9,088		542	
	基金	国 (A)		(千円)		民	(千円)
		都道府県 (B)		(千円)			2,487
		計 (A+B)		(千円)			うち受託事業等 (再掲) (注2)
その他 (C)		(千円)	4,544	4,544			
備考 (注3)							

事業の区分	IV 医療従事者の確保に関する事業				標準事業例	41	
事業名	No	56	新規事業／継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 17,708 千円		
	看護職員確保拠点強化事業						
事業の対象となる医療介護総合確保区域	桑員区域、三泗区域、鈴亀区域、津区域、伊賀区域、松阪区域、伊勢志摩区域、東紀州区域						
事業の実施主体	三重県（県看護協会委託）						
事業の期間	令和4年4月1日 ～ 令和5年3月31日						
背景にある医療・介護ニーズ	本県における看護職員数は年次推移をみると増加傾向にあるものの、人口10万当たりの従事者は全国下位に位置しているなど、その確保がきわめて重大な課題となっていることから、確保対策の強化が必要である。						
	アウトカム指標	県内の看護職員従事者数 23,610 人（令和2年）を令和7年までに 25,924 人にする。					
事業の内容	看護職員の確保対策を強化するため、SNSの活用を含め、免許保持者届出制度の周知やナースバンクへの登録促進、看護業務のPR、ナースセンターサテライトでの相談対応の強化をはかる。						
アウトプット指標	ナースバンク新規登録者数 500 人以上を確保する。						
アウトカムとアウトプットの関連	免許保持者届出制度登録者個々の、ライフサイクル及びニーズに応じた復職支援を行うことで、看護職員の確保につなげる。						
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	(千円)	
		基金	国 (A)			(千円)	公
	都道府県 (B)		(千円)	民		(千円)	
	計 (A+B)		(千円)				うち受託事業等 (再掲) (注2)
	その他 (C)		(千円)				11,805
備考 (注3)							

事業の区分	IV 医療従事者の確保に関する事業				標準事業例	49
事業名	No	57	新規事業／継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 5,787千円	
	医療勤務環境改善支援センター事業					
事業の対象となる医療介護総合確保区域	桑員区域、三泗区域、鈴亀区域、津区域、伊賀区域、松阪区域、伊勢志摩区域、東紀州区域					
事業の実施主体	三重県（県医師会委託）					
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日					
背景にある医療・介護ニーズ	本県における看護職員数は年次推移をみると増加傾向にあるものの、人口10万当たりの従事者は全国下位に位置しているなど、その確保がきわめて重大な課題となっていることから、勤務環境改善の専門的・総合的な支援を実施し、医療従事者の勤務環境改善を図る必要がある。					
	アウトカム指標	県内の看護職員従事者数 23,610人（令和2年）を令和7年までに25,924人にする。				
事業の内容	医療勤務環境改善マネジメントシステムにより勤務環境改善に取り組む医療機関に対して、労務管理・経営管理に関するアドバイザーの派遣など専門的・総合的な支援を実施するとともに、医師の働き方改革を推進するための支援を実施し、医療従事者の離職防止や定着促進を図る。					
アウトプット指標	医療勤務環境マネジメントシステムの導入・定着支援を行う医療機関数5か所以上を確保する。					
アウトカムとアウトプットの関連	医療勤務環境改善に取り組む医療機関を支援することで、看護職員等の離職防止や定着促進を図り、看護職員の確保につなげる。					
事業に要する費用の額	金額	総事業費		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	(千円)
		(A+B+C)		5,787		
	基金	国(A)		(千円)		(千円)
		都道府県(B)		1,929		3,858
		計(A+B)		(千円)		うち受託事業等 (再掲)(注2)
その他(C)		(千円)		3,858		
備考(注3)						

事業の区分	IV 医療従事者の確保に関する事業				標準事業例	50	
事業名	No	58	新規事業／継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 77,346 千円		
	病院内保育所運営支援事業						
事業の対象となる医療介護総合確保区域	桑員区域、三泗区域、鈴亀区域、津区域、伊賀区域、松阪区域、伊勢志摩区域、東紀州区域						
事業の実施主体	県内医療機関						
事業の期間	令和4年4月1日 ～ 令和5年3月31日						
背景にある医療・介護ニーズ	本県における看護職員数は年次推移をみると増加傾向にあるものの、人口10万当たりの従事者は全国下位に位置しているなど、その確保がきわめて重大な課題となっていることから、病院内保育所の運営を支援し、医療従事者の勤務環境改善を図る必要がある。						
	アウトカム指標	県内の看護職員従事者数 23,610 人（令和2年）を令和7年までに 25,924 人にする。					
事業の内容	病院及び診療所に従事する職員のために保育施設を運営する事業に対して補助することで、看護職員等の医療従事者の離職防止・再就業を図る。						
アウトプット指標	病院内保育所の運営を通じて、看護職員等医療従事者の離職防止等に取り組む医療機関数 24 か所以上を確保する。						
アウトカムとアウトプットの関連	病院内保育所の運営にかかる経費を補助することで、看護職員等の勤務環境の整備を図り、看護職員等の確保につなげる。						
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	(千円)	
				77,346		7,406	
	基金	国 (A)		(千円)		民	(千円)
		都道府県 (B)		(千円)			26,666
		計 (A+B)		(千円)			うち受託事業等 (再掲) (注2)
その他 (C)		(千円)	26,238	(千円)			
備考 (注3)	令和3年度基金残 49,000 千円充当						

事業の区分	IV 医療従事者の確保に関する事業				標準事業例	50	
事業名	No	59	新規事業／継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 35,218 千円		
	病院内保育所施設整備事業						
事業の対象となる医療介護総合確保区域	桑員区域、三泗区域、鈴亀区域、津区域、伊賀区域、松阪区域、伊勢志摩区域、東紀州区域						
事業の実施主体	県内医療機関						
事業の期間	令和4年4月1日 ～ 令和5年3月31日						
背景にある医療・介護ニーズ	本県における看護職員数は年次推移をみると増加傾向にあるものの、人口10万当たりの従事者は全国下位に位置しているなど、その確保がきわめて重大な課題となっていることから、病院内保育所の施設整備を支援し、医療従事者の勤務環境改善を図る必要がある。						
	アウトカム指標	県内の看護職員従事者数 23,610 人（令和2年）を令和7年までに 25,924 人にする。					
事業の内容	病院及び診療所に従事する職員のために保育施設を整備する事業に対して補助することで、看護職員等の医療従事者の離職防止・再就業を図る。						
アウトプット指標	病院内保育所の施設整備を通じて、看護職員等医療従事者の離職防止等に取り組む医療機関数 1 か所以上を確保する。						
アウトカムとアウトプットの関連	病院内保育所の施設整備にかかる経費を補助することで、看護職員等の勤務環境の整備を図り、看護職員等の確保につなげる。						
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	(千円)	
				35,218			
	基金	国 (A)		(千円)		民	(千円)
		都道府県 (B)		(千円)			7,748
		計 (A+B)		(千円)			3,874
		11,622		うち受託事業等 (再掲) (注2)	(千円)		
		その他 (C)	(千円)		23,596		
備考 (注3)							

事業の区分	IV 医療従事者の確保に関する事業				標準事業例	52
事業名	No	60	新規事業／継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 23,449 千円	
	小児救急医療支援事業					
事業の対象となる医療介護総合確保区域	桑員区域、三泗区域、鈴亀区域、津区域、伊賀区域、松阪区域、伊勢志摩区域、東紀州区域					
事業の実施主体	二次救急医療機関					
事業の期間	令和4年4月1日 ～ 令和5年3月31日					
背景にある医療・介護ニーズ	休日や夜間における重症の小児救急患者に対応するため、病院群輪番制等で小児救急患者を受け入れる二次救急医療機関の医師を確保する必要がある。					
	アウトカム指標	幼児死亡率（幼児人口千人あたり）0.15%（令和元年度実績）を令和5年度までに、0.08%未満とする。				
事業の内容	病院群輪番制等で小児救急患者を受け入れる二次救急医療機関の常勤医師の確保に必要な費用に対し補助する。					
アウトプット指標	常勤医師を確保し、病院群輪番制等により小児救急に対応した二次救急医療機関の対応延べ日数 1,080 日（令和元年度実績）を令和4年度も確保する。					
アウトカムとアウトプットの関連	病院群輪番制等で小児救急患者を受け入れる二次医療機関を支援し、平日夜間、祝日等に小児救急に対応する医師数を確保することにより、重症児の救命等につなげる。					
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円) 23,449	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	公 (千円) 10,444
		基金	国 (A)			
	都道府県 (B)		(千円) 5,222			
	計 (A+B)		(千円) 15,666			
	その他 (C)		(千円) 7,783	民 (千円) うち受託事業等 (再掲) (注2) (千円)		
備考 (注3)						

事業の区分	IV 医療従事者の確保に関する事業				標準事業例	52				
事業名	No	61	新規事業／継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 39,446 千円					
	小児救急医療拠点病院運営支援事業									
事業の対象となる医療介護総合確保区域	桑員区域、三泗区域、鈴亀区域、津区域、伊賀区域、松阪区域、伊勢志摩区域、東紀州区域									
事業の実施主体	三重病院									
事業の期間	令和4年4月1日 ～ 令和5年3月31日									
背景にある医療・介護ニーズ	重症の小児救急患者の常時の受入に対応するため、24時間体制で受け入れることができる小児救急医療拠点病院の運営を支援する必要がある。									
	アウトカム指標	令和4年度の小児救急患者受入割合を47%（令和元年度実績）以上確保する。								
事業の内容	小児救急医療拠点病院の運営費に対し補助する。									
アウトプット指標	小児救急診療体制3人（医師1人、その他2人）（令和元年度実績）を令和4年度も確保する。									
アウトカムとアウトプットの関連	小児救急診療体制を整備することで、小児救急患者の受入を確保する。									
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	公	(千円)			
				39,446			26,297			
		基金	国 (A)			(千円)		民	(千円)	
			都道府県 (B)			(千円)				
			計 (A+B)			(千円)				
		13,149								
		39,446			うち受託事業等 (再掲) (注2)	(千円)				
		その他 (C)	(千円)	0						
備考 (注3)										

事業の区分	IV 医療従事者の確保に関する事業				標準事業例	53	
事業名	No	62	新規事業／継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 16,071 千円		
	小児救急電話相談事業						
事業の対象となる医療介護総合確保区域	桑員区域、三泗区域、鈴亀区域、津区域、伊賀区域、松阪区域、伊勢志摩区域、東紀州区域						
事業の実施主体	三重県（委託）						
事業の期間	令和4年4月1日 ～ 令和5年3月31日						
背景にある医療・介護ニーズ	子どもを持つ保護者等が急な病気やけが等に適切に対応できるとともに、不要不急の患者の救急医療機関への受診の軽減を図るため、小児救急医療体制の補強と患者の症状に応じた適切な医療提供体制を構築することが必要である。						
	アウトカム指標	令和4年度の電話相談のうち、不急の救急車利用を防止した、「翌日の医療機関をすすめた」「心配は無いが何かあれば医療機関に行くように説明した」件数を5,983件（令和元年度実績、※過去最高件数）以上にする。					
事業の内容	夜間において、小児患者の保護者等からの病気やけが、事故等に関する電話相談に医療関係の相談員が対応し、適切な助言及び指示を行う。						
アウトプット指標	電話相談件数12,048件（令和元年度実績、※過去最高件数）以上にする。						
アウトカムとアウトプットの関連	電話相談件数を増やし、より多くの保護者に子どもの症状に応じた適切な助言や指示を行うことで、不要不急の医療機関の受診や救急車の出動を抑制し、小児救急医療体制の補強につなげる。						
事業に要する費用の額	金額	総事業費		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	公	(千円)
		(A+B+C)		16,071		447	
	基金	国(A)		(千円)		民	(千円)
		都道府県(B)		5,357			10,267
		計(A+B)		16,071			うち受託事業等 (再掲)(注2)
その他(C)		0	(千円)	10,267			
備考(注3)							

事業の区分	IV 医療従事者の確保に関する事業				標準事業例	-			
事業名	No	63	新規事業／継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 2,854 千円				
	薬剤師を職業として選択するための中高生への啓発事業								
事業の対象となる医療介護総合確保区域	桑員区域、三泗区域、鈴亀区域、津区域、伊賀区域、松阪区域、伊勢志摩区域、東紀州区域								
事業の実施主体	一般社団法人三重県薬剤師会								
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日								
背景にある医療・介護ニーズ	薬剤師の充足状況は、大学薬学部が集中する都市部が高く、三重県の現状は、平成28年の統計では、人口10万人あたりの薬局・医療施設従事薬剤師数は158.7人と全国平均181.3人を下回っている。特に県民の医療の中心となる中小病院では薬剤師の確保に困窮している状態にある。								
	アウトカム指標	アウトカム指標：鈴鹿医療科学大学薬学部入学者の県内高校生の割合を現状値約40%から約50%（令和9年）とする。							
事業の内容	県内の薬剤師の充足率を高めるためには、将来の薬学部への進学を促すため、県内の中学生や高校生を対象に薬剤師の業務を紹介し、その魅力を伝えることが重要である。 そのため、県内の中学校（市町教育委員会）、高等学校における講義（薬剤師の業務紹介）や、病院や薬局での職場見学・職場体験等を実施する。								
アウトプット指標	講義や職場見学・職場体験者数を300人以上とする。								
アウトカムとアウトプットの関連	中学生や高校生の薬剤師に対する理解が深まることで、県内薬学部への入学者が増加し、県内へ就職する薬剤師の増加が見込まれる。								
事業に要する費用の額	金額	総事業費		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	公	(千円)		
		(A+B+C)		2,854			民	(千円)	
	基金	国(A)		(千円)		951		うち受託事業等 (再掲)(注2)	(千円)
		都道府県(B)		(千円)					951
		計(A+B)		(千円)		1,427	(千円)		
その他(C)		(千円)	1,427	(千円)					
備考(注3)									

事業の区分	VI 勤務医の労働時間短縮に向けた体制の整備に関する事業				標準事業例	—	
事業名	No	64	新規事業／継続事業	継続	【総事業費 (計画期間の総額)】 10,666 千円		
	地域医療勤務環境改善体制整備事業						
事業の対象となる医療介護総合確保区域	桑員区域、三泗区域、鈴亀区域、津区域、伊賀区域、松阪区域、伊勢志摩区域、東紀州区域						
事業の実施主体	県内医療機関						
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日						
背景にある医療・介護ニーズ	本県においては医師数（人口10万対）が全国下位に位置しているなど、その確保がきわめて重大な課題となっていることから、医師の離職防止、職場定着促進を図るため、2024年4月からの医師に対する時間外労働の上限規制の適用開始に向け、医師の労働時間短縮を進める必要がある。						
	アウトカム指標	<ul style="list-style-type: none"> ・特定行為研修を受講した看護師数の増加 22人（2021年）→26人（2022年） ・客観的な労働時間管理を導入している医療機関の割合の増加 40.8%（2021年）→47.3%（2022年） 					
事業の内容	医師の労働時間短縮に向けた取組を総合的に実施する事業のために必要な費用を支援する。						
アウトプット指標	補助対象医療機関数1か所以上を確保する。						
アウトカムとアウトプットの関連	地域医療において特別な役割があり、かつ過酷な勤務環境となっている医療機関を対象とし、勤務医の労働時間短縮に向けた総合的な取組に要する経費を支援することで、勤務医の労働時間短縮、働き方改革の推進を図る。						
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	公	(千円)
				10,666			2,667
	基金	国 (A)		(千円)		民	(千円)
		都道府県 (B)		(千円)			2,667
		計 (A+B)		(千円)			8,000
その他 (C)		(千円)	2,666	(千円)			
備考 (注3)	令和2年度基金残 8,000 千円充当						

事業の区分	I-2 地域医療構想の達成に向けた病床数又は病床の機能の変更に関する事業				標準事業例		
事業名	No	65	新規事業/継続事業	新規	【総事業費 (計画期間の総額)】 30,096千円		
	単独支援給付金支給事業						
事業の対象となる医療介護総合確保区域	桑員区域、三泗区域、鈴亀区域、津区域、伊賀区域、松阪区域、伊勢志摩区域、東紀州区域						
事業の実施主体	県内医療機関						
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日						
背景にある医療・介護ニーズ	中長期的な人口減少・高齢化の進行を見据えつつ、今般の新型コロナウイルス感染症への対応により顕在化した地域医療の課題への対応を含め、地域の実情に応じた質の高い効率的な医療提供体制の構築が必要						
	アウトカム指標	令和4年度基金を活用して再編を行う医療機関及び病床機能報告上の病床機能毎の病床数 医療機関数 1医療機関→1医療機関 急性期病床 16床→0床					
事業の内容	医療機関が、地域の関係者間の合意の上、地域医療構想に即した病床機能再編の実施に伴い、減少する病床数に応じた給付金を支給する。						
アウトプット指標	対象となる医療機関数 1医療機関						
アウトカムとアウトプットの関連	地域医療構想調整会議等の合意を踏まえ自主的に病床数を減少する医療機関に対し財政支援することにより、地域医療構想の実現に向けた取組の促進を図る。						
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B)		(千円) 30,096	基金充当額 (国費)における公民の別 (注1)	公	(千円)
		基金	国 (A)	(千円) 30,096		民	(千円) 30,096
		その他 (B)		(千円)			
備考 (注2)							

- ・事業区分3：介護施設等の整備に関する事業
- ・事業区分5：介護従事者の確保に関する事業

事業の区分	3. 介護施設等の整備に関する事業									
事業名	【No.1 (介護分)】 三重県介護サービス施設・設備整備推進事業	【総事業費 (計画期間の総額)】 637,175 千円								
事業の対象となる医療介護総合確保区域	桑員地域・三泗地域・鈴亀地域・津地域・伊賀地域・松阪地域・伊勢志摩地域・東紀州地域									
事業の実施主体	三重県									
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日									
背景にある医療・介護ニーズ	地域の実情に応じた介護サービス提供体制の整備を促進する。									
アウトカム指標	令和5年度末地域密着型特別養護老人ホーム定員予定数1,127床									
事業の内容	<p>①地域密着型サービス施設等の整備に対する助成を行う。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2" style="text-align: center;">整備予定施設等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>地域密着型介護老人福祉施設及び併設のショートステイ</td> <td style="text-align: right;">1施設 (39床)</td> </tr> <tr> <td>認知症高齢者グループホーム</td> <td style="text-align: right;">3施設 (45床)</td> </tr> <tr> <td>定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業所</td> <td style="text-align: right;">1事業所</td> </tr> </tbody> </table> <p>②介護施設等の開設・設置に必要な準備経費に対して支援を行う。 ③介護施設等の整備に必要な定期借地権設定のための一時金に対して支援を行う。 ④介護サービスの改善を図るための既存施設等の改修に対して支援を行う。 ⑤施設整備候補地 (民有地) の積極的な掘り起しのため、地域の不動産事業者等を含めた協議会の設置等を支援する。 ⑥新型コロナウイルスの感染拡大を防止する観点から、介護施設等への簡易陰圧装置の設置、ゾーニング環境等の整備、多床室の個室化に係る経費について支援を行う。 ⑦介護従事者の働く環境を整備するため、介護施設等に勤務する職員の利用する宿舍整備の支援を行う。</p>		整備予定施設等		地域密着型介護老人福祉施設及び併設のショートステイ	1施設 (39床)	認知症高齢者グループホーム	3施設 (45床)	定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業所	1事業所
整備予定施設等										
地域密着型介護老人福祉施設及び併設のショートステイ	1施設 (39床)									
認知症高齢者グループホーム	3施設 (45床)									
定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業所	1事業所									
アウトプット指標	・地域包括ケアシステムの構築に向けて、第8期介護保険事業支援計画等において予定している地域密着型サービス施設等の整備を行う。									
アウトカムとアウトプットの関連	地域包括ケアシステムの構築に向けて、地域密着型サービス施設等の整備を支援することにより、地域の実情に応じた介護サービス提供体制の整備を促進する。									

事業に要する費用の額	事業内容	総事業費 (A+B+C) (注1)	基金		その他 (C) (注2)	
			国(A)	都道府県(B)		
	①地域密着型サービス施設等の整備	(千円) 396,516	(千円) 264,344	(千円) 132,172	(千円) 0	
	②施設等の開設・設置に必要な準備経費	(千円) 201,698	(千円) 134,465	(千円) 67,233	(千円) 0	
	③介護保険施設等の整備に必要な定期借地権設定のための一時金	(千円) 0	(千円) 0	(千円) 0	(千円) 0	
	④介護サービスの改善を図るための既存施設等の改修	(千円) 12,289	(千円) 8,192	(千円) 4,097	(千円) 0	
	⑤民有地マッチング事業	(千円) 0	(千円) 0	(千円) 0	(千円) 0	
	⑥介護施設等における新型コロナウイルス感染拡大防止対策支援事業	(千円) 26,672	(千円) 17,782	(千円) 8,890	(千円) 0	
	⑦介護職員の宿舎施設整備	(千円) 0	(千円) 0	(千円) 0	(千円) 0	
	金額	総事業費(A+B+C)	(千円) 637,175	基金充当額 (国費)における 公民の別 (注3) (注4)	公	(千円) 0
	基金	国(A)	(千円) 424,784		民	(千円) 424,784
		都道府県(B)	(千円) 212,391			うち受託事業等 (再掲)
		計(A+B)	(千円) 637,175		(千円)	
	その他(C)	(千円) 0	(千円)			
備考(注5)	R4 基金 382,553 千円 (国費 255,022 千円、県費 127,531 千円) R3 基金残 254,622 千円					

(注1) 事業者が未定等のため、総事業費が不明の場合は、記載を要しない。

(注2) 事業者が未定で、事業者負担額が不明の場合は、記載を要しない。

(注3) 事業主体が未定で、かつ、想定もできない場合は、記載を要しない。

(注4) 指定管理者制度の活用など設置主体が「公」で、施設の運営が「民」の場合、基金充当額(国費)における公民の別としては、「公」に計上するものとする。

(注5) 備考欄には、複数年度にまたがり支出を要する事業の各年度の基金所用見込額を記載すること。

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業							
	(大項目) 基本整備 (中項目) 基盤整備 (小項目) 介護人材確保対策連携強化事業							
事業名	【No. 1 (介護分)】 介護人材確保対策連携強化事業			【総事業費 (計画期間の総額)】 286 千円				
事業の対象となる医療介護総合確保区域	桑員地域・三泗地域・鈴亀地域・津地域・伊賀地域・松阪地域・伊勢志摩地域・東紀州地域							
事業の実施主体	三重県 (三重県社会福祉協議会に委託)							
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日							
背景にある医療・介護ニーズ	介護人材需給推計では、令和5年度の介護職員の需要見込みは、34,128人であるが、供給見込みは33,693人であり、435人の需給ギャップが生じると推計されている。							
	アウトカム指標：県内の介護職員数32,285人(令和2年度)を令和5年度までに34,128人にする。							
事業の内容	介護従事者の確保・定着に向けた取組を実施するため、行政、事業者団体、職能団体等で構成する協議会を設置し、連携・協働の推進を図りつつ、普及啓発・情報提供・人材確保・就労環境改善など幅広い検討を行う。							
アウトプット指標	介護人材確保対策連携強化のための協議会を3回程度開催する。							
アウトカムとアウトプットの関連	介護人材確保対策連携強化のための協議会で、各団体の連携強化を図るとともに、効果的な取組の検討を行い、介護人材の増加につなげる。							
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	(千円)		
		基金	国 (A)			(千円)	民	(千円)
			都道府県 (B)			(千円)		191
			計 (A+B)			(千円)		うち受託事業等 (再掲) (注2)
		その他 (C)		(千円)		0	(千円)	191
備考 (注3)								

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業							
	(大項目) 参入促進 (中項目) 介護人材の「すそ野」拡大 (小項目) 地域における介護の仕事魅力発信事業							
事業名	【No.2 (介護分)】 福祉・介護の魅力発信事業			【総事業費 (計画期間の総額)】 4,585 千円				
事業の対象となる医療介護総合確保区域	桑員地域・三泗地域・鈴亀地域・津地域・伊賀地域・松阪地域・伊勢志摩地域・東紀州地域							
事業の実施主体	三重県 (三重県社会福祉協議会に委託)							
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日							
背景にある医療・介護ニーズ	介護人材需給推計では、令和5年度の介護職員の需要見込みは、34,128人であるが、供給見込みは33,693人であり、435人の需給ギャップが生じると推計されている。							
	アウトカム指標：県内の介護職員数32,285人(令和2年度)を令和5年度までに34,128人にする。							
事業の内容	県内の中学校・高等学校への訪問及び生徒・保護者・教職員を対象とした福祉・介護の仕事に関する魅力を発信するための「福祉の仕事セミナー」等を実施し、福祉・介護分野への若い人材の参入を促進する。							
アウトプット指標	県内の小学校・中学校・高等学校への訪問40校程度、セミナーの開催30回(2000名受講)程度実施する。							
アウトカムとアウトプットの関連	県内の中学校・高等学校への訪問及び生徒・保護者・教職員を対象に、福祉・介護の仕事に関する魅力発信することで、若い人材の参入を図り、介護人材の増加につなげる。							
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	(千円)		
		基金	国 (A)			(千円)	民	(千円)
			都道府県 (B)			(千円)		3,057
			計 (A+B)			(千円)		うち受託事業等(再掲)(注2)
		その他 (C)		(千円)		0	(千円)	3,057
備考(注3)								

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業							
	(大項目) 参入促進 (中項目) 介護人材の「すそ野」拡大 (小項目) 地域における介護のしごと魅力発信事業							
事業名	【No. 3 (介護分)】 介護職員初任者研修資格取得支援事業			【総事業費 (計画期間の総額)】 8,817 千円				
事業の対象となる医療介護総合確保区域	桑員地域・三泗地域・鈴亀地域・津地域・伊賀地域・松阪地域・伊勢志摩地域・東紀州地域							
事業の実施主体	三重県 (三重県社会福祉協議会に委託)							
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日							
背景にある医療・介護ニーズ	介護人材需給推計では、令和5年度の介護職員の需要見込みは、34,128人であるが、供給見込みは33,693人であり、435人の需給ギャップが生じると推計されている。							
	アウトカム指標：県内の介護職員数32,285人(令和2年度)を令和5年度までに34,128人にする。							
事業の内容	福祉・介護職場に就労を希望する離職者、中高齢者、若者等を対象に介護職員初任者研修等を実施するとともに、福祉・介護職場への就職を支援する。							
アウトプット指標	介護職員初任者研修等を4回開催し、受講者を120名とする。 研修参加者のうち就職者数50名とする。							
アウトカムとアウトプットの関連	介護職場への就労希望者へ介護職員初任者研修を実施することで、介護職場への参入促進を円滑に進める。							
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	(千円)		
		基金	国 (A)			(千円)	民	(千円)
			都道府県 (B)			(千円)		5,878
			計 (A+B)			(千円)		うち受託事業等 (再掲) (注2)
		その他 (C)		(千円)		0	(千円)	5,878
備考 (注3)								

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業						
	(大項目) 参入促進 (中項目) 介護人材の「すそ野」拡大 (小項目) 地域における介護のしごと魅力発信事業						
事業名	【No.4 (介護分)】 介護技術コンテスト				【総事業費】 126 千円		
事業の対象となる医療介護総合確保区域	桑員地域・三泗地域・鈴亀地域・津地域・伊賀地域・松阪地域・伊勢志摩地域・東紀州地域						
事業の実施主体	一般社団法人 三重県介護福祉士会						
事業の期間	令和4年6月1日～令和5年3月31日						
背景にある医療・介護ニーズ	介護人材需給推計では、令和5年度の介護職員の需要見込みは、34,128人であるが、供給見込みは33,693人であり、435人の需給ギャップが生じると推計されている。						
	アウトカム指標：県内の介護職員数32,285人（令和2年度）を令和5年度までに34,128人にする。						
事業の内容	県内の介護事業所・施設に従事している職員、介護福祉士を目指す高校生等による介護技術コンテストにかかる経費を支援する。						
アウトプット指標	40名程度を参加者とする。						
アウトカムとアウトプットの関連	介護施設での虐待などの事件があり、介護の仕事に対するイメージが悪くなる一方であり、介護のイメージアップを図る必要がある。介護技術コンテストをより多くの人に見てもらい、介護のイメージアップを図ることで、介護人材の参入を促進する。						
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	(千円)	
		基金	国 (A)			(千円)	(千円)
			都道府県 (B)			(千円)	63 うち受託事業等 (再掲) (注2) (千円)
			計 (A+B)			(千円)	
		その他 (C)		(千円)		32	
備考 (注3)							

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業						
	(大項目) 参入促進 (中項目) 介護人材の「すそ野」拡大 (小項目) 地域における介護のしごと魅力発信事業						
事業名	【No. 5 (介護分)】 小学生・中学生を対象とした福祉セミナー 高校生・社会人を対象とした福祉セミナー			【総事業費 (計画期間の総額)】 2,280 千円			
事業の対象となる医療介護総合確保区域	桑員地域・三泗地域・鈴亀地域・津地域・伊賀地域・松阪地域・伊勢志摩地域・東紀州地域						
事業の実施主体	県内の養成施設						
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日						
背景にある医療・介護ニーズ	介護人材需給推計では、令和5年度の介護職員の需要見込みは、34,128人であるが、供給見込みは33,693人であり、435人の需給ギャップが生じると推計されている。						
	アウトカム指標：県内の介護職員数32,285人（令和2年度）を令和5年度までに34,128人にする。						
事業の内容	地域住民や学校の生徒を対象に、年齢等に応じた進路・就職相談や介護の魅力・深さを伝えるためのセミナー、イベントの開催等の経費を支援し、多様な層の介護分野への参入促進を図る。						
アウトプット指標	セミナーを4校×2＝8回程度開催する。						
アウトカムとアウトプットの関連	地域住民や学校の生徒を対象に、年齢等に応じた進路・就職相談や介護の魅力・深さを伝えるためのセミナー、イベントの開催等の経費を支援し、多様な層の介護分野への参入促進を図る。						
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	(千円)	
		基金	国 (A)	(千円)		民	(千円)
			都道府県 (B)	(千円)			1,140
			計 (A+B)	(千円)			うち受託事業等 (再掲) (注2)
		その他 (C)	(千円)	570		(千円)	
備考 (注3)							

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業						
	(大項目) 参入促進 (中項目) 介護人材の「すそ野の拡大」 (小項目) 地域における介護の魅力発信事業						
事業名	【No.6 (介護分)】 成年後見制度理解促進事業			【総事業費 (計画期間の総額)】 30 千円			
事業の対象となる医療介護総合確保区域	桑員地域						
事業の実施主体	桑名市 (桑名市社会福祉協議会に委託)						
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日						
背景にある医療・介護ニーズ	成年後見制度の必要性は年々高まってきているが、依然として、制度に対する一般市民の理解は低い。今後、さらに制度の必要性が高まることが予想される。 そこで、制度を必要としている人や一般市民に対して、制度についての理解をさらに高めていくための機会を設けていく必要がある。						
	アウトカム指標：アンケートによる一般市民 (シンポジウム参加者) の成年後見制度に対する理解度 60%						
事業の内容	制度への理解を深めるための市民向けシンポジウムを開催する。						
アウトプット指標	制度への理解を深めるための市民向けシンポジウムを開催する (100名参加・1回開催)						
アウトカムとアウトプットの関連	成年後見制度等の権利擁護に関するシンポジウムの開催により、成年後見制度や市民後見人等に対する理解を広めることに繋げる。						
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	(千円)	
		基金	国 (A)	(千円)		民	(千円)
			都道府県 (B)	(千円)			15
			計 (A+B)	(千円)			うち受託事業等 (再掲) (注2)
		その他 (C)	(千円)	8		(千円)	
					15		
備考 (注3)							

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業						
	(大項目) 参入促進 (中項目) 介護人材の「すそ野」拡大 (小項目) 地域における介護のしごと魅力発信事業						
事業名	【No.7 (介護分)】 介護施設への潜在看護師発掘のための周知ならびに研修支援事業「老健看護セミナー」				【総事業費】 4,000 千円		
事業の対象となる医療介護総合確保区域	桑員地域、三泗地域、鈴亀地域、津、伊賀地域、松阪地域、伊勢志摩地域、東紀州地域						
事業の実施主体	県内の事業者団体						
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日						
背景にある医療・介護ニーズ	地域包括ケアシステムの構築のため、病院からの早期退院、在宅復帰及び在宅生活支援に向けた体制が求められ、介護老人保健施設ではこれまで以上に看護の必要な要介護高齢者や医療度の高い利用者が急増している。県内の看護師に老健施設で働くことの魅力を伝え、看護職員の確保に努める必要がある。						
	アウトカム指標：県内の看護師に老健施設の魅力等が周知され、県内老健施設 76 施設の看護師数が現状数（923 人）より 10 人増となる。						
事業の内容	三重県内各地域で、実際に老健に勤務している看護師等を講師に「老健看護セミナー」研修を実施し、老健看護に興味を持っている現役の看護師及び現在就労していない看護師の老健施設への就労を支援する。						
アウトプット指標	三重県内 3 会場で合計 45 名の看護師を対象とする。						
アウトカムとアウトプットの関連	多くの参加者を得ることで、老健機能の理解を深め、老健施設への人材確保につなげ在宅療養生活をサポートする地域包括システムの構築につなげる。						
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	(千円)	
		基金	国 (A)			(千円)	(千円)
			都道府県 (B)			(千円)	うち受託事業等 (再掲) (注2) (千円)
			計 (A+B)			(千円)	
		その他 (C)		(千円)		1,000	
備考 (注3)							

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業							
	(大項目) 参入促進 (中項目) 介護人材の「すそ野」拡大 (小項目) 若者・女性・高齢者など多様な世代を対象とした介護の職場体験事業							
事業名	【No.8 (介護分)】 職場体験事業			【総事業費 (計画期間の総額)】 4,341 千円				
事業の対象となる医療介護総合確保区域	桑員地域、三泗地域、鈴亀地域、津、伊賀地域、松阪地域、伊勢志摩地域、東紀州地域							
事業の実施主体	三重県 (三重県社会福祉協議会に委託)							
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日							
背景にある医療・介護ニーズ	介護人材需給推計では、令和5年度の介護職員の需要見込みは、34,128人であるが、供給見込みは33,693人であり、435人の需給ギャップが生じると推計されている。							
	アウトカム指標：県内の介護職員数32,285人(令和2年度)を令和5年度までに34,128人にする。							
事業の内容	多様な世代に福祉・介護職場を体験する機会を提供し、新たな人材の参入を促進する。							
アウトプット指標	職場体験日数を472日程度とし、参加者を236名程度とする。							
アウトカムとアウトプットの関連	多様な世代に福祉・介護職場を体験する機会を提供し、実際の介護に触れてもらうことで、新たな人材の参入を促進し、介護人材の増加につなげる。							
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	(千円)		
		基金	国 (A)			(千円)	民	(千円)
			都道府県 (B)			(千円)		2,894
			計 (A+B)			(千円)		うち受託事業等 (再掲) (注2)
		その他 (C)		(千円)		0	(千円)	2,894
備考 (注3)								

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業						
	(大項目) 参入促進 (中項目) 介護人材の「すそ野」拡大 (小項目) 地域の支え合い・助け合い活動に係る担い手確保事業						
事業名	【No.9 (介護分)】 事務お助け隊派遣事業			【総事業費 (計画期間の総額)】 800 千円			
事業の対象となる医療介護総合確保区域	桑員地域						
事業の実施主体	桑名市						
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日						
背景にある医療・介護ニーズ	地区社会福祉協議会などが主体となり、通所Bなどを実施しているが、スタッフの高齢化により、補助金の会計処理、補助金の使用用途など、何度も説明しても理解が困難なことがあり、継続困難なところや、毎年度の実績報告などの時期に、それぞれの団体が窓口に押し寄せ、市の職員が何時間も対応するなど、行政的にも非効率で、団体にとっても負担が解消されない状況が続いているため、事務の効率化を図る。						
	アウトカム指標： 支援を行うことにより、各団体の活動を継続する意向が上昇した割合を50%とする。						
事業の内容	地区社会福祉協議会や通所型サービスB・その他生活支援サービス実施団体の会計処理や補助金申請等の事務作業の補助・マニュアル作成等を行う事業を、事務手続きに詳しい事業者へ委託して実施する。						
アウトプット指標	会計処理や補助金交付申請、マニュアル作成等の支援実施 15 団体						
アウトカムとアウトプットの関連	支援を通じて、団体の事務手続きの負担感の軽減を図る。						
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	公	(千円)
		基金	国 (A)	(千円)		民	400
			都道府県 (B)	(千円)			200
			計 (A+B)	(千円)			600
		その他 (C)	(千円)	200			うち受託事業等 (再掲) (注2) (千円)
備考 (注3)							

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業						
	(大項目) 参入促進 (中項目) 参入促進のための研修支援 (小項目) 介護未経験者に対する研修支援事業						
事業名	【No.10 (介護分)】 介護未経験者等研修支援事業				【総事業費】 600 千円		
事業の対象となる医療介護総合確保区域	伊勢志摩地域						
事業の実施主体	県内の市町						
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日						
背景にある医療・介護ニーズ	介護人材需給推計では、令和5年度の介護職員の需要見込みは、34,128人であるが、供給見込みは33,693人であり、435人の需給ギャップが生じると推計されている。						
	アウトカム指標：県内の介護職員数32,285人（令和2年度）を令和5年度までに34,128人にする。						
事業の内容	介護関係の資格を有しない初任段階の介護職員に対する研修（介護職員初任者研修等）に係る経費を支援する。						
アウトプット指標	介護未経験者に対する研修支援事業全体で12名を目標とする。						
アウトカムとアウトプットの関連	初任段階の介護職員に対して資格取得を支援することで、介護人材の確保・定着が図られる。						
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	(千円)	
		基金	国 (A)			(千円)	(千円)
			都道府県 (B)			(千円)	うち受託事業等 (再掲) (注2) (千円)
			計 (A+B)			(千円)	
		その他 (C)		(千円)			
備考 (注3)							

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業						
	(大項目) 参入促進 (中項目) 参入促進のための研修支援 (小項目) 介護未経験者に対する研修支援事業						
事業名	【No.1 1 (介護分)】 介護職人材確保事業				【総事業費】 300 千円		
事業の対象となる医療介護総合確保区域	桑員地域						
事業の実施主体	県内の市町						
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日						
背景にある医療・介護ニーズ	介護人材需給推計では、令和5年度の介護職員の需要見込みは、34,128人であるが、供給見込みは33,693人であり、435人の需給ギャップが生じると推計されている。						
	アウトカム指標：県内の介護職員数32,285人（令和2年度）を令和5年度までに34,128人にする。						
事業の内容	介護関係の資格を有しない初任段階の介護職員に対する研修（介護職員初任者研修等）に係る経費を支援する。						
アウトプット指標	介護未経験者に対する研修支援事業全体で7名（最大10名）を目標とする。						
アウトカムとアウトプットの関連	初任段階の介護職員に対して資格取得を支援することで、介護人材の確保・定着が図られる。						
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	(千円)	
		基金					
		国 (A)		(千円)			(千円)
		都道府県 (B)		(千円)			うち受託事業等 (再掲) (注2)
		計 (A+B)		(千円)			(千円)
その他 (C)		(千円)					
			300			133	
			133				
			67				
			200				
			100				
備考 (注3)							

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業						
	(大項目) 参入促進 (中項目) 地域のマッチング機能強化 (小項目) 多様な人材層 (若者・女性・高齢者) の参画促進事業						
事業名	【No. 1 2 (介護分)】 福祉・介護人材マッチング支援事業			【総事業費 (計画期間の総額)】 25,417 千円			
事業の対象となる医療介護総合確保区域	桑員地域・三泗地域・鈴亀地域・津地域・伊賀地域・松阪地域・伊勢志摩地域・東紀州地域						
事業の実施主体	三重県 (三重県社会福祉協議会に委託)						
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日						
背景にある医療・介護ニーズ	介護人材需給推計では、令和5年度の介護職員の需要見込みは、34,128人であるが、供給見込みは33,693人であり、435人の需給ギャップが生じると推計されている。						
	アウトカム指標：県内の介護職員数32,285人(令和2年度)を令和5年度までに34,128人にする。						
事業の内容	県福祉人材センターにキャリア支援専門員を配置し、求職者と事業所のマッチング支援や、事業所への指導・助言など、円滑な就労・定着を支援とともに、福祉・介護の就職フェア等を開催する。						
アウトプット指標	就職者数150名程度とする。						
アウトカムとアウトプットの関連	キャリア支援専門員が相談支援を実施することにより、求職者と求人とのマッチングを支援し、介護人材の増加につなげる。						
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	(千円)	
		基金	国 (A)	(千円)		民	(千円)
			都道府県 (B)	(千円)			うち受託事業等 (再掲) (注2)
			計 (A+B)	(千円)			(千円)
		その他 (C)		(千円)			16,945
		0					
備考 (注3)							

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業						
	(大項目) 参入促進 (中項目) 地域のマッチング機能強化 (小項目) 多様な人材層 (若者・女性・高齢者) の参入促進事業						
事業名	【No.13 (介護分)】 介護現場における多様な働き方導入モデル事業				【総事業費 (計画期間の総額)】 30,000 千円		
事業の対象となる医療介護総合確保区域	桑員地域・三泗地域・鈴亀地域・津地域・伊賀地域・松阪地域・伊勢志摩地域・東紀州地域						
事業の実施主体	三重県 (三重県老人保健施設協会に委託)						
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日						
背景にある医療・介護ニーズ	介護人材需給推計では、令和5年度の介護職員の需要見込みは、34,128人であるが、供給見込みは33,693人であり、435人の需給ギャップが生じると推計されている。						
	アウトカム指標：県内の介護職員数32,285人(令和2年度)を令和5年度までに34,128人にする。						
事業の内容	介護現場において多様な働き方の導入による効率的・効果的な事業運営をモデル事業として実施する。						
アウトプット指標	参加事業所数は30施設程度とする。						
アウトカムとアウトプットの関連	多様な働き方の導入モデルとして実施し、効率的・効果的な事業運営を行い、その成果を普及させることにより、多様な層の介護分野への参入促進を図る。						
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	公	(千円)
		基金	国 (A)	(千円)		民	(千円)
			都道府県 (B)	(千円)			20,000
			計 (A+B)	(千円)			うち受託事業等 (再掲) (注2)
		その他 (C)	(千円)	0		(千円)	20,000
備考 (注3)							

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業							
	(大項目) 参入促進 (中項目) 地域のマッチング機能強化 (小項目) 多様な人材層(若者・女性・高齢者)の参入促進事業							
事業名	【No.14(介護分)】 介護助手普及推進事業			【総事業費 (計画期間の総額)】 3,337千円				
事業の対象となる医療介護総合確保区域	桑員地域・三泗地域・鈴亀地域・津地域・伊賀地域・松阪地域・伊勢志摩地域・東紀州地域							
事業の実施主体	三重県(三重県社会福祉協議会に委託)							
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日							
背景にある医療・介護ニーズ	介護人材需給推計では、令和5年度の介護職員の需要見込みは、34,128人であるが、供給見込みは33,693人であり、435人の需給ギャップが生じると推計されている。							
	アウトカム指標：県内の介護職員数32,285人(令和2年度)を令和5年度までに34,128人にする。							
事業の内容	福祉人材センターに介護助手等普及推進員を配置し、介護助手制度の導入を支援する。							
アウトプット指標	介護助手普及推進委員を配置、15件程度マッチングさせる							
アウトカムとアウトプットの関連	介護職の業務の機能分化を図り、介護の周辺業務を担う人材と介護事業所をマッチングすることにより、介護人材の確保と労働環境の整備・改善を図る。							
事業に要する費用の額	金額	総事業費(A+B+C)		(千円)	基金充当額(国費)における公民の別(注1)	(千円)		
		基金	国(A)	(千円)		公	(千円)	
			都道府県(B)	(千円)			民	(千円)
			計(A+B)	(千円)				うち受託事業等(再掲)(注2)
		その他(C)	(千円)	0		(千円)	2,225	
備考(注3)								

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業						
	(大項目) 参入促進 (中項目) 介護人材の「すそ野」拡大 (小項目) 介護に関する入門的研修、生活援助従事者研修の受講等支援事業						
事業名	【No. 1 5 (介護分)】 介護未経験者への一体的支援事業			【総事業費 (計画期間の総額)】 5,050 千円			
事業の対象となる医療介護総合確保区域	桑員地域・三泗地域・鈴亀地域・津地域・伊賀地域・松阪地域・伊勢志摩地域・東紀州地域						
事業の実施主体	三重県 (三重県社会福祉協議会に委託)						
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日						
背景にある医療・介護ニーズ	介護人材需給推計では、令和5年度の介護職員の需要見込みは、34,128人であるが、供給見込みは33,693人であり、435人の需給ギャップが生じると推計されている。						
	アウトカム指標：県内の介護職員数32,285人(令和2年度)を令和5年度までに34,128人にする。						
事業の内容	退職者予定者等に対するテーマ別講座や、介護未経験者に対する入門的研修を実施し、介護分野への参入のきっかけを作るとともに、介護の業務に携わる上での不安を払拭する。また、受講者に対して、就労の情報提供を積極的に行い、就労を希望する者には、介護施設等とのマッチング支援を行う。						
アウトプット指標	企業等へのテーマ別講座を10回程度実施する。 入門的研修(Web講座)を実施し、受講者を200名程度とする。						
アウトカムとアウトプットの関連	退職者等介護未経験者の介護職場への参入促進を図り、介護人材の増加につなげる。						
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	(千円)	
		基金	国 (A)	(千円)		民	(千円)
			都道府県 (B)	(千円)			3,367
			計 (A+B)	(千円)			うち受託事業等(再掲)(注2)
		その他 (C)	(千円)	0		(千円)	3,367
備考(注3)							

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業							
	(大項目) 参入促進 (中項目) 介護人材の「すそ野」拡大 (小項目) 介護に関する入門的研修、生活援助従事者研修の受講等支援事業							
事業名	【No.16 (介護分)】 介護助手導入支援事業			【総事業費 (計画期間の総額)】 6,000 千円				
事業の対象となる医療介護総合確保区域	桑員地域・三泗地域・鈴亀地域・津地域・伊賀地域・松阪地域・伊勢志摩地域・東紀州地域							
事業の実施主体	県内の介護事業所等							
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日							
背景にある医療・介護ニーズ	介護人材需給推計では、令和5年度の介護職員の需要見込みは、34,128人であるが、供給見込みは33,693人であり、435人の需給ギャップが生じると推計されている。							
	アウトカム指標：県内の介護職員数32,285人（令和2年度）を令和5年度までに34,128人にする。							
事業の内容	事業実施施設において、介護の周辺業務の切り分け研修から、地域の元気高齢者の募集、事前説明会、就労マッチングまでを行い、地域の元気な高齢者を「介護助手」として育成する。							
アウトプット指標	10施設にて実施し、20名の就労につなげる。							
アウトカムとアウトプットの関連	介護助手を育成し、介護の周辺業務を担ってもらうことで、介護人材の確保と労働環境の整備・改善を図る。							
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	(千円)		
		基金	国 (A)			(千円)	民	(千円)
			都道府県 (B)			(千円)		4,000
			計 (A+B)			(千円)		うち受託事業等 (再掲) (注2) (千円)
		その他 (C)		(千円)		0		
備考 (注3)								

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業						
	(大項目) 参入促進 (中項目) 介護人材の「すそ野」拡大 (小項目) 介護に関する入門的研修、生活援助従事者研修の受講等支援事業						
事業名	【No.17 (介護分)】 令和4年度松阪市潜在専門職トレーニングプロジェクト			【総事業費 (計画期間の総額)】 640千円			
事業の対象となる医療介護総合確保区域	津地域・松阪地域・伊勢志摩地域						
事業の実施主体	県内の事業者団体						
事業の期間	令和4年5月1日～令和5年3月31日						
背景にある医療・介護ニーズ	介護人材需給推計では、令和5年度の介護職員の需要見込みは、34,128人であるが、供給見込みは33,693人であり、435人の需給ギャップが生じると推計されている。						
	アウトカム指標：県内の介護職員数32,285人（令和2年度）を令和5年度までに34,128人にする。						
事業の内容	① 高校・大学への学校訪問による講座および業種別ガイダンスの開催 ② 有資格者で未就労の人を中心とした職場復帰のための研修事業 ③ 高齢者福祉職場へのマッチングのための「介護と就職の相談会」の開催						
アウトプット指標	① 県内2校の高校と、大学へ出前事業を実施し、参加者を合計65名とする。 ② 研修を3回開催し、参加者を20名とする。 ③ 就職フェアを開催、マッチングによる就職者を10名とする。						
アウトカムとアウトプットの関連	介護サービス事業への理解度を深め、介護サービス従事者数の増を図る。						
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	(千円)	
		基金	国 (A)	(千円)		民	(千円)
			都道府県 (B)	(千円)			320
			計 (A+B)	(千円)			うち受託事業等 (再掲) (注2) (千円)
		その他 (C)		(千円)			160
備考 (注3)							

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業							
	(大項目) 参入促進 (中項目) 介護人材の「すそ野」拡大 (小項目) 介護に関する入門的研修、生活援助従事者研修の受講等支援事業							
事業名	【No.18 (介護分)】 介護補助員講習の実施等からマッチングまでの一体的支援事業 (介護補助員講習)				【総事業費 (計画期間の総額)】 2,188 千円			
事業の対象となる医療介護総合確保区域	桑員地域・三泗地域・鈴亀地域・津地域・伊賀地域・松阪地域・伊勢志摩地域・東紀州地域							
事業の実施主体	県内の事業者団体							
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日							
背景にある医療・介護ニーズ	介護人材需給推計では、令和5年度の介護職員の需要見込みは、34,128人であるが、供給見込みは33,693人であり、435人の需給ギャップが生じると推計されている。							
	アウトカム指標：県内の介護職員数32,285人(令和2年度)を令和5年度までに34,128人にする。							
事業の内容	介護に関する入門的な知識・技術を習得するための研修を実施し、研修修了者と事業所とのマッチングを実施する。							
アウトプット指標	研修を4回実施し、受講者を60名、就職者を約50名とする。							
アウトカムとアウトプットの関連	入門的な研修の実施からマッチングまでを一体的に行うことにより、多様な人材の介護職場への参入促進を図る。							
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	公	(千円)	
		基金	国 (A)			(千円)	民	(千円)
			都道府県 (B)			(千円)		1,094
			計 (A+B)			(千円)		うち受託事業等 (再掲) (注2)
		その他 (C)		(千円)		547	(千円)	
備考 (注3)								

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業							
	(大項目) 参入促進 (中項目) 介護人材の「すそ野」拡大 (小項目) 介護に関する入門的研修、生活援助従事者研修の受講等支援事業							
事業名	【No.19 (介護分)】 介護に関する入門的研修等の実施からマッチングまでの一体的支援事業 (生活援助従事者研修)				【総事業費】 1,178 千円			
事業の対象となる医療介護総合確保区域	桑員地域・三泗地域・鈴亀地域・津地域・伊賀地域・松阪地域・伊勢志摩地域・東紀州地域							
事業の実施主体	県内の事業者団体							
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日							
背景にある医療・介護ニーズ	介護人材需給推計では、令和5年度の介護職員の需要見込みは、34,128人であるが、供給見込みは33,693人であり、435人の需給ギャップが生じると推計されている。							
	アウトカム指標：県内の介護職員数32,285人(令和2年度)を令和5年度までに34,128人にする。							
事業の内容	介護に関する入門的な知識・技術を習得するための研修、生活援助従事者研修などを実施し、研修修了者と事業所とのマッチングを実施する。							
アウトプット指標	研修を1回(11日間)実施し、受講者を15名、就職者を約50名とする。							
アウトカムとアウトプットの関連	入門的な研修の実施からマッチングまでを一体的に行うことにより、多様な人材の介護職場への参入促進を図る。							
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	公	(千円)	
		基金	国 (A)			(千円)	民	(千円)
			都道府県 (B)			(千円)		589
			計 (A+B)			(千円)		うち受託事業等 (再掲) (注2) (千円)
		その他 (C)		(千円)		295		
備考 (注3)								

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業						
	(大項目) 参入促進 (中項目) 介護人材の「すそ野」拡大 (小項目) 将来の介護サービスを支える若者世代の参入促進事業						
事業名	【No.20 (介護分)】 将来の介護サービスを支える若年世代の参入促進事業			【総事業費】 3,790 千円			
事業の対象となる医療介護総合確保区域	桑員地域・三泗地域・鈴亀地域・津地域・伊賀地域・松阪地域・伊勢志摩地域・東紀州地域						
事業の実施主体	県内の養成施設						
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日						
背景にある医療・介護ニーズ	介護人材需給推計では、令和5年度の介護職員の需要見込みは、34,128人であるが、供給見込みは33,693人であり、435人の需給ギャップが生じると推計されている。						
	アウトカム指標：県内の介護職員数32,285人（令和2年度）を令和5年度までに34,128人にする。						
事業の内容	①近隣の日本語学校に在籍する留学生に対して、介護福祉士の仕事内容等についてPRする。 ②養成施設に在籍する留学生に介護の仕事理解促進ブック等により、カリキュラム外で日本語学習支援・専門知識学習支援を行う。 ③実習の手引きを作成する。						
アウトプット指標	留学生等に対して1回程度セミナーを開催し、啓発を行う。						
アウトカムとアウトプットの関連	外国人留学生に対し、介護の仕事に関する理解促進と学習支援を行うことで、外国人の参入促進・資質の向上を図る。						
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	公 (千円)	
		基金	国 (A)	(千円)			民 (千円)
			都道府県 (B)	(千円)			
			計 (A+B)	(千円)			
		その他 (C)		(千円)			うち受託事業等 (再掲) (注2) (千円)
		3,790	1,895	947	2,842	948	
備考 (注3)							

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業							
	(大項目) 参入促進 (中項目) 介護人材の「すそ野」拡大 (小項目) 外国人留学生及び特定技能1号外国人の受入環境整備事業							
事業名	【No. 2 1 (介護分)】 外国人留学生への奨学金支給に係る支援事業			【総事業費】 96,285 千円				
事業の対象となる医療介護総合確保区域	桑員地域・三泗地域・鈴亀地域・津地域・伊賀地域・松阪地域・伊勢志摩地域・東紀州地域							
事業の実施主体	県内の介護事業所等							
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日							
背景にある医療・介護ニーズ	介護人材需給推計では、令和5年度の介護職員の需要見込みは、34,128人であるが、供給見込みは33,693人であり、435人の需給ギャップが生じると推計されている。							
	アウトカム指標：県内の介護職員数32,285人（令和2年度）を令和5年度までに34,128人にする。							
事業の内容	外国人留学生に対し、介護事業所等が学費や生活費などを奨学金として貸与又は給付する。							
アウトプット指標	外国人留学生90人以上に奨学金を貸与又は給付する。							
アウトカムとアウトプットの関連	外国人留学生に対し、学費や生活費などを奨学金として貸与又は給付することで、外国人の参入促進・資質の向上を図る。							
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	(千円)		
		基金	国 (A)	(千円)		公	(千円)	
			都道府県 (B)	(千円)			民	(千円)
			計 (A+B)	(千円)				うち受託事業等 (再掲) (注2)
		その他 (C)	(千円)	64,190		(千円)		
備考 (注3)								

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業							
	(大項目) 参入促進 (中項目) 介護人材の「すそ野」拡大 (小項目) 介護分野への就職に向けた支援金貸付事業							
事業名	【No. 2 2 (介護分)】 福祉系高校修学資金貸付事業			【総事業費】 11,237 千円				
事業の対象となる医療介護総合確保区域	桑員地域・三泗地域・鈴亀地域・津地域・伊賀地域・松阪地域・伊勢志摩地域・東紀州地域							
事業の実施主体	三重県社会福祉協議会							
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日							
背景にある医療・介護ニーズ	介護人材需給推計では、令和5年度の介護職員の需要見込みは、34,128人であるが、供給見込みは33,693人であり、435人の需給ギャップが生じると推計されている。							
	アウトカム指標：県内の介護職員数32,285人（令和2年度）を令和5年度までに34,128人にする。							
事業の内容	福祉系高校に在学し、介護福祉士の資格の取得をめざす学生に対し、修学資金を貸し付ける。							
アウトプット指標	福祉系高校の学生20人以上に修学資金を貸与する。							
アウトカムとアウトプットの関連	福祉系高校の学生に対し、修学資金を貸付けることで、若者の介護分野への参集促進につなげる。							
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	(千円)		
		基金	国 (A)	(千円)		公	(千円)	
			都道府県 (B)	(千円)			民	(千円)
			計 (A+B)	(千円)				うち受託事業等 (再掲) (注2)
		その他 (C)	(千円)	0		(千円)	7,491	
備考 (注3)								

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業						
	(大項目) 参入促進 (中項目) 介護人材の「すそ野」拡大 (小項目) 介護分野への就職に向けた支援金貸付事業						
事業名	【No. 2 3 (介護分)】 介護分野就職支援金貸付事業			【総事業費】 41,020 千円			
事業の対象となる医療介護総合確保区域	桑員地域・三泗地域・鈴亀地域・津地域・伊賀地域・松阪地域・伊勢志摩地域・東紀州地域						
事業の実施主体	三重県社会福祉協議会						
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日						
背景にある医療・介護ニーズ	介護人材需給推計では、令和5年度の介護職員の需要見込みは、34,128人であるが、供給見込みは33,693人であり、435人の需給ギャップが生じると推計されている。						
	アウトカム指標：県内の介護職員数32,285人（令和2年度）を令和5年度までに34,128人にする。						
事業の内容	他業種で働いていた者等が介護分野において介護職員として就職する際に必要な経費に対し就職支援金を貸し付ける。						
アウトプット指標	就職支援金を200人に貸し付ける。						
アウトカムとアウトプットの関連	就職する際に必要な経費の一部を支援することで、より幅広く新たな介護人材の参入促進につなげる。						
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	(千円)	
		基金	国 (A)	(千円)		民	(千円)
			都道府県 (B)	(千円)			27,347
			計 (A+B)	(千円)			うち受託事業等 (再掲) (注2) (千円)
		その他 (C)	(千円)	0		27,347	
備考 (注3)							

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業							
	(大項目) 資質の向上 (中項目) キャリアアップ研修の支援 (小項目) 多様な人材層に対する介護人材キャリアアップ研修支援事業							
事業名	【No.24 (介護分)】 小規模事業所等人材育成支援事業			【総事業費】 6,942千円				
事業の対象となる医療介護総合確保区域	桑員地域・三泗地域・鈴亀地域・津地域・伊賀地域・松阪地域・伊勢志摩地域・東紀州地域							
事業の実施主体	三重県 (三重県社会福祉協議会に委託)							
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日							
背景にある医療・介護ニーズ	介護人材需給推計では、令和5年度の介護職員の需要見込みは、34,128人であるが、供給見込みは33,693人であり、435人の需給ギャップが生じると推計されている。							
	アウトカム指標：県内の介護職員数32,285人(令和2年度)を令和5年度までに34,128人にする。							
事業の内容	人材の確保・育成・定着の取組が困難な小規模な事業所等を対象に、人材確保・育成・定着についての専門的な助言・指導を行うアドバイザーや職員の資質向上のための研修講師を派遣する。							
アウトプット指標	人材の育成・定着等、専門的な助言・指導を行うアドバイザーを20回程度派遣する。 介護技術の向上等に関する研修講師を120回程度派遣する。							
アウトカムとアウトプットの関連	介護職員が研修を受講し、キャリアアップできる環境を整備することで、介護職員の資質向上と職場への定着につなげる。							
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	(千円)		
		基金	国 (A)			(千円)	民	(千円)
			都道府県 (B)			(千円)		4,628
			計 (A+B)			(千円)		うち受託事業等 (再掲) (注2)
		その他 (C)		(千円)		0	(千円)	4,628
備考 (注3)								

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業								
	(大項目) 資質の向上 (中項目) キャリアアップ研修の支援 (小項目) 多様な人材層に対する介護人材キャリアアップ研修支援事業								
事業名	【No. 2 5 (介護分)】 社会福祉研修センター事業費補助金			【総事業費】 10,007 千円					
事業の対象となる医療介護総合確保区域	桑員地域・三泗地域・鈴亀地域・津地域・伊賀地域・松阪地域・伊勢志摩地域・東紀州地域								
事業の実施主体	三重県社会福祉協議会								
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日								
背景にある医療・介護ニーズ	介護人材需給推計では、令和5年度の介護職員の需要見込みは、34,128人であるが、供給見込みは33,693人であり、435人の需給ギャップが生じると推計されている。								
	アウトカム指標：県内の介護職員数32,285人（令和2年度）を令和5年度までに34,128人にする。								
事業の内容	社会福祉法人三重県社会福祉協議会の社会福祉研修センターによる資質向上に関する研修の実施に要する経費を補助する。								
アウトプット指標	研修を27回開催し、受講者を1,640名とする。								
アウトカムとアウトプットの関連	介護職員が研修を受講し、キャリアアップできる環境を整備することで、介護職員の資質向上と職場への定着につなげる。								
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	公 民	(千円)		
		基金	国 (A)	(千円)			6,671	(千円)	
			都道府県 (B)	(千円)				3,336	6,671
			計 (A+B)	(千円)				10,007	うち受託事業等 (再掲) (注2) (千円)
		その他 (C)	(千円)	0			6,671		
備考 (注3)									

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業							
	(大項目) 資質の向上 (中項目) キャリアアップ研修の支援 (小項目) 多様な人材層に対する介護人材キャリアアップ研修支援事業							
事業名	【No.26 (介護分)】 介護サービス提供事業者資質向上事業			【総事業費】	3,150 千円			
事業の対象となる医療 介護総合確保区域	桑員地域・三泗地域・鈴亀地域・津地域・伊賀地域・松阪地域・伊勢志摩地域・東紀州地域							
事業の実施主体	県内の事業者団体、職能団体							
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日							
背景にある医療・介護 ニーズ	高齢者が、介護が必要な状態になっても安心して在宅生活を送れるよう、地域包括システムの構築に向け、医療や介護等の関係者間の連携強化、介護従事者の資質向上を図る。							
	アウトカム指標：研修受講予定 3,000 人の資質向上を図る。							
事業の内容	介護サービス提供事業者の資質を向上するため、介護サービスのあり方等について、各年度の重要なテーマや課題について研修を実施する。							
アウトプット指標	研修を 55 回開催する。							
アウトカムとアウトプットの関連	団体に補助することにより研修の開催を促し、受講の機会を増加させ、研修の受講者数の増加を図る。							
事業に要する費用の額	金額	総事業費		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	(千円)		
		(A+B+C)		3,150		民	(千円)	
		基金	国 (A)	(千円)			2,100	うち受託事業等(再掲)(注2) (千円)
			都道府県 (B)	(千円)			1,050	
			計 (A+B)	(千円)			3,150	
その他 (C)		(千円)	0					
備考 (注3)								

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業						
	(大項目) 資質の向上 (中項目) キャリアアップ研修の支援 (小項目) 多様な人材層に対する介護人材キャリアアップ研修支援事業						
事業名	【No. 27 (介護分)】 喀痰吸引等指導者養成研修事業 (長寿介護課)			【総事業費 (計画期間の総額)】 999 千円			
事業の対象となる医療介護総合確保区域	桑員地域・三泗地域・鈴亀地域・津地域・伊賀地域・松阪地域・伊勢志摩地域・東紀州地域						
事業の実施主体	三重県 (三重県社会福祉協議会に委託)						
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日						
背景にある医療・介護ニーズ	高齢者が地域において、安心して生活できる体制の構築を図る。						
	アウトカム指標：喀痰吸引等を実施可能な介護職員等の数 (認定特定行為業務従事者数) を 3,668 人にする。						
事業の内容	医療的ケアを必要とする利用者に対して、安全で安心できる喀痰吸引や経管栄養の介護サービスを提供することができる介護職員等の養成を図るための指導者養成研修を実施する。 必要なケアを安全に提供するため、適切に喀痰吸引等を行うことができる介護職員等を養成する。						
アウトプット指標	喀痰吸引等の研修 (1号・2号研修) を受ける介護職員等の指導や評価のできる指導者の養成を 100 名/年とするために、指導者養成研修を 2 回 (50 名×2 回) 開催する。						
アウトカムとアウトプットの関連	指導者養成研修を実施することにより介護職員等の喀痰吸引等研修の講師数を増加させ、事業所における研修の実施を促進し、喀痰吸引等を実施可能な介護職員等の数の増加を図る。						
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	(千円)	
		基金	国 (A)	(千円)		民	(千円)
			都道府県 (B)	(千円)			666
			計 (A+B)	(千円)			うち受託事業等 (再掲) (注2) (千円)
		その他 (C)		(千円)			666
		999					
備考 (注3)							

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業						
	(大項目) 資質の向上 (中項目) キャリアアップ研修の支援 (小項目) 多様な人材層に対する介護人材キャリアアップ研修支援事業						
事業名	【No. 2 8 (介護分)】 喀痰吸引等指導者養成研修事業(障がい福祉課)				【総事業費】 939 千円		
事業の対象となる医療介護総合確保区域	桑員地域・三泗地域・鈴亀地域・津地域・伊賀地域・松阪地域・伊勢志摩地域・東紀州地域						
事業の実施主体	三重県 (三重県社会福祉協議会に委託)						
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日						
背景にある医療・介護ニーズ	障がい児・者及び高齢者が地域において、安心して生活できる体制の構築を図る。						
	アウトカム指標：喀痰吸引等を実施可能な介護職員等の数（認定特定行為業務従事者数）を1,400人にする。						
事業の内容	医療的ケアを必要とする利用者に対して、安全で安心できる喀痰吸引や経管栄養の障害福祉及び介護サービスを提供することができる介護職員等を養成する。						
アウトプット指標	喀痰吸引等を行うことができる介護職員の養成を50名/年とするため、3号喀痰吸引等研修を1回(50名)開催する。						
アウトカムとアウトプットの関連	事業所における研修の実施を促進し、喀痰吸引等を実施可能な介護職員等の数の増加を図る。						
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	公	71(千円)
		基金	国 (A)	(千円)		民	555(千円)
			都道府県 (B)	(千円)			うち受託事業等 (再掲) (注2)
			計 (A+B)	(千円)			555(千円)
		その他 (C)		(千円)			
		0					
備考 (注3)							

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業						
	(大項目) 資質の向上 (中項目) キャリアアップ研修の支援 (小項目) 多様な人材層に対する介護人材キャリアアップ研修支援事業						
事業名	【No.29 (介護分)】 介護職員キャリアアップ研修受講支援事業			【総事業費】 17,498 千円			
事業の対象となる医療介護総合確保区域	桑員地域・三泗地域・鈴亀地域・津地域・伊賀地域・松阪地域・伊勢志摩地域・東紀州地域						
事業の実施主体	県内の職能団体、事業者団体、介護事業所等						
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日						
背景にある医療・介護ニーズ	介護人材需給推計では、令和5年度の介護職員の需要見込みは、34,128人であるが、供給見込みは33,693人であり、435人の需給ギャップが生じると推計されている。						
	アウトカム指標：県内の介護職員数32,285人（令和2年度）を令和5年度までに34,128人にする。						
事業の内容	介護職員のキャリアアップ研修の実施にかかる経費の支援や、研修の受講経費を支援し、介護職員の資質の向上と定着を図る。						
アウトプット指標	キャリアアップのための研修受講料を150名に補助する。						
アウトカムとアウトプットの関連	介護職員が研修を受講し、キャリアアップできる環境を整備することで、介護職員の資質向上と職場への定着につなげる。						
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	(千円)	
		基金	国 (A)	(千円)		民	(千円)
			都道府県 (B)	(千円)			うち受託事業等 (再掲) (注2)
			計 (A+B)	(千円)			(千円)
		その他 (C)		(千円)			(千円)
備考 (注3)							

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業							
	(大項目) 資質の向上 (中項目) キャリアアップ研修の支援 (小項目) 多様な人材層に対する介護人材キャリアアップ研修支援事業							
事業名	【No. 30 (介護分)】 介護支援専門員スーパーバイザー派遣事業				【総事業費 (計画期間の総額)】 1,053 千円			
事業の対象となる医療介護総合確保区域	桑員地域・三泗地域・鈴亀地域・津地域・伊賀地域・松阪地域・伊勢志摩地域・東紀州地域							
事業の実施主体	県内の機能団体							
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日							
背景にある医療・介護ニーズ	社会保障審議会介護給付費分科会の議論においても、ケアマネジメントの公平中立性の確保が十分でなかったり、特に管理者が主任ケアマネジャーでない居宅介護支援事業所においては、ケアプラン等に関する事業所内での検討会が十分に開催されていなかったりしており、また、OJT も十分でないなどといった指摘があった。これらの課題に対して、事業所内だけでの解決が難しいケースもあり、第三者として派遣されたアドバイザーが関わることにより、取り組みの推進が期待できる。							
	アウトカム指標：当事業を利用した事業所に利用後のアンケートを求め、自立支援のケアマネジメントに役立ったとする回答が90%以上							
事業の内容	派遣希望の申し出のあった事業所に対して、経験豊かな主任介護支援専門員による助言ができるよう ZOOM を活用したオンラインでの面談を実施し、所属する介護支援専門員の抱える問題解決を支援し、より質の高いケアマネジメントが地域で展開できるようにする。							
アウトプット指標	面談を実施する事業所数を10事業所とする。							
アウトカムとアウトプットの関連	新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、原則として ZOOM を活用したオンラインによりスーパーバイザーとしての主任介護支援専門員の面談を実施し、ケアマネジメントの公正中立性の推進や質の向上につながる。							
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	(千円)		
		基金	国 (A)	(千円)		公	(千円)	
			都道府県 (B)	(千円)			民	(千円)
			計 (A+B)	(千円)				うち受託事業等 (再掲) (注2) (千円)
		その他 (C)	(千円)	264				
備考 (注3)								

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業								
	(大項目) 資質の向上 (中項目) キャリアアップ研修の支援 (小項目) 多様な人材層に対する介護人材キャリアアップ研修支援事業								
事業名	【No. 3 1 (介護分)】 介護福祉士実習指導者講習会				【総事業費】 515 千円				
事業の対象となる医療介護総合確保区域	桑員地域・三泗地域・鈴亀地域・津地域・伊賀地域・松阪地域・伊勢志摩地域・東紀州地域								
事業の実施主体	県内の職能団体								
事業の期間	令和4年6月1日～令和5年3月31日								
背景にある医療・介護ニーズ	介護人材需給推計では、令和5年度の介護職員の需要見込みは、34,128人であるが、供給見込みは33,693人であり、435人の需給ギャップが生じると推計されている。								
	アウトカム指標：県内の介護職員数32,285人（令和2年度）を令和5年度までに34,128人にする。								
事業の内容	「介護実習」を指導する社会福祉施設等の実習指導者に対して必要な専門的知識及び教育方法を習得させる講習会にかかる経費を支援する。								
アウトプット指標	三重県内介護事業所、施設介護職員対象 1回開催4日間 オンデマンド配信と集合研修の併用 受講人数40名								
アウトカムとアウトプットの関連	介護職員が研修を受講し、キャリアアップできる環境を整備することで、介護職員の資質向上と職場への定着につなげる。								
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	(千円)			
		基金	国 (A)			(千円)	公	(千円)	
			都道府県 (B)			(千円)		民	257
			計 (A+B)			(千円)			うち受託事業等 (再掲) (注2)
		その他 (C)		(千円)				(千円)	
			515						
			257						
			129						
			386						
			129						
備考 (注3)									

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業					
	(大項目) 資質の向上 (中項目) キャリアアップ研修の支援 (小項目) 多様な人材層に対する介護人材キャリアアップ研修支援事業					
事業名	【No.32 (介護分)】 終末期ケアセミナー				【総事業費】 293 千円	
事業の対象となる医療介護総合確保区域	桑員地域・三泗地域・鈴亀地域・津地域・伊賀地域・松阪地域・伊勢志摩地域・東紀州地域					
事業の実施主体	県内の職能団体					
事業の期間	令和4年6月1日～令和5年3月31日					
背景にある医療・介護ニーズ	介護人材需給推計では、令和5年度の介護職員の需要見込みは、34,128人であるが、供給見込みは33,693人であり、435人の需給ギャップが生じると推計されている。					
	アウトカム指標：県内の介護職員数32,285人（令和2年度）を令和5年度までに34,128人にする。					
事業の内容	介護施設、事業所における「終末期ケア」を理解し、活用するためのセミナーにかかる経費を支援する。					
アウトプット指標	三重県内介護事業所、施設介護職員対象 受講人数50名					
アウトカムとアウトプットの関連	介護職員が研修を受講し、キャリアアップできる環境を整備することで、介護職員の資質向上と職場への定着につなげる。					
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	(千円)
		基金	国 (A)			(千円)
	都道府県 (B)		(千円)	146		
	計 (A+B)		(千円)	73		
	その他 (C)		(千円)	219		うち受託事業等 (再掲) (注2) (千円)
			74			
備考 (注3)						

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業						
	(大項目) 資質の向上 (中項目) キャリアアップ研修の支援 (小項目) 多様な人材層に対する介護人材キャリアアップ研修支援事業						
事業名	【No.33 (介護分)】 介護職員フォローアップ研修				【総事業費】 400 千円		
事業の対象となる医療介護総合確保区域	桑員地域・三泗地域・鈴亀地域・津地域・伊賀地域・松阪地域・伊勢志摩地域・東紀州地域						
事業の実施主体	県内の職能団体						
事業の期間	令和4年6月1日～令和5年3月31日						
背景にある医療・介護ニーズ	介護人材需給推計では、令和5年度の介護職員の需要見込みは、34,128人であるが、供給見込みは33,693人であり、435人の需給ギャップが生じると推計されている。						
	アウトカム指標：県内の介護職員数32,285人（令和2年度）を令和5年度までに34,128人にする。						
事業の内容	介護サービスの基本的知識、技術者の習得に関する出張研修にかかる経費を支援する。						
アウトプット指標	三重県内介護事業所、施設介護職員対象 10回（1回 2時間） 受講人数100名						
アウトカムとアウトプットの関連	介護職員が研修を受講し、キャリアアップできる環境を整備することで、介護職員の資質向上と職場への定着につなげる。						
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	(千円)	
		基金	国 (A)			(千円)	200
			都道府県 (B)			(千円)	
			計 (A+B)			(千円)	
		その他 (C)		(千円)		100	
備考 (注3)							

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業								
	(大項目) 資質の向上 (中項目) キャリアアップ研修の支援 (小項目) 多様な人材層に対する介護人材キャリアアップ研修支援事業								
事業名	【No. 3 4 (介護分)】 身体拘束廃止セミナー				【総事業費】 219 千円				
事業の対象となる医療介護総合確保区域	桑員地域・三泗地域・鈴亀地域・津地域・伊賀地域・松阪地域・伊勢志摩地域・東紀州地域								
事業の実施主体	県内の職能団体								
事業の期間	令和4年6月1日～令和5年3月31日								
背景にある医療・介護ニーズ	介護人材需給推計では、令和5年度の介護職員の需要見込みは、34,128人であるが、供給見込みは33,693人であり、435人の需給ギャップが生じると推計されている。								
	アウトカム指標：県内の介護職員数32,285人（令和2年度）を令和5年度までに34,128人にする。								
事業の内容	高齢者の介護施設、事業所における「身体拘束廃止のための方策」セミナーにかかる経費を支援する。								
アウトプット指標	三重県内介護事業所、施設介護職員対象 受講人数30名								
アウトカムとアウトプットの関連	介護職員が研修を受講し、キャリアアップできる環境を整備することで、介護職員の資質向上と職場への定着につなげる。								
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	(千円)			
		基金	国 (A)			(千円)	公	(千円)	
			都道府県 (B)			(千円)		民	109
			計 (A+B)			(千円)			うち受託事業等 (再掲) (注2)
		その他 (C)		(千円)				(千円)	
			219			164			
						55			
備考 (注3)									

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業								
	(大項目) 資質の向上 (中項目) キャリアアップ研修の支援 (小項目) 多様な人材層に対する介護人材キャリアアップ研修支援事業								
事業名	【No.35 (介護分)】 介護福祉士ファーストステップ研修				【総事業費】	1,295千円			
事業の対象となる医療介護総合確保区域	桑員地域・三泗地域・鈴亀地域・津地域・伊賀地域・松阪地域・伊勢志摩地域・東紀州地域								
事業の実施主体	県内の職能団体								
事業の期間	令和4年6月1日～令和5年3月31日								
背景にある医療・介護ニーズ	介護人材需給推計では、令和5年度の介護職員の需要見込みは、34,128人であるが、供給見込みは33,693人であり、435人の需給ギャップが生じると推計されている。								
	アウトカム指標：県内の介護職員数32,285人（令和2年度）を令和5年度までに34,128人にする。								
事業の内容	基礎的業務を熟知する職員を対象とする、小規模チームのリーダーや初任者等の指導員係としての任用が期待できる職員を養成する研修にかかる経費を支援する。								
アウトプット指標	三重県内介護事業所、施設介護職員対象 1回開催15日間、1回6.5時間 受講人数20名								
アウトカムとアウトプットの関連	介護職員が研修を受講し、キャリアアップできる環境を整備することで、介護職員の資質向上と職場への定着につなげる。								
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	(千円)			
		基金	国 (A)			(千円)	公	(千円)	
			都道府県 (B)			(千円)		民	647
			計 (A+B)			(千円)			うち受託事業等 (再掲) (注2)
		その他 (C)		(千円)				(千円)	
			1,295						
			647						
			324						
			971						
			324						
備考 (注3)									

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業							
	(大項目) 資質の向上 (中項目) キャリアアップ研修の支援 (小項目) 多様な人材層に対する介護人材キャリアアップ研修支援事業							
事業名	【No.36 (介護分)】 介護福祉士基本研修				【総事業費】	477 千円		
事業の対象となる医療介護総合確保区域	桑員地域・三泗地域・鈴亀地域・津地域・伊賀地域・松阪地域・伊勢志摩地域・東紀州地域							
事業の実施主体	県内の職能団体							
事業の期間	令和4年6月1日～令和5年3月31日							
背景にある医療・介護ニーズ	介護人材需給推計では、令和5年度の介護職員の需要見込みは、34,128人であるが、供給見込みは33,693人であり、435人の需給ギャップが生じると推計されている。							
	アウトカム指標：県内の介護職員数32,285人（令和2年度）を令和5年度までに34,128人にする。							
事業の内容	介護福祉士取得後およそ2年以内の者の生涯研修の基礎となる基本研修にかかる経費を支援する。							
アウトプット指標	三重県内介護事業所、施設介護職員対象 1回開催4日間、1日目～3日目はオンデマンド研修 4日目オンライン研修 受講人数20名							
アウトカムとアウトプットの関連	介護職員が研修を受講し、キャリアアップできる環境を整備することで、介護職員の資質向上と職場への定着につなげる。							
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	(千円)		
		基金	国 (A)			(千円)	公民	(千円)
			都道府県 (B)			(千円)		うち受託事業等 (再掲) (注2)
			計 (A+B)			(千円)		(千円)
		その他 (C)		(千円)				
			477					
			238			238		
			119					
			357					
			120					
備考 (注3)								

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業								
	(大項目) 資質の向上 (中項目) キャリアアップ研修の支援 (小項目) 多様な人材層に対する介護人材キャリアアップ研修支援事業								
事業名	【No.37 (介護分)】 サービス提供責任者研修			【総事業費】 617千円					
事業の対象となる医療介護総合確保区域	桑員地域・三泗地域・鈴亀地域・津地域・伊賀地域・松阪地域・伊勢志摩地域・東紀州地域								
事業の実施主体	県内の職能団体								
事業の期間	令和4年6月1日～令和5年3月31日								
背景にある医療・介護ニーズ	介護人材需給推計では、令和5年度の介護職員の需要見込みは、34,128人であるが、供給見込みは33,693人であり、435人の需給ギャップが生じると推計されている。								
	アウトカム指標：県内の介護職員数32,285人（令和2年度）を令和5年度までに34,128人にする。								
事業の内容	訪問介護事業者のサービス提供責任者に対するホームヘルパー育成研修や個別支援計画作成方法の研修にかかる経費を支援する。								
アウトプット指標	三重県内訪問介護事業所サービス提供責任者対象 1回開催 6日間 受講人数40名								
アウトカムとアウトプットの関連	介護職員が研修を受講し、キャリアアップできる環境を整備することで、介護職員の資質向上と職場への定着につなげる。								
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	(千円)			
		基金	国 (A)			(千円)	308	(千円)	
			都道府県 (B)			(千円)			うち受託事業等 (再掲) (注2)
			計 (A+B)			(千円)			
		その他 (C)		(千円)		155	(千円)		
備考 (注3)									

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業							
	(大項目) 資質の向上 (中項目) キャリアアップ研修の支援 (小項目) 多様な人材層に対する介護人材キャリアアップ研修支援事業							
事業名	【No.38 (介護分)】 介護支援専門員資質向上事業				【総事業費 (計画期間の総額)】 328 千円			
事業の対象となる医療介護総合確保区域	三重県全域							
事業の実施主体	県内の事業者団体							
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日							
背景にある医療・介護ニーズ	介護支援専門員による介護計画の質の向上							
	アウトカム指標：研修回数2回、計60名に研修を実施する。共に2時間から3時間の講義とワークショップを行う。							
事業の内容	介護支援専門員による介護計画の質の向上を目指し、公的支援だけでなく、地域の支援、家族の支援を含め面的、シームレスな計画作成が求められている介護支援専門員に、観察・記録、重篤化防止に向けてデータのダブルチェック等の研修を行う。							
アウトプット指標	研修回数2回、参加人数各回30名							
アウトカムとアウトプットの関連	研修を通じ、介護支援専門員による介護計画の質の向上を図る。							
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	(千円)		
		基金	国 (A)	(千円)		公	(千円)	
			都道府県 (B)	(千円)			民	(千円)
			計 (A+B)	(千円)			うち受託事業等 (再掲) (注2)	
		その他 (C)	(千円)	(千円)				
備考 (注3)								

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業								
	(大項目) 資質の向上 (中項目) キャリアアップ研修の支援 (小項目) 多様な人材層に対する介護人材キャリアアップ研修支援事業								
事業名	【No.39 (介護分)】 管理者および中堅職員向けのリーダーとしての学 びと資質向上を目指す事業			【総事業費 (計画期間の総額)】 649 千円					
事業の対象となる医療介護総合 確保区域	三重県全域								
事業の実施主体	県内の事業者団体								
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日								
背景にある医療・介護ニーズ	認知症ケアに携わる小規模施設の管理者並びに中堅職員に対し、認知症ケ アの基本に立ち返りフォローアップの研修の実施、また、地域共生社会構 築に向けて福祉理念の共有と学習								
	アウトカム指標：小規模事業所の従業者 150 名以上に研修を実施								
事業の内容	認知症ケアの基本に立ち返るフォローアップの研修の実施、また、地域共 生社会構築に向けて福祉理念の共有と学習。さらに感染症、非常時の災害 時、働く環境の整備等、小規模なりに働きがいのある職場を構築するた めの研修の実施。								
アウトプット指標	認知症ケアの基本に立ち返るフォローアップの研修の実施、ま た、地域共生社会構築に向けて福祉理念の共有と学習。さらに感 染症や災害等非常時の対応を学習する研修を行う。 実施回数 5 回、各研修参加者数 30～50 名を予定。								
アウトカムとアウトプットの関 連	小規模事業所の抱える問題は多く、体質として平時の改善力、非常時の対 応力に脆弱性がある。そのウイークポイントの改善の支援。また、小規模 で生活支援を受ける要介護者、地域社会に暮らす認知症の方と家族に対 し、小規模事業者の持つ俊敏性と機動力を生かせるよう学びを広げ、更な る地域との連携を深めてもらう研修を 150 名以上に受講してもらう。								
事業に要する費用の額	金 額	総事業費		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	公 民	(千円)		
		(A+B+C)		649					
		基金	国 (A)				(千円)		(千円)
			都道府県 (B)				(千円)		324
			計 (A+B)				(千円)		うち受託事 業等 (再掲) (注2)
その他 (C)		(千円)		163	(千円)				
備考 (注3)									

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業							
	(大項目) 資質の向上 (中項目) キャリアアップ研修の支援 (小項目) 多様な人材層に対する介護人材キャリアアップ研修支援事業							
事業名	【No.40 (介護分)】 摂食・嚥下障害に携わる介護従事者への研修			【総事業費】 170 千円				
事業の対象となる医療介護総合確保区域	桑員地域・三泗地域・鈴亀地域・津地域・伊賀地域・松阪地域・伊勢志摩地域・東紀州地域							
事業の実施主体	三重県言語聴覚士会							
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日							
背景にある医療・介護ニーズ	食事はすべての人に必要な活動の一つであるが、超高齢化社会となった昨今において摂食嚥下障害という問題を抱えた方は病院にも在宅にも施設にも多く存在する。それら様々な環境において適切な食事を行うためには、介護従事者による摂食嚥下障害者に対する支援の質向上のための知識・技術の習得・研鑽は必要不可欠である。							
	アウトカム指標：食事を行うための環境設定や食事形態・水分増粘についての知識、他職種との連携についてなどを理解し、現場にて実行することができる人材が増えることで、美味しく安全に適切な栄養を摂取できる方が増加する。							
事業の内容	介護従事者が介護の現場で摂食嚥下機能を評価し、適切な姿勢、食事形態の選択や食事介助方法を習得し誤嚥性肺炎に罹患する方の数を減少させることができるようにする。							
アウトプット指標	研修を1回開催し、受講者数を50名とする。							
アウトカムとアウトプットの関連	食事を行うための環境設定や食事形態・水分増粘についての知識、他職種との連携についてなどを理解し、現場にて実行することができる人材が増えることで、美味しく安全に適切な栄養を摂取できる方が増加する。							
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円) 170	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	公	(千円)	
		基金	国 (A)			(千円) 85	民	(千円) 85
			都道府県 (B)			(千円) 42		うち受託事業 等 (再掲) (注 2) (千円)
			計 (A+B)			(千円) 127		
		その他 (C)		(千円) 43				
備考 (注3)								

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業							
	(大項目) 資質の向上 (中項目) キャリアアップ研修の支援 (小項目) 多様な人材層に対する介護人材キャリアアップ研修支援事業							
事業名	【No.4 1 (介護分)】 地域での医療的ケアの充実と病気の重症化予防研修			【総事業費】	769 千円			
事業の対象となる医療介護総合確保区域	桑員地域・三泗地域・鈴亀地域・津地域・伊賀地域・松阪地域・伊勢志摩地域・東紀州地域(尾鷲地域・熊野地域)							
事業の実施主体	三重県看護協会 各地区支部 (県内 9 地区で実施)							
事業の期間	令和 4 年 4 月 1 日～令和 5 年 3 月 3 1 日							
背景にある医療・介護ニーズ	地域包括ケアシステムの推進が進められる中、看護職は医療機関と地域ケアの両方の現場で活動しており、果たす役割は大きい。県内において各地域における課題は様々であり、地域に応じた連携体制づくりやそれに応じることのできる人材育成が重要である。							
	アウトカム指標： 研修会の企画運営を通じて関係機関との顔の見える関係づくりを構築し、円滑な連携体制構築を目指す。							
事業の内容	県内 9 地区で医療的ケア・重症化予防と生活支援の視点を持った研修会を実施する。その内容は「地域包括ケア推進に関すること」から選定する。							
アウトプット指標	研修回数： 9 回 (9 地区各 1 回実施) 研修受講人数： 270 人 (各地区 30 人)							
アウトカムとアウトプットの関連	県内全圏域で研修を開催することにより、入院医療機関と在宅医療に係る機関との情報共有や連携が図られ、両者の協働による退院支援の実施および切れ目のない継続的な医療提供体制が確保される。							
事業に要する費用の額	金額	総事業費		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注 1)	(千円)		
		(A + B + C)		769		民	(千円)	
		基金	国 (A)				(千円)	384
			都道府県 (B)				(千円)	うち受託事業等 (再掲) (注 2)
			計 (A + B)				(千円)	576
その他 (C)		(千円)	193					
備考 (注 3)								

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業							
	(大項目) 資質の向上 (中項目) キャリアアップ研修の支援 (小項目) 多様な人材層に対する介護人材キャリアアップ研修支援事業							
事業名	【No. 4 2 (介護分)】 マネジメントスタンダードプログラム for kaigo(MSP-K)				【総事業費】 1,029 千円			
事業の対象となる医療介護総合確保区域	桑員地域・三泗地域・鈴亀地域・津地域・伊賀地域・松阪地域・伊勢志摩地域・東紀州地域							
事業の実施主体	県内の事業者団体							
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日							
背景にある医療・介護ニーズ	介護人材需給推計では、令和5年度の介護職員の需要見込みは、34,128人であるが、供給見込みは33,693人であり、435人の需給ギャップが生じると推計されている。							
	アウトカム指標：県内の介護職員数32,285人（令和2年度）を令和5年度までに34,128人にする。							
事業の内容	介護現場の管理職・リーダーを対象とした、介護の現場に必要とされているマネジメント力を身に付け、介護現場全体の力を高めるための研修にかかる経費を支援する。							
アウトプット指標	実施回数：1回（360分） 受講者：地域の介護管理職30名							
アウトカムとアウトプットの関連	研修を通して、介護管理職が実際の介護現場で活かせるマネジメント・スキルを習得することを支援することで、介護現場全体の力を高め、介護職員の資質向上と職場への定着につなげる。							
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	(千円)		
		基金	国 (A)			(千円)	民	(千円)
			都道府県 (B)			(千円)		うち受託事業 等 (再掲) (注 2) (千円)
			計 (A+B)			(千円)		
		その他 (C)		(千円)				
		258						
備考 (注3)								

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業							
	(大項目) 資質の向上 (中項目) キャリアアップ研修の支援 (小項目) 多様な人材層に対する介護人材キャリアアップ研修支援事業							
事業名	【No. 4 3 (介護分)】 高齢者住まい看取り研修				【総事業費】 633 千円			
事業の対象となる医療介護総合確保区域	桑員地域・三泗地域・鈴亀地域・津地域・伊賀地域・松阪地域・伊勢志摩地域・東紀州地域							
事業の実施主体	県内の事業者団体							
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日							
背景にある医療・介護ニーズ	介護人材需給推計では、令和5年度の介護職員の需要見込みは、34,128人であるが、供給見込みは33,693人であり、435人の需給ギャップが生じると推計されている。							
	アウトカム指標：県内の介護職員数32,285人（令和2年度）を令和5年度までに34,128人にする。							
事業の内容	看取りの疑似体験や、看取りに必要な知識の習得を通じて、高齢者住まいにおける看取りを推進するためのプログラムにかかる経費を支援する。							
アウトプット指標	実施回数：1回（240分） 受講者：地域の介護職員30名							
アウトカムとアウトプットの関連	介護職員が研修を受講し、キャリアアップできる環境を整備することで、介護職員の資質向上と職場への定着につなげる。							
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	(千円)		
		基金	国 (A)			(千円)	民	(千円)
			都道府県 (B)			(千円)		うち受託事業等 (再掲) (注2)
			計 (A+B)			(千円)		(千円)
		その他 (C)		(千円)				
			633					
			316			316		
			158					
			474					
			159					
備考 (注3)								

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業							
	(大項目) 資質の向上 (中項目) キャリアアップ研修の支援 (小項目) 多様な人材層に対する介護人材キャリアアップ研修支援事業							
事業名	【No. 4 4 (介護分)】 VR 認知症				【総事業費】 366 千円			
事業の対象となる医療介護総合確保区域	桑員地域・三泗地域・鈴亀地域・津地域・伊賀地域・松阪地域・伊勢志摩地域・東紀州地域							
事業の実施主体	県内の事業者団体							
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日							
背景にある医療・介護ニーズ	介護人材需給推計では、令和5年度の介護職員の需要見込みは、34,128人であるが、供給見込みは33,693人であり、435人の需給ギャップが生じると推計されている。							
	アウトカム指標：県内の介護職員数32,285人（令和2年度）を令和5年度までに34,128人にする。							
事業の内容	VRにより認知症当事者の視点を疑似体験することを通じて、認知症ケアのポイントを習得するための研修にかかる経費を支援する。							
アウトプット指標	実施回数：1回（90分） 受講者：地域の介護職員50名							
アウトカムとアウトプットの関連	介護職員が研修を受講し、キャリアアップできる環境を整備することで、介護職員の資質向上と職場への定着につなげる。							
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	公	(千円)	
		基金	国 (A)			(千円)	民	(千円)
			都道府県 (B)			(千円)	うち受託事業等 (再掲) (注2)	(千円)
			計 (A+B)			(千円)		
		その他 (C)		(千円)				
			366					
			183			183		
			91					
			274					
			92					
備考 (注3)								

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業								
	(大項目) 資質の向上 (中項目) キャリアアップ研修の支援 (小項目) 多様な人材層に対する介護人材キャリアアップ研修支援事業								
事業名	【No.45 (介護分)】 介護支援専門員研修助成事業			【総事業費 (計画期間の総額)】 1,200 千円					
事業の対象となる医療介護総合確保区域	桑員地域								
事業の実施主体	桑名市								
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日								
背景にある医療・介護ニーズ	高齢化の進展により、今後介護サービスの利用者に対して介護支援専門員が不足するとともに、より高度な知見を有する主任介護支援専門員による助言、指導の重要性が高まることが予想される。								
	アウトカム指標: 介護支援専門員30名が介護支援専門員証の更新を行い、24名が主任介護支援専門員の資格を新たに取得する、または更新する。								
事業の内容	市内の介護サービスを提供する事業者が、その事業所に勤務する介護支援専門員に係る下記の研修費用を負担した場合に、事業者に対し負担した費用の1/2を助成する。 1. 介護保険法第69条の8に規定する更新研修に該当する研修 2. 介護保険法施行規則第140条の68第1項第1号に規定する主任介護支援専門員研修又は同項第2号に規定する主任介護支援専門員更新研修に該当する研修								
アウトプット指標	1. 更新研修 30名受講 2. 主任介護支援専門員研修又は主任介護支援専門員更新研修 24名受講								
アウトカムとアウトプットの関連	介護支援専門員の金銭的負担を軽減することにより、介護支援専門員等の人員の確保を行う。								
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	公	(千円)		
		基金	国 (A)			(千円)	民	(千円)	
			都道府県 (B)			(千円)		うち受託事業等 (再掲) (注2)	(千円)
			計 (A+B)			(千円)			(千円)
		その他 (C)		(千円)				(千円)	
備考 (注3)									

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業									
	(大項目) 資質の向上 (中項目) キャリアアップ研修の支援 (小項目) 介護施設、介護事業所への出前研修の支援事業									
事業名	【No.46 (介護分)】 在宅介護サービススキルアップ研修事業			【総事業費】	84千円					
事業の対象となる医療介護総合確保区域	松阪地域									
事業の実施主体	県内の事業者団体									
事業の期間	令和4年8月1日～令和5年3月31日									
背景にある医療・介護ニーズ	今後入院病床が削減されていく中、自宅で最後まで暮らす高齢者が増加することが見込まれる。看取りケアも含めた在宅サービスの質を向上することで、地域高齢者が安心して暮らすことができる。									
	アウトカム指標： アンケートによる在宅での看取りの理解度80%									
事業の内容	看取りを含めた、在宅介護サービスの資質向上のための研修を3回シリーズで実施する。									
アウトプット指標	研修は3回で1回定員を30人とし、90人の参加が目標。									
アウトカムとアウトプットの関連	参加者の事業所での看取りケアに対する実施の不安や在宅で高齢者を支えていくことができる不安が取り除ける効果がある。									
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	84	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	公	(千円)		
		基金	国 (A)		(千円)			42	(千円)	42
			都道府県 (B)		(千円)			21	うち受託事業等 (再掲) (注2)	(千円)
			計 (A+B)		(千円)			63		
		その他 (C)		(千円)	21					
備考 (注3)										

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業							
	(大項目) 資質の向上 (中項目) キャリアアップ研修の支援 (小項目) 介護施設、介護事業所への出前研修の支援事業							
事業名	【No. 4 7 (介護分)】 介護施設、介護事業所への出前研修			【総事業費】 1,002 千円				
事業の対象となる医療介護総合確保区域	桑員地域・三泗地域・鈴亀地域・津地域・伊賀地域・松阪地域・伊勢志摩地域・東紀州地域							
事業の実施主体	公益財団法人介護労働安定センター (三重支所)							
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日							
背景にある医療・介護ニーズ	介護人材需給推計では、令和5年度の介護職員の需要見込みは、34,128人であるが、供給見込みは33,693人であり、435人の需給ギャップが生じると推計されている。							
	アウトカム指標：県内の介護職員数32,285人(令和2年度)を令和5年度までに34,128人にする。							
事業の内容	介護施設や介護事業所に赴き実施する出前研修や、事業所近隣で集合して行う研修に係る講師派遣を行う。							
アウトプット指標	介護施設、介護事業所への出前研修等を20回実施する。							
アウトカムとアウトプットの関連	代替要員の確保が困難なため、外部研修等への参加が困難な施設・事業所へ出前研修を実施することで、施設・事業所の資質向上が図られ、職場への定着につなげる。							
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	公	(千円)	
		基金	国 (A)			(千円)	民	(千円)
			都道府県 (B)			(千円)		501
			計 (A+B)			(千円)		うち受託事業等 (再掲) (注2)
		その他 (C)		(千円)		251	(千円)	
備考 (注3)								

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業							
	(大項目) 資質の向上 (中項目) キャリアアップ研修の支援 (小項目) 介護施設、介護事業所への出前研修の支援事業							
事業名	【No.48 (介護分)】 介護施設、介護事業所向け感染症対応力向上研修事業				【総事業費 (計画期間の総額)】 1,001 千円			
事業の対象となる医療介護総合確保区域	桑員地域・三泗地域・鈴亀地域・津地域・伊賀地域・松阪地域・伊勢志摩地域・東紀州地域							
事業の実施主体	三重県 (県看護協会委託)							
事業の期間	令和4年7月1日～令和5年3月31日							
背景にある医療・介護ニーズ	介護人材需給推計では、令和5年度において435人の需給ギャップが生じていることから、介護施設等の感染症対応力を向上させ、介護職員の確保・定着促進を図る必要がある。							
	アウトカム指標：県内の介護職員数32,285人(令和2年度)を令和5年度までに34,128人にする。							
事業の内容	介護職員の確保・定着促進を図るうえで介護施設等の新型コロナウイルス感染症を始めとした感染症への対応力の向上が重要であることから、各施設に感染管理認定看護師等の専門家を派遣し実地研修を開催する。							
アウトプット指標	介護施設、介護事業所へ実地研修を5回以上開催する。							
アウトカムとアウトプットの関連	介護施設等へ実地研修を実施することで、各施設の感染症への対応力向上を図り、介護職員の確保・定着につなげる。							
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	(千円)		
		基金	国 (A)			(千円)	民	(千円)
			都道府県 (B)			(千円)		667
			計 (A+B)			(千円)		うち受託事業等 (再掲) (注2)
		その他 (C)		(千円)		667		
備考 (注3)								

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業							
	(大項目) 資質の向上 (中項目) 研修代替要員の確保支援 (小項目) 各種研修にかかる代替要員の確保対策事業							
事業名	【No. 49 (介護分)】 各種研修にかかる代替要員の確保対策事業			【総事業費】 11,454 千円				
事業の対象となる医療介護総合確保区域	桑員地域・三泗地域・鈴亀地域・津地域・伊賀地域・松阪地域・伊勢志摩地域・東紀州地域							
事業の実施主体	県内の介護事業所等							
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日							
背景にある医療・介護ニーズ	介護人材需給推計では、令和5年度の介護職員の需要見込みは、34,128人であるが、供給見込みは33,693人であり、435人の需給ギャップが生じると推計されている。							
	アウトカム指標：県内の介護職員数32,285人（令和2年度）を令和5年度までに34,128人にする。							
事業の内容	介護職員の質の向上と定着、キャリアパスを図る観点から、現任職員が多様な研修に参加することが可能となるよう、研修受講中の代替要員確保のための経費を支援する。							
アウトプット指標	代替要員確保による研修受講人数を30名とする。							
アウトカムとアウトプットの関連	代替要員確保により研修の受講がしやすくなり、職員の介護職場への定着が図られる。							
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	(千円)		
		基金	国 (A)			(千円)	民	(千円)
			都道府県 (B)			(千円)		3,818
			計 (A+B)			(千円)		うち受託事業等 (再掲) (注2)
		その他 (C)		(千円)		5,727	(千円)	
備考 (注3)								

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業								
	(大項目) 資質の向上 (中項目) 潜在的有資格者の再就業促進 (小項目) 潜在介護福祉士の再就業促進事業								
事業名	【No. 5 0 (介護分)】 潜在的有資格者等再就業促進事業			【総事業費】 6,907 千円					
事業の対象となる医療介護総合確保区域	桑員地域・三泗地域・鈴亀地域・津地域・伊賀地域・松阪地域・伊勢志摩地域・東紀州地域								
事業の実施主体	三重県 (三重県社会福祉協議会に委託)								
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日								
背景にある医療・介護ニーズ	介護人材需給推計では、令和5年度の介護職員の需要見込みは、34,128人であるが、供給見込みは33,693人であり、435人の需給ギャップが生じると推計されている。								
	アウトカム指標：県内の介護職員数32,285人(令和2年度)を令和5年度までに34,128人にする。								
事業の内容	福祉・介護分野に就業していない介護福祉士等の有資格者を対象に、介護に関する知識や技術を再確認するための研修を実施し、介護分野への再就業を促進する。								
アウトプット指標	研修(Web講座)を実施し、受講者を50名以上とする。 研修受講者のうち就職者数10名以上とする。								
アウトカムとアウトプットの関連	潜在的有資格者を対象とした研修を実施することで、福祉・介護職場への呼び戻しを図り、介護人材の確保につなげる。								
事業に要する費用の額	金額	総事業費		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	公 民	(千円)		
		(A+B+C)		6,907					
		基金	国(A)				(千円)		(千円)
			都道府県(B)				2,302		4,605
			計(A+B)				(千円)		うち受託事業等(再掲) (注2)
その他(C)		(千円)	0		(千円)				
						4,605			
備考(注3)									

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業	
	(大項目) 資質の向上 (中項目) 地域包括ケア構築のための広域的人材養成 (小項目) 認知症ケアに携わる人材の育成のための研修事業	
事業名	【No.51 (介護分)】 認知症ケアに携わる人材の育成のための研修事業	【総事業費 (計画期間の総額)】 10,874 千円
事業の対象となる医療介護総合確保区域	桑員地域、三泗地域、鈴亀地域、津地域、伊賀地域、松阪地域、伊勢志摩地域、東紀州地域	
事業の実施主体	三重県（三重県立看護大学、三重県医師会、三重県歯科医師会、三重県薬剤師会、三重大学医学部附属病院、国立長寿医療研究センター、明慎福祉会、認知症介護研究・研修センターに委託）	
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日	
背景にある医療・介護ニーズ	高齢者が、介護が必要な状態になっても安心して在宅生活を送れるよう、地域包括システムの構築に向け、医療や介護等の関係者間の連携強化、介護従事者の資質向上を図る。	
	アウトカム指数： ①かかりつけ医認知症対応力向上研修修了者数：1,082人 ②認知症サポート医養成研修修了者数：263人 ③一般病院勤務の医療従事者に対する認知症対応力向上研修修了者数：3,161人 ④看護職員認知症対応力向上研修修了者数：430人 ⑤歯科医師認知症対応力向上研修修了者数：379人 ⑥薬剤師認知症対応力向上研修修了者数：829人 * 認知症施策推進大綱等をベースにした三重県の修了者数（令和4年度末・累計）	
事業の内容	国の要綱で定めている以下の研修及びカリキュラム検討会を実施する。 ① かかりつけ医認知症対応力向上研修 ② 認知症サポート医養成研修 ③ 認知症サポート医フォローアップ研修 ④ 病院勤務の医療従事者認知症対応力向上研修 ⑤ 看護職員認知症対応力向上研修 ⑥ 歯科医師認知症対応力向上研修 ⑦ 薬剤師認知症対応力向上研修 ⑧ 病院勤務以外の看護師等認知症対応力向上研修 ⑨ 認知症初期集中支援推進事業 ⑩ 認知症地域支援推進員研修 ⑪ 認知症対応型サービス事業管理者研修 ⑫ 認知症対応型サービス事業開設者研修 ⑬ 小規模多機能サービス等計画作成担当者研修 ⑭ 認知症介護指導者フォローアップ研修 ⑮ 認知症介護研修カリキュラム検討会	

アウトプット指標	① かかりつけ医認知症対応力向上研修：60名受講 ② 認知症サポート医養成研修：10名受講 ③ 認知症サポート医フォローアップ研修：240名受講 ④ 病院勤務の医療従事者認知症対応力向上研修：200名受講 ⑤ 看護職員認知症対応力向上研修：100名受講 ⑥ 歯科医師認知症対応力向上研修：50名受講 ⑦ 薬剤師認知症対応力向上研修：100名受講 ⑧ 病院勤務以外の看護師等認知症対応力向上研修：200名受講 ⑨ 認知症初期支援チーム員研修：35名受講 ⑩ 認知症地域支援推進員養成研修：62名受講 ⑪ 認知症対応型サービス事業管理者研修：120名受講 ⑫ 認知症対応型サービス事業開設者研修：30名受講 ⑬ 小規模多機能型サービス等計画作成担当者研修：30名受講 ⑭ 認知症介護指導者フォローアップ研修：1名受講 ⑮ 認知症介護研修カリキュラム検討会：2回実施						
アウトカムとアウトプットの関連	認知症の早期診断・発見にかかる体制を構築するとともに、医療、介護現場における認知症対応に携わる人材育成を図る。						
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円) 10,874	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	公	(千円) 0
基金		国 (A)	(千円) 7,249	民		(千円) 7,249	
		都道府県 (B)	(千円) 3,625				
		計 (A+B)	(千円) 10,874			うち受託事業等 (再掲)	
		その他 (C)	(千円) 0			(注2) (千円) 7,249	
備考 (注3)							

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業							
	(大項目) 資質の向上 (中項目) 地域包括ケア構築のための広域的人材養成 (小項目) 認知症ケアに携わる人材の育成のための研修事業							
事業名	【No.5 2 (介護分)】 認知症サポーター活動促進事業			【総事業費 (計画期間の総額)】 765 千円				
事業の対象となる医療介護総合確保区域	桑員地域・三泗地域・鈴亀地域・津地域・伊賀地域・松阪地域・伊勢志摩地域・東紀州地域							
事業の実施主体	三重県							
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日							
背景にある医療・介護ニーズ	認知症サポーターは全国で約1千万人以上、三重県でも19万人以上が養成されている。認知症診断後の心理面・生活面の早期からの支援として、市町村が地域として把握した認知症の方の悩みや家族の身近な生活支援ニーズ等と認知症サポーターを中心とした支援者をつなぐ仕組みとして「チームオレンジ」を地域ごとに整備する必要がある。							
	アウトカム指標：県内のチームオレンジを整備した市町（令和3年度：2市町）を令和4年度末までに8市町以上にする。							
事業の内容	一定水準以上の知識や支援技術を兼ね備えたオレンジ・チューターを活用しながら、市町が配置したコーディネーターやチームオレンジのメンバー等に対する研修を実施するなど、チームオレンジの市町実施に対する側面的な支援を行う。							
アウトプット指標	県内のオレンジチューター養成数を令和4年度までに7名にする（令和3年度：2名）。全市町を対象に、オレンジチューターによる「コーディネーター研修」を実施し、県内6市町にオレンジ・チューターの派遣を行う。							
アウトカムとアウトプットの関連	令和元年6月18日認知症施策推進関係閣僚会議において決定された「認知症施策推進大綱」では、2025年（令和7年）までの間に全市町村でチームオレンジを整備するという目標が掲げられている。オレンジチューターを派遣することにより、市町におけるチームオレンジの整備につなげる。							
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	公 民	(千円)	
		基金	国 (A)				(千円)	(千円)
			都道府県 (B)				(千円)	510
			計 (A+B)				(千円)	うち受託事業等 (再掲) (注2) (千円)
		その他 (C)		(千円)			0	510
備考 (注3)								

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業								
	(大項目) 資質の向上 (中項目) 地域包括ケア構築のための広域的人材養成 (小項目) 地域包括ケアシステム構築・推進に資する人材育成・資質向上事業								
事業名	【No. 5 3 (介護分)】 後見申立支援研修(地域包括ケアセンター職員の資質向上事業)				【総事業費 (計画期間の総額)】 550千円				
事業の対象となる医療介護総合確保区域	桑員地域・三泗地域・鈴亀地域・津地域・伊賀地域・松阪地域・伊勢志摩地域・東紀州地域								
事業の実施主体	一般社団法人 三重県社会福祉士会								
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日								
背景にある医療・介護ニーズ	中核機関を担う後見サポートセンターや地域包括支援センターの役割の中に、後見申立支援があるがまだ十分に活用されていない状況にある。「成年後見制度の利用の促進に関する法律」(平成二十八年法律第二十九号)の趣旨も踏まえ、要介護者の権利擁護の推進のため人材を育成する必要がある。初めて申立て業務を担当する行政や社協、包括の職員へ理解を深め、資質の向上を図る。								
	アウトカム指標: この研修を受講した方が実際の業務にて成年後見の申立を行うときに役立つかどうかをアンケートを実施しにて確認していく。その結果、役立つと答える方が70%を超えることを目指す。								
事業の内容	中核機関を担う後見サポートセンターや地域包括支援センター職員等が成年後見の申立て支援ができるよう研修を行う。今年度はオンラインで多くの地域から参加しやすい方法で案内をし、演習はグループワークにて個々人に分かりやすく説明する時間を確保していく。								
アウトプット指標	後見申立支援研修 (40名×2回=80名)								
アウトカムとアウトプットの関連	研修を通し、制度理解の促進と後見制度実施体制の充実を図ることにより、後見業務を円滑に進めることを可能にする。								
事業に要する費用の額	金額	総事業費		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	公	(千円)		
		(A+B+C)		550			民	(千円)	
		基金	国(A)			(千円)			うち受託事業等(再掲) (注2) (千円)
			都道府県(B)			(千円)			
			計(A+B)			(千円)			
その他(C)		(千円)	138						
備考(注3)									

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業							
	(大項目) 資質の向上 (中項目) キャリアアップ研修の支援 (小項目) 地域包括ケアシステム構築・推進に資する人材育成・資質向上事業							
事業名	【No.5 4 (介護分)】 医療・介護連携を推進するための人材の資質向上研修				【総事業費】 467 千円			
事業の対象となる医療介護総合確保区域	桑員地域・三泗地域・鈴亀地域・津地域・伊賀地域・松阪地域・伊勢志摩地域・東紀州地域(尾鷲地域・熊野地域)							
事業の実施主体	三重県看護協会 各地区支部 (県内 9 地区で実施)							
事業の期間	令和 4 年 4 月 1 日～令和 5 年 3 月 3 1 日							
背景にある医療・介護ニーズ	長寿社会となり、生活習慣病、慢性疾患の増加する中、病気と上手に付き合い重症化させず、日常生活を送ることが必要となっている。 看護協会では看護職の専門性を生かし、県民の健康づくりのサポートとして「まちの保健室」を地区支部単位で開催してきた。 相談内容は身体の不調や病気、生活習慣病予防、フレイル・介護予防、食生活栄養、薬、介護など日常生活全般についてであり、単体の医療機関等での治療やケアでは完結していない現状がある。そのため、地域の社会資源や医療と介護の連携の現状を把握した上で相談業務にあたる必要がある。 看護職が日々変化する制度や地域の社会資源情報の知識、より高い相談技術などが求められる。このサポートを充実させ効果あるものとするため担当者への研修会が必要となる。							
	アウトカム指標：身体の不調や病気、生活習慣病予防、フレイル・介護予防、食生活栄養、薬、介護など日常生活全般についての多様な県民のニーズに応える看護職員が増加することを目指す。							
	事業の内容							
事業の内容	身体の不調や病気、生活習慣病予防、フレイル・介護予防、食生活栄養、薬、介護など日常生活全般の相談に応じられるよう看護職を育成する。							
アウトプット指標	看護職の相談支援研修会：9 回 (各地区 1 回), 参加者 10 人×9 か所=90 人 研修会内容：各地域における地域包括ケアの実際、相談面接、慢性疾患の予防、紹介できる社会資源内容など							
アウトカムとアウトプットの関連	地域の看護職が地域包括ケアシステムの理解と具体的な相談指導ができることで、地域住民が住み慣れた地域において、誰もが必要な訪問看護サービスが受けられ、人生の最期まで安心して自分らしい生活を実現できる体制を整備することができる。							
事業に要する費用の額	金額	総事業費		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注 1)	(千円)		
		(A+B+C)		467		公民	(千円)	
		基金	国 (A)				(千円)	(千円)
			都道府県 (B)				(千円)	うち受託事業等 (再掲) (注 2)
			計 (A+B)				(千円)	(千円)
その他 (C)		(千円)	117					
備考 (注 3)								

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業							
	(大項目) 資質の向上 (中項目) 地域包括ケア構築のための広域的人材養成 (小項目) 地域包括ケアシステム構築・推進に資する人材育成・資質向上事業							
事業名	【No.55 (介護分)】 認知症高齢者の住み慣れた地域で暮らし続けるための地域共生社会構築に向けた多職種連携、資質向上事業				【総事業費 (計画期間の総額)】 718千円			
事業の対象となる医療介護総合確保区域	桑員地域・三泗地域・鈴亀地域・津地域・伊賀地域・松阪地域・伊勢志摩地域・東紀州地域							
事業の実施主体	県内の事業者団体							
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日							
背景にある医療・介護ニーズ	地域密着型サービスが認知症ケアの主流となる中、地域の介護力に格差が生じつつあり、『認知症ケアの基本』がおざなりとなってきたところがある。個々の単一事業所で抱え込まず、多職種とのスムーズな連携による、継続的な見守りと安定した支援の向上は、今の認知症の人を取り巻く大きな課題である。							
	アウトカム指標：地域の介護力を高め、適切に医療と連携し、認知症の人の生活の質を向上させるための勉強会、意見交換会等の開催							
事業の内容	認知症の人が、出来る限り住み慣れた家で暮らし続けることができるよう、地域にある多職種専門職が共通の認識と理念を共有し、地域とともに生活支援を実践できるよう人材の育成とスキルの向上を目指す。地域の介護力を高め、適切に医療と連携し、認知症の人の生活の質を向上させるための勉強会、意見交換会等の開催。							
アウトプット指標	勉強会開催回数 5回、各回参加者を 60名予定							
アウトカムとアウトプットの関連	認知症介護に係る認識の共有を目指し、多職種が関わり、共に意見交換できる場を創設。三重県全域を対象とした学びの場と、連携型認知症疾患医療センターの担当区域別の交流を通じて地域連携を目指し、認知症の方の生活の質の向上を図る。							
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	(千円)		
		基金	国 (A)			(千円)	民	(千円)
			都道府県 (B)			(千円)		359
			計 (A+B)			(千円)		うち受託事業等(再掲)(注2)
		その他 (C)		(千円)		180	(千円)	
備考(注3)								

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業							
	(大項目) 資質の向上 (中項目) 地域包括ケア構築 (小項目) 権利擁護人材育成事業							
事業名	【No. 5 6 (介護分)】 成年後見人研修			【総事業費 (計画期間の総額)】 1,718 千円				
事業の対象となる医療介護総合確保区域	桑員地域・三泗地域・鈴亀地域・津地域・伊賀地域・松阪地域・伊勢志摩地域・東紀州地域							
事業の実施主体	一般社団法人 三重県社会福祉士会							
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日							
背景にある医療・介護ニーズ	①成年後見人研修：意思決定支援や死後事務、財産管理や相続など専門職後見人に求められる知識を深め、資質の向上を図ることが求められている。 ②親族支援研修：成年後見制度の理解を深め、親族後見人としての役割の中で、財産管理や家庭裁判所への報告書の作成等の知識を深め、実践に役立てることが求められている。							
	アウトカム指標：資質向上の研修会後のアンケートにてこの研修が今後の業務に役立つと答える方が70%を超えることを目指す。							
事業の内容	現在後見業務を行っている社会福祉士、弁護士、司法書士等専門職後見人や市民後見人親族等を対象に被後見人等にとって本当に役に立つ後見活動ができるよう、研修を行う。 また、後見申し立てを近い将来検討しなければならない親族を対象に後見制度に関する研修や相談を行う。							
アウトプット指標	① 成年後見人支援研修 (30名×8箇所) ② 親族支援研修 (30名×3箇所)							
アウトカムとアウトプットの関連	研修を通し、制度理解の促進と後見制度実施体制の充実を図ることにより、後見業務を円滑に進めることを可能にする。							
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	(千円)		
		基金	国 (A)			(千円)	民	(千円)
			都道府県 (B)			(千円)		858
			計 (A+B)			(千円)		うち受託事業等 (再掲) (注2)
		その他 (C)		(千円)		430	(千円)	
備考 (注3)								

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業						
	(大項目) 資質の向上 (中項目) 地域包括ケア構築のための広域的人材養成 (小項目) 権利擁護人材育成事業						
事業名	【No. 5 7 (介護分)】 成年後見制度利用支援事業			【総事業費 (計画期間の総額)】 695 千円			
事業の対象となる医療介護総合確保区域	桑員地域						
事業の実施主体	桑名市 (桑名市社会福祉協議会に委託)						
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日						
背景にある医療・介護ニーズ	成年後見制度に対する需要の高まりに伴う担い手不足などにより、市民後見人への期待が高まりつつある。基礎となる知識や経験のない一般市民が成年後見人として活動するには、知識や経験の提供に加え、継続的な知識習得のためのフォローアップ講座の開催をはじめとしたバックアップ体制の整備が不可欠である。						
	アウトカム指標：法律、福祉の各分野の専門的知識や経験のある委員からの助言を得ることにより、より広い視野でのバックアップが行える。						
事業の内容	市民後見人フォローアップ講座の実施や、市民後見人の活動やその支援体制について、事務局、運営委員会にて検討し、仕組みを構築していく。						
アウトプット指標	<ul style="list-style-type: none"> ・フォローアップ研修の開催 (市民後見人および養成講座修了生 28 人対象、年 1 回開催) ・福祉後見サポートセンター運営委員会の開催 (年 4 回×委員数 10 名) 						
アウトカムとアウトプットの関連	研修を通し、制度理解の促進と後見制度実施体制の充実を図ることにより、後見業務を円滑に進めることを可能にする。						
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	公	(千円)
		基金	国 (A)	(千円)		民	(千円)
			都道府県 (B)	(千円)			347
			計 (A+B)	(千円)			うち受託事業等 (再掲) (注2) (千円)
		その他 (C)		(千円)			347
備考 (注3)							

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業						
	(大項目) 資質の向上 (中項目) 地域包括ケア構築のための広域的人材養成 (小項目) 認知症高齢者等権利擁護人材育成事業						
事業名	【No. 58 (介護分)】 介護サービス相談員等研修支援事業			【総事業費 (計画期間の総額)】 1,012 千円			
事業の対象となる医療介護総合確保区域	桑員地域、三泗地域、鈴亀地域、津地域、伊賀地域、松阪地域、伊勢志摩地域、東紀州地域						
事業の実施主体	三重県						
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日						
背景にある医療・介護ニーズ	介護施設・サービス事業所や有料老人ホーム・サービス付き高齢者向け住宅での虐待の未然防止や介護サービスの質の向上等を図るため、介護サービスの質の向上、認知症対策を始めとした利用者及び家族の権利擁護の促進、地域包括支援センターを中心とする地域包括ケアに関わる一員となるなどの役割が求められている介護サービス相談員を増加させる必要がある。						
	アウトカム指標：介護サービス相談員を増やすことで、介護施設・サービス事業所等での虐待の未然防止や介護サービスの質の向上等を図る。(県内事業実施市町数：13 (令和4年度末))						
事業の内容	介護施設・サービス事業所や有料老人ホーム・サービス付き高齢者向け住宅での虐待の未然防止や介護サービスの質の向上等を図るため、介護サービス相談員等研修に係る経費を支援する。						
アウトプット指標	介護サービス相談員研修養成研修：10名参加 介護サービス相談員研修現任研修Ⅰ・Ⅱ：15名参加						
アウトカムとアウトプットの関連	介護サービス相談員研修受講者を増加させることにより、県内の介護サービス相談員を増やし、介護施設・サービス事業所や有料老人ホーム・サービス付き高齢者向け住宅での虐待の未然防止や介護サービスの質の向上等が図られる。						
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	公	(千円)
		基金		(千円)		民	(千円)
		国 (A)		(千円)			0
		都道府県 (B)		(千円)			うち受託事業等 (再掲) (注2)
		計 (A+B)		(千円)		0	(千円)
その他 (C)		(千円)	0				
備考 (注3)							

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業						
	(大項目) 資質の向上 (中項目) 地域包括ケア構築のための広域的人材養成 (小項目) 介護予防の推進に資する専門職種の指導者育成事業						
事業名	【No.59 (介護分)】 リハビリテーション専門職を対象とした人材育成研修				【総事業費】 170千円		
事業の対象となる医療介護総合確保区域	桑員地域・三泗地域・鈴亀地域・津地域・伊賀地域・松阪地域・伊勢志摩地域・東紀州地域						
事業の実施主体	三重県言語聴覚士会						
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日						
背景にある医療・介護ニーズ	高齢者の認知症や、脳卒中後の高次脳機能障害など、生活に及ぼす影響が多岐にわたる疾患や後遺症を持った方が在院日数の短縮や在宅療養の推進により、今後ますます地域に増加することが予想されている。地域での生活を継続して行えるよう支援・指導していくためには、リハビリテーション専門職の専門性を磨くことが必要である。						
	アウトカム指標：多職種で学ぶ機会があることで、自らの専門性以外の支援の視点に気づき、より深いアセスメントができ、よりよい支援に反映させることが出来る。その結果、本人及び家族が望む生活を支えるアプローチを習得し、地域での生活を想定した支援・指導を行うことができるリハビリテーション専門職を育成する。						
事業の内容	介護予防を推進するにあたり、多職種でそれぞれの専門性を再確認するとともに、他の専門分野についても学ぶ研修会を開催し、包括的な支援や指導が行える人材を育成する。						
アウトプット指標	研修を1回開催し、受講者数を50名とする。						
アウトカムとアウトプットの関連	多職種で専門的な知識の学習を行うことで、自らの専門性以外の視点、支援方法に気づき、地域ケアを行う専門職が協力して支援することができる。また、地域での生活を想定した支援・指導を行うことができる。						
事業に要する費用の額	金額	総事業費		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	公	(千円)
		(A+B+C)		170		民	(千円)
	基金	国 (A)		(千円)		85	うち受託事業等(再掲)(注2) (千円)
		都道府県 (B)		(千円)			
		計 (A+B)		(千円)			
その他 (C)		(千円)	43				
備考(注3)							

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業						
	(大項目) 資質の向上 (中項目) 地域包括ケア構築のための広域的人材養成 (小項目) 介護予防の推進に資する専門職種の指導者育成事業						
事業名	【No.60 (介護分)】 高齢者の就労・社会参加に向けた安全と体力づくり支援				【総事業費】 449千円		
事業の対象となる医療介護総合確保区域	桑員地域・三泗地域・鈴亀地域・津地域・伊賀地域・松阪地域・伊勢志摩地域・東紀州地域						
事業の実施主体	一般社団法人 三重県理学療法士会						
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日						
背景にある医療・介護ニーズ	高齢者雇用安定法の改正法施行により、働く高齢者が増え、60歳以上の雇用者数は過去10年間で1.5倍に増加している。労働災害発生率は、若年層に比べ高齢層で相対的に高い。また介護予防・日常生活支援総合事業において、元気な高齢者が生活支援の担い手として活躍することも期待されている。高齢者が安心・安全に就労・社会参加といった社会的役割を持つことは、生きがいや介護予防にもつながる。						
	アウトカム指標：高齢者の就労・社会参加に向けた安全と体力づくりに貢献できる指導者を育成する。講座を開催し、①作業負荷軽減、②転倒防止策、③高齢者に適した体力評価、④体力づくり・腰痛予防を学ぶ。						
事業の内容	高齢者の就労継続や生活支援の担い手といった社会参加の支援として、高齢者の就労・社会参加に向けた安全と体力づくりに貢献できる指導者育成講座を開催する。内容は①作業負荷軽減、②転倒防止策、③高齢者に適した体力評価、④体力づくり・腰痛予防とする。対象はリハビリテーション専門職に加え、県内企業、医療・介護施設、地域包括支援センター、行政機関等とする。幅広い対象者に参加してもらうために、講座は動画で閲覧できるようにし、アンケート回答を持って修了とする。						
アウトプット指標	講座受講30名を目標とする。						
アウトカムとアウトプットの関連	多様な層において高齢者の特性についての理解が促進される。また高齢者が安全・安心に社会参加できる環境づくりが構築され、生きがいや介護予防につながることを期待できる。						
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	(千円)	
		基金	国 (A)	(千円)		224	うち受託事業等 (再掲) (注2) (千円)
			都道府県 (B)	(千円)		112	
			計 (A+B)	(千円)		336	
		その他 (C)	(千円)	113			
備考 (注3)							

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業	
	(大項目) 資質の向上 (中項目) 地域包括ケア構築のための広域的人材養成 (小項目) 介護予防の推進に資する専門職種の指導者育成事業	
事業名	【No.6 1 (介護分)】 地域リハビリテーション支援スキルアップ事業	【総事業費】 100 千円
事業の対象となる医療介護総合確保区域	桑員地域・三泗地域・鈴亀地域・津地域・伊賀地域・松阪地域・伊勢志摩地域・東紀州地域	
事業の実施主体	一般社団法人 三重県作業療法士会	
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日	
背景にある医療・介護ニーズ	2015年の国勢調査では三重県の高齢者人口の割合は27.9%、2040年には36.9%と推計されており、高齢になるほど認知症の有病率も上がるとされており、2040年に三重県の認知症高齢者は11.9万人で、12人に1人は認知症と推計されている。 地域の保健医療福祉機関、場所、事業が連携して、高齢者や認知症の人が安心して住み続けられる地域を目指した支援体制を構築していくことが喫緊の課題とされている。そのための戦略として、医療・施設に所属するリハビリテーション専門職、また、自治体や地域の関係団体と連携して、地域における高齢者・認知症の人の支援に寄与する専門的知見・経験を有した支援者を養成することが必要である。	
	アウトカム指標：リハビリテーション専門職の人材育成及び質の向上が図られ、地域における多様な主体、場所、事業が連携して、高齢者や認知症の人が安心して住み続けられる地域を目指した支援体制の構築に向け地域でリハビリテーション専門職が適切に活用されている。	
事業の内容	県内のリハビリテーション専門職・その他高齢者支援に携わる者を対象として、研修・勉強会を、講義・ディスカッション形式により実施する。①認知症リハビリテーションスキルアップ研修会（1回） ②介護予防リハビリテーション多職種研修会（2回）	
アウトプット指標	認知症支援スキルアップ研修会への参加 50名 介護予防リハビリテーション多職種研修会 30名	
アウトカムとアウトプットの関連	① 認知症リハビリテーションスキルアップ研修会 地域における認知症の人の支援活動に参画できる人材を育成し、地域リハビリテーションへの参画を促進することにより、認知症の人が安心して住み続けられる地域づくりを進めることができる。 ②介護予防リハビリテーション多職種研修会： 介護予防事業等の高齢者健康生成的支援において、活動・参加に向けた支援、意思決定や目標設定に係る支援の質を高め、多職種協働による地域リハビリテーション支援の質の向上を目指す。いくつかの地域における介護予防・総合支援事業などに向けた取り組みについて職種による視点の違いを共有し、ディスカッションを取り入れて学びを深める。	

事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A + B + C)		(千円) 100	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	公	(千円)
		基金	国 (A)	(千円) 50		民	(千円) 50
			都道府県 (B)	(千円) 25			うち受託事業 等 (再掲) (注 2) (千円)
			計 (A + B)	(千円) 75			
		その他 (C)	(千円) 25				
備考 (注3)							

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業							
	(大項目) 資質の向上 (中項目) 地域包括ケア構築のための広域的人材養成 (小項目) 介護施設等における防災リーダー養成等支援事業							
事業名	【No.62 (介護分)】 介護施設等防災リーダー養成支援事業				【総事業費 (計画期間の総額)】 1,000 千円			
事業の対象となる医療介護総合確保区域	桑員地域・三泗地域・鈴亀地域・津地域・伊賀地域・松阪地域・伊勢志摩地域・東紀州地域							
事業の実施主体	三重県							
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日							
背景にある医療・介護ニーズ	介護施設等は、自力避難困難な方が多く利用されていることから、利用者の安全を確保するため、災害に備えた十分な対策を講じることが必要である。							
	アウトカム指標：介護職員が、災害発生時において、現場で避難のタイミングなどを判断することができるようになる。							
事業の内容	介護職員向けに、防災知識を習得するための研修を行う。							
アウトプット指標	介護職員向けに、防災知識を習得するための研修を、年1回開催する。							
アウトカムとアウトプットの関連	災害発生時において、現場で避難のタイミングなどを判断するための防災知識を、介護職員に習得してもらう。							
事業に要する費用の額	金額	総事業費		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	公	(千円)	
		(A+B+C)		1,000				
		基金	国 (A)			(千円)		666
			都道府県 (B)			(千円)		(千円)
			計 (A+B)			(千円)		うち受託事業等 (再掲) (注2)
その他 (C)		(千円)			(千円)			
			0					
備考 (注3)								

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業							
	(大項目) 労働環境・処遇の改善 (中項目) 長期定着支援 (小項目) 介護職員長期定着支援事業							
事業名	【No.63 (介護分)】 若手職員定着のための対人関係向上研修				【総事業費 (計画期間の総額)】 833 千円			
事業の対象となる医療介護総合確保区域	桑員地域、三泗地域、鈴亀地域、津、伊賀地域、松阪地域、伊勢志摩地域、東紀州地域							
事業の実施主体	社会福祉法人三重県社会福祉協議会							
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日							
背景にある医療・介護ニーズ	介護人材需給推計では、令和5年度の介護職員の需要見込みは、34,128人であるが、供給見込みは33,693人であり、435人の需給ギャップが生じると推計されている。							
	アウトカム指標：県内の介護職員数32,285人（令和2年度）を令和5年度までに34,128人にする。							
事業の内容	若手職員の定着率向上（離職防止）のため、様々な人と良好な関係を形成できる能力を身に付けるための研修会などに係る経費を支援する。							
アウトプット指標	各回30名程度が参加する勉強会を年2回開催する。							
アウトカムとアウトプットの関連	研修会を通じて、若手職員が良好な対人関係の形成に必要な能力を習得することで、定着率向上による介護従事者の確保につながる。							
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	公	(千円)	
		基金	国 (A)			(千円)	民	(千円)
			都道府県 (B)			(千円)		416
			計 (A+B)			(千円)		うち受託事業等 (再掲) (注2)
		その他 (C)		(千円)		209	(千円)	
備考 (注3)								

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業							
	(大項目) 労働環境・処遇の改善 (中項目) 長期定着支援 (小項目) 介護職員長期定着支援事業							
事業名	【No.6 4 (介護分)】 介護事業所の提供サービスの向上とそこで働く職員の働き甲斐の強化や福祉理念の労使ともに共有するための研修事業。				【総事業費 (計画期間の総額)】 365 千円			
事業の対象となる医療介護総合確保区域	桑員地域・三泗地域・鈴亀地域・津地域・伊賀地域・松阪地域・伊勢志摩地域・東紀州地域							
事業の実施主体	県内の事業者団体							
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日							
背景にある医療・介護ニーズ	介護人材需給推計では、令和5年度の介護職員の需要見込みは、34,128人であるが、供給見込みは33,693人であり、435人の需給ギャップが生じると推計されている。							
	アウトカム指標：県内の介護職員数31,763人（令和元年度）を令和5年度までに34,128人にする。							
事業の内容	高齢者福祉の担い手不足による提供サービスの質の低下を防ぐため、労使ともに共通の福祉理念をかかげ、共に改善できる職場を学ぶ機会を設ける。また、現場の声を集約し、それぞれの立場から現場の抱える課題を話し合い、現場力の改善と向上を目指す働きかけを実施する。							
アウトプット指標	事業所に課せられた業務としてのサービス評価、運営推進会議、外部評価に対する事業所並びにそこに働く者が、適切に業務を理解し目標として協働できる場を共に考える機会を作ること。事前に困難事例を抽出し、専門職による評価とアドバイスを年度内に2回開催。 参加者数；各30名 合計60名							
アウトカムとアウトプットの関連	域密着型サービス事業の抱える人材難は、小規模なゆえに非常に厳しい現状の中、今持つ人材に働き甲斐を構築し、長期の就労に結び付け、介護人材の流出を抑制する							
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	(千円)		
		基金	国 (A)	(千円)		公	(千円)	
			都道府県 (B)	(千円)			民	(千円)
			計 (A+B)	(千円)				うち受託事業等 (再掲) (注2) (千円)
		その他 (C)	(千円)	92				
備考 (注3)								

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業						
	(大項目) 労働環境・処遇の改善 (中項目) 人材育成力の強化 (小項目) 新人介護職員に対するエルダー、メンター制度等導入支援事業						
事業名	【No.6 5 (介護分)】 エルダー・メンター養成研修				【総事業費】 283 千円		
事業の対象となる医療介護総合確保区域	桑員地域・三泗地域・鈴亀地域・津地域・伊賀地域・松阪地域・伊勢志摩地域・東紀州地域						
事業の実施主体	県内の事業者団体						
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日						
背景にある医療・介護ニーズ	介護人材需給推計では、令和5年度の介護職員の需要見込みは、34,128人であるが、供給見込みは33,693人であり、435人の需給ギャップが生じると推計されている。						
	アウトカム指標：県内の介護職員数 32,285人（令和2年度）を令和5年度までに34,128人にする。						
事業の内容	新人介護職員に対する定着支援のためのエルダー・メンター制度等を整備しようとする事業者に対する制度構築のための研修にかかる経費を支援する。						
アウトプット指標	三重県内介護事業所、施設介護職員対象 1回開催2日間 受講人数30名						
アウトカムとアウトプットの関連	新人職員にマンツーマンで教育・指導するエルダー・メンター制度の導入を支援することで、介護職員の人材育成力強化と職場への定着につなげる。						
事業に要する費用の額	金額	総事業費		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	公	(千円)
		(A+B+C)		283		民	(千円)
		基金	国 (A)			(千円)	うち受託事業等(再掲)(注2) (千円)
			都道府県 (B)			(千円)	
			計 (A+B)			(千円)	
その他 (C)		(千円)					
			71				
備考(注3)							

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業							
	(大項目) 労働環境・処遇の改善 (中項目) 勤務環境改善支援 (小項目) 管理者等に対する雇用管理改善方策普及・促進事業							
事業名	【No.66 (介護分)】 管理者等に対する雇用管理改善方策普及・促進事業			【総事業費】 1, 877 千円				
事業の対象となる医療介護総合確保区域	桑員地域・三泗地域・鈴亀地域・津地域・伊賀地域・松阪地域・伊勢志摩地域・東紀州地域							
事業の実施主体	県内の事業者団体、介護事業所等							
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日							
背景にある医療・介護ニーズ	介護人材需給推計では、令和5年度の介護職員の需要見込みは、34,128人であるが、供給見込みは33,693人であり、435人の需給ギャップが生じると推計されている。							
	アウトカム指標：県内の介護職員数32,285人（令和2年度）を令和5年度までに34,128人にする。							
事業の内容	管理者等に対する具体的な雇用管理改善方策に取り組むための研修の実施や働きやすい職場づくりのための経費を支援する。							
アウトプット指標	セミナーを5回開催し、参加者を200名とする。							
アウトカムとアウトプットの関連	管理者等に対する雇用管理改善方策を普及することで、介護職場の労働環境を整備し、介護職員の定着を図る。							
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	(千円)		
		基金	国 (A)	(千円)		公	(千円)	
			都道府県 (B)	(千円)			民	(千円)
			計 (A+B)	(千円)				うち受託事業等 (再掲) (注2)
		その他 (C)	(千円)	470		(千円)		
備考 (注3)								

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業							
	(大項目) 労働環境・処遇の改善 (中項目) 勤務環境改善支援 (小項目) 管理者等に対する雇用管理改善方策普及・促進事業							
事業名	【No.67 (介護分)】 管理者等に対する雇用管理改善方策普及・促進事業 (雇用管理相談)			【総事業費】 2,461 千円				
事業の対象となる医療介護総合確保区域	桑員地域・三泗地域・鈴亀地域・津地域・伊賀地域・松阪地域・伊勢志摩地域・東紀州地域							
事業の実施主体	県内の事業者団体、介護事業所等							
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日							
背景にある医療・介護ニーズ	介護人材需給推計では、令和5年度の介護職員の需要見込みは、34,128人であるが、供給見込みは33,693人であり、435人の需給ギャップが生じると推計されている。							
	アウトカム指標：県内の介護職員数32,285人（令和2年度）を令和5年度までに34,128人にする。							
事業の内容	社会保険労務士等が、介護事業所を訪問して管理者に対する労働法関係法令の理解や人事マネジメントの構築、キャリアパスの相談・指導を実施して、雇用管理の改善を行う。							
アウトプット指標	専門家による訪問相談を11事業所に行う。							
アウトカムとアウトプットの関連	管理者等に対する雇用管理改善方策を普及することで、介護職場の労働環境を整備し、介護職員の定着を図る。							
事業に要する費用の額	金額	総事業費		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	公 民	(千円)	
		(A+B+C)		2,461			1,230 1,230 うち受託事業等(再掲) (注2) (千円)	
		基金	国(A)	(千円)				1,230
			都道府県(B)	(千円)				615
			計(A+B)	(千円)				1,845
その他(C)	(千円)	616						
備考(注3)								

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業						
	(大項目) 労働環境・処遇の改善 (中項目) 勤務環境改善支援 (小項目) 管理者等に対する雇用管理改善方策普及・促進事業						
事業名	【No.68 (介護分)】 介護ロボット導入支援事業			【総事業費 (計画期間の総額)】 371,877千円			
事業の対象となる医療介護総合確保区域	桑員地域・三泗地域・鈴亀地域・津地域・伊賀地域・松阪地域・伊勢志摩地域・東紀州地域						
事業の実施主体	県内の介護サービス事業所						
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日						
背景にある医療・介護ニーズ	介護人材需給推計では、令和5年度の介護職員の需要見込みは、34,128人であるが、供給見込みは33,693人であり、435人の需給ギャップが生じると推計されている。						
	アウトカム指標：県内の介護職員数31,763人（令和元年度）を令和5年度までに34,128人にする。						
事業の内容	介護従事者の身体的負担の軽減や業務の効率化など、介護従事者が継続して就労できるような環境整備を図るために必要な介護ロボット導入等にかかる経費の一部を支援する。						
アウトプット指標	80事業所に対し、介護ロボットの導入支援を行う。						
アウトカムとアウトプットの関連	介護ロボットの活用により、介護職員の身体的負担の軽減や業務の効率化を図ることで、離職防止・定着促進を進めていく。						
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	公	(千円)
		基金	国 (A)	(千円)		民	(千円)
			都道府県 (B)	(千円)			198,334
			計 (A+B)	(千円)			うち受託事業等 (再掲) (注2)
		その他 (C)	(千円)	74,376		(千円)	
備考 (注3)							

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業							
	(大項目) 労働環境・処遇の改善 (中項目) 勤務環境改善支援 (小項目) 管理者等に対する雇用管理改善方策普及・促進事業							
事業名	【No.69 (介護分)】 ICT 導入支援事業			【総事業費 (計画期間の総額)】 125,109 千円				
事業の対象となる医療介護総合確保区域	桑員地域・三泗地域・鈴亀地域・津地域・伊賀地域・松阪地域・伊勢志摩地域・東紀州地域							
事業の実施主体	県内の介護サービス事業所							
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日							
背景にある医療・介護ニーズ	介護人材需給推計では、令和5年度の介護職員の需要見込みは、34,128人であるが、供給見込みは33,693人であり、435人の需給ギャップが生じると推計されている。							
	アウトカム指標：県内の介護職員数31,763人(令和元年度)を令和5年度までに34,128人にする。							
事業の内容	介護分野における生産性向上を図るため、介護記録・情報共有・報酬請求等の業務の効率化につながるICTの導入経費の一部を支援する。							
アウトプット指標	60事業所に対し、ICTの導入支援を行う。							
アウトカムとアウトプットの関連	ICTの活用による業務の効率化を図ることで職場環境を改善し、離職防止・定着促進を進めていく。							
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	(千円)		
		基金	国 (A)	(千円)		公	(千円)	
			都道府県 (B)	(千円)			民	(千円)
			計 (A+B)	(千円)				うち受託事業等 (再掲) (注2) (千円)
		その他 (C)	(千円)	25,022			(千円)	
備考 (注3)								

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業						
	(大項目) 労働環境・処遇の改善 (中項目) 勤務環境改善支援 (小項目) 雇用管理体制の改善に取り組む事業者表彰事業						
事業名	【No. 7 0 (介護分)】 働きやすい介護職場応援制度構築事業			【総事業費】 5,235 千円			
事業の対象となる医療介護総合確保区域	桑員地域・三泗地域・鈴亀地域・津地域・伊賀地域・松阪地域・伊勢志摩地域・東紀州地域						
事業の実施主体	三重県 (三重県社会福祉協議会に委託)						
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日						
背景にある医療・介護ニーズ	介護人材需給推計では、令和5年度の介護職員の需要見込みは、34,128人であるが、供給見込みは33,693人であり、435人の需給ギャップが生じると推計されている。						
	アウトカム指標：県内の介護職員数32,285人(令和2年度)を令和5年度までに34,128人にする。						
事業の内容	勤務環境の改善に取り組んでいる事業所に証明書を交付して公表することで、介護職場のイメージアップを図り、新規参入促進・定着を支援する。						
アウトプット指標	宣言を15事業所が実施。						
アウトカムとアウトプットの関連	職場環境の改善に取り組む事業所を評価することで、参入促進・定着を支援し、介護従事者の確保を図る。						
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	公	(千円)
		基金	国 (A)	(千円)		民	(千円)
			都道府県 (B)	(千円)			うち受託事業等 (再掲) (注2)
			計 (A+B)	(千円)			(千円)
		その他 (C)		(千円)			3,490
		0					
備考 (注3)							

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業							
	(大項目) 労働環境・処遇の改善 (中項目) 緊急時介護人材等支援 (小項目) 新型コロナウイルス流行下における介護サービス事業所等のサービス提供体制確保事業							
事業名	【No. 7 1 (介護分)】 介護サービス事業所等支援事業			【総事業費 (計画期間の総額)】 1,212,063 千円				
事業の対象となる医療介護総合確保区域	桑員地域・三泗地域・鈴亀地域・津地域・伊賀地域・松阪地域・伊勢志摩地域・東紀州地域							
事業の実施主体	三重県							
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日							
背景にある医療・介護ニーズ	介護サービスは、要介護高齢者等やその家族の日常生活の維持にとって必要不可欠なものであるため、新型コロナウイルスの感染等によりサービス提供に必要な職員が不足した場合でもサービスの継続が求められている。							
	アウトカム指標：新型コロナウイルスの感染等による緊急時のサービス提供に必要な介護人材を確保し、職場環境の復旧・改善を支援するとともに、平時から緊急時に備えた応援派遣体制を構築する。							
事業の内容	新型コロナウイルスの感染者が発生、または職員の応援派遣等を行った介護保険施設・事業所等に対し、通常の介護サービスの提供では想定されないかかり増し費用を助成するとともに、平時から介護保険施設等の関係団体等と連携・調整し、緊急時に備えた応援体制を構築する。							
アウトプット指標	かかり増し経費については、交付申請のあった事業者に対し申請月の翌月に交付決定する。							
アウトカムとアウトプットの関連	介護保険事業者の安定的な運営に資するよう早急な対応を図る。							
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	(千円)		
		基金	国 (A)	(千円)		公	808,042	
			都道府県 (B)	(千円)			民	(千円)
			計 (A+B)	(千円)				うち受託事業等 (再掲) (注2)
		1,212,063	(千円)	(千円)				
その他 (C)	(千円)							
備考 (注3)								

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業								
	(大項目) 離島・中山間地域等支援 (中項目) 離島・中山間地域等介護人材確保 (小項目) 離島・中山間地域等における介護人材確保支援事業								
事業名	【No.72 (介護分)】 離島・中山間地域等介護人材確保支援事業			【総事業費 (計画期間の総額)】 6,860 千円					
事業の対象となる医療介護総合確保区域	桑員地域・鈴亀地域・津地域・伊賀地域・松阪地域・伊勢志摩地域・東紀州地域								
事業の実施主体	県内の介護事業所等								
事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日								
背景にある医療・介護ニーズ	介護人材需給推計では、令和5年度の介護職員の需要見込みは、34,128人であるが、供給見込みは33,693人であり、435人の需給ギャップが生じると推計されている。								
	アウトカム指標：県内の介護職員数32,285人（令和2年度）を令和5年度までに34,128人にする。								
事業の内容	人口減少や高齢化が急速に進んでいる離島や中山間地域等における介護人材の確保を支援するため、地域外から介護サービス事業所・施設への就職を促進するため、就職するために必要な費用を支援する。								
アウトプット指標	70名の就労につなげる。								
アウトカムとアウトプットの関連	地域外から就職するために必要な費用を支援することで、離島・中山間地域等の介護人材の確保を図る。								
事業に要する費用の額	金額	総事業費 (A+B+C)		(千円)	基金充当額 (国費) における 公民の別 (注1)	(千円)			
		基金	国 (A)			(千円)	公	(千円)	
			都道府県 (B)			(千円)		民	(千円)
			計 (A+B)			(千円)			うち受託事業等 (再掲) (注2) (千円)
		その他 (C)		(千円)		0			
備考 (注3)									